

大正六年陸軍第五七別冊共二

函	架	冊	類
---	---	---	---

WA 6

歐洲交戰諸國ノ陸軍ニ就テ(増補再版)

国立公文書館	
分類	
排架番号	2 A
	34-6
	① 2137

大正六年六月陸軍省印刷

2138

第一八號 陸軍ノ秘密ニ涉ル事項
他ニ轉載セザル様致候

曩ニ本年一月歐洲交戰諸國ノ陸軍ニ就キ調査シ得タル要點ヲ抄録シテ一般ノ狀況ヲ紹介セリ爾來戰爭ノ繼續ニ伴ヒ兵數、損傷、戰況其ノ他ニ於テ幾多ノ變更ヲ生シタルヲ以テ一部ノ補修訂正ヲ行ヒ之ニ新ニ調査セル項目ヲ加ヘテ爰ニ本版ヲ發刊ス固ヨリ十分ノ調査ト稱スルコト能ハサルヘキモ其ノ真相ヲ窺フニ於テ一助タルヲ得ムカ

大正六年六月於陸軍省

臨時軍事調査委員

歐洲交戰諸國ノ陸軍ニ就テ (増補再版)

目次

第一 交戰諸國兵力一覽表	
第二 交戰諸國人口、兵員、損傷、俘虜諸統計表	
第三 獨、奥軍ノ占領セシ地域及失ヒタル殖民地圖	
第四 歐洲戰爭戦況一覽圖	
第五 交戰諸國戦費一覽表	
第六 英、佛、獨國ノ新設シタル官廳	一頁
第七 交戰諸國兵員補充ノ概況	三
第八 交戰諸國ノ國民動員	三
第九 歐洲戦ニ於ケル兵器ノ趨勢	一九
第一〇 交戰諸國工業動員ノ實況概説	二七
第一一 歐洲戦ト通信ノ狀況	四一

- 第二 航空界ノ狀況 四七
- 第三 自動車ノ狀況 五九
- 第四 鐵道ノ狀況 六七
- 第五 船舶ノ狀況 七七
- 第六 獨國ニ於ケル被服需給ノ概況 八五
- 第七 交戰諸國國民給養ノ概要 九一
- 第八 獨國ノ代用品及廢品利用概説 九五
- 第九 交戰諸國ノ陸軍衛生 一〇五
- 第二〇 交戰諸國ノ軍馬ニ關スル事項 一〇七
- 第二一 交戰諸國ノ戰費 一一一
- 第二二 交戰諸國國民教育ノ狀況 一二七
- 第二三 交戰諸國婦人活動ノ概況 一三一
- 結論 一三一

六	07	一	六	六	六	月ノ...
一〇(正)	081	十	四	一〇	六	...
二五(正)	098	三二	三	二八
四八(正)	100	十	八
...

第一 交戰諸國兵力一覽表

大五六...

第二 交戦諸國人口、兵員、損傷、俘虜諸統計表 (其一)

大正六年五月調

區分	人口	壯丁數	召集員	召集員ノ人口ニ對スル比	召集員壯丁數ニ對スル百分比	平時兵員	召集員ニ對スル兵員比	戰場兵員	死傷	俘虜	死傷及俘虜ノ召集員ニ對スル比
露	一六、〇〇〇	二、四八〇	一、六〇〇	十人ニ一人	六五	一四二	十一倍	三六〇	五四〇	二〇〇	二人ノ内一人
英	四、五〇〇	八〇〇	五三〇	九人ニ一人	六六	二五	二十一倍	一五八	一三〇	一一	四人ノ内一人
佛	四、〇〇〇	七六八	六六〇	六人ニ一人	八六	七五	九倍	一八九	三五〇	三六	二人ノ内一人
伊	三、五〇〇	五八〇	三五〇	十人ニ一人	六〇	三〇	十二倍	一四六	四〇	五五	八人ノ内一人
白	七六〇		四〇	十九人ニ一人		五	八倍	一三	二〇	五	二人ノ内一人
塞	四六〇		七〇	七人ニ一人		八	九倍	一一	二五	二〇	三人ノ内二人
黑	五二										
羅	六〇〇		八〇	七人半ニ一人		一〇	八倍	一一	二〇	一七	二人ノ内一人
葡	五五〇					三					
獨	六、八〇〇	一、二四〇	一、一六〇	六人ニ一人	九三	八〇	十四倍半	三二七	三七六	五五	二人ノ内一人
埃	五、〇〇〇	九二〇	八七〇	六人ニ一人	九四	四二	二十一倍	一六四	三〇〇	一一六	二人ノ内一人
土	二、一三〇		二五〇	八人ニ一人		二五	十倍	三六	五〇	一五	四人ノ内一人
物	七五〇		一一〇	七人ニ一人		一〇	十一倍	五四	二〇	一	五人ノ内一人
備	四、七二一							四一	一一	〇・二	

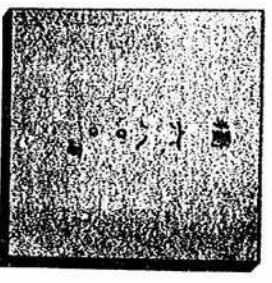
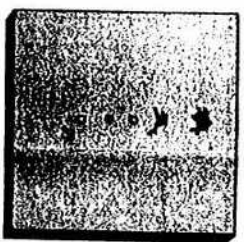
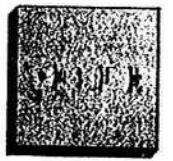
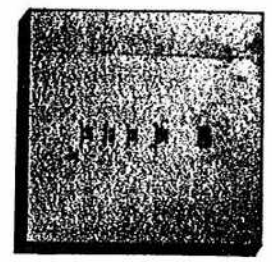
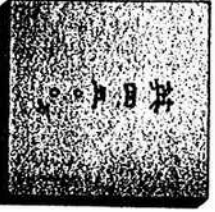
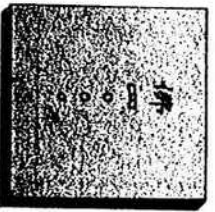
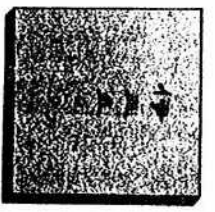
明治三十七年八月時ノ日本

一 本表ノ數字ハ各國軍機密ニ屬スルヲ以テ眞ニ實數ニ過キヌ又國軍ニヨリ調査ノ時期並精粗ヲ異ニスルモノアリ
 二 傷者中ニ計上セルモノニシテ快復ノ上戰場ニ在ルモノ多數アリ又數回負傷セルモノニシテ各別ニ傷者トシテ計上セラレルモノモアルヘシ

表計十統諸虜俘傷死員兵口入國諸敷交 二第 (二共)

口入

考
一、本表は、朝鮮半島の戦況を示すものである。二、本表は、戦況を示すものである。三、本表は、戦況を示すものである。四、本表は、戦況を示すものである。五、本表は、戦況を示すものである。六、本表は、戦況を示すものである。七、本表は、戦況を示すものである。八、本表は、戦況を示すものである。九、本表は、戦況を示すものである。十、本表は、戦況を示すものである。

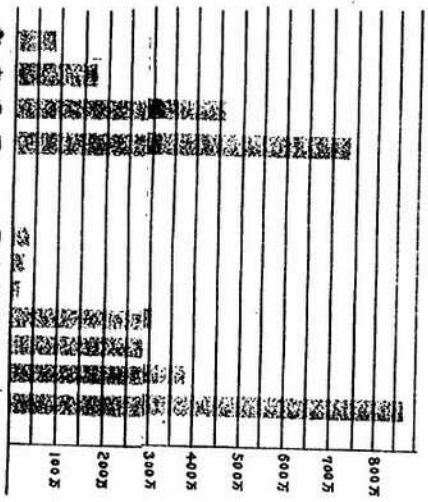


辛 比

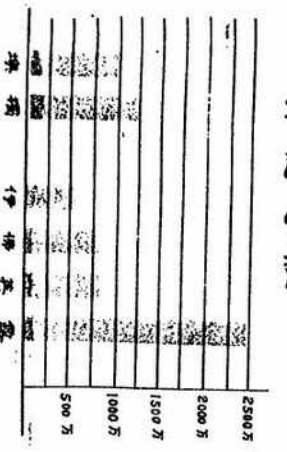
員總集召百毎口入



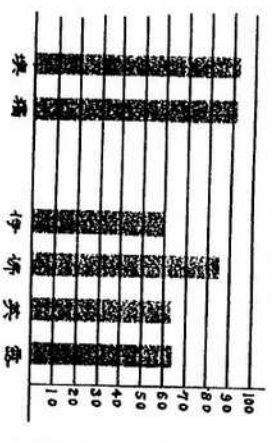
員兵總現



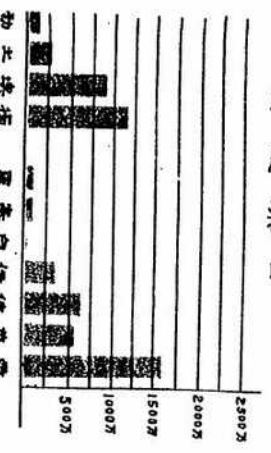
員總丁壯



員總集召百毎丁壯



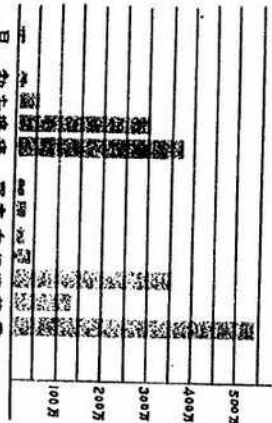
員總集召



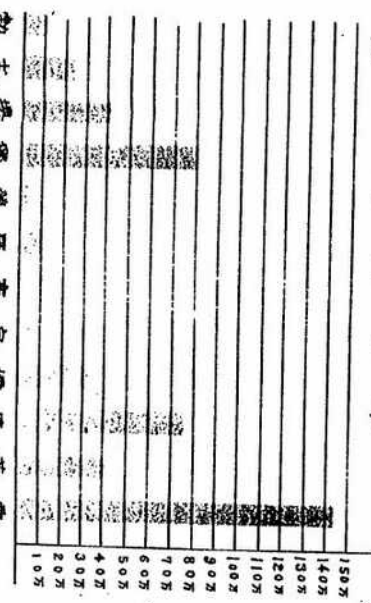
虜俘及病死百毎員總集召



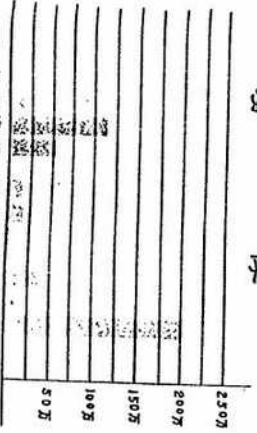
傷死



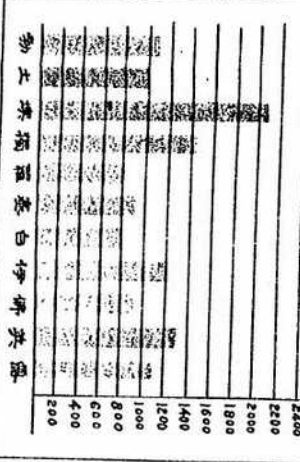
員兵時平



虜俘



員總集召百毎員兵時平

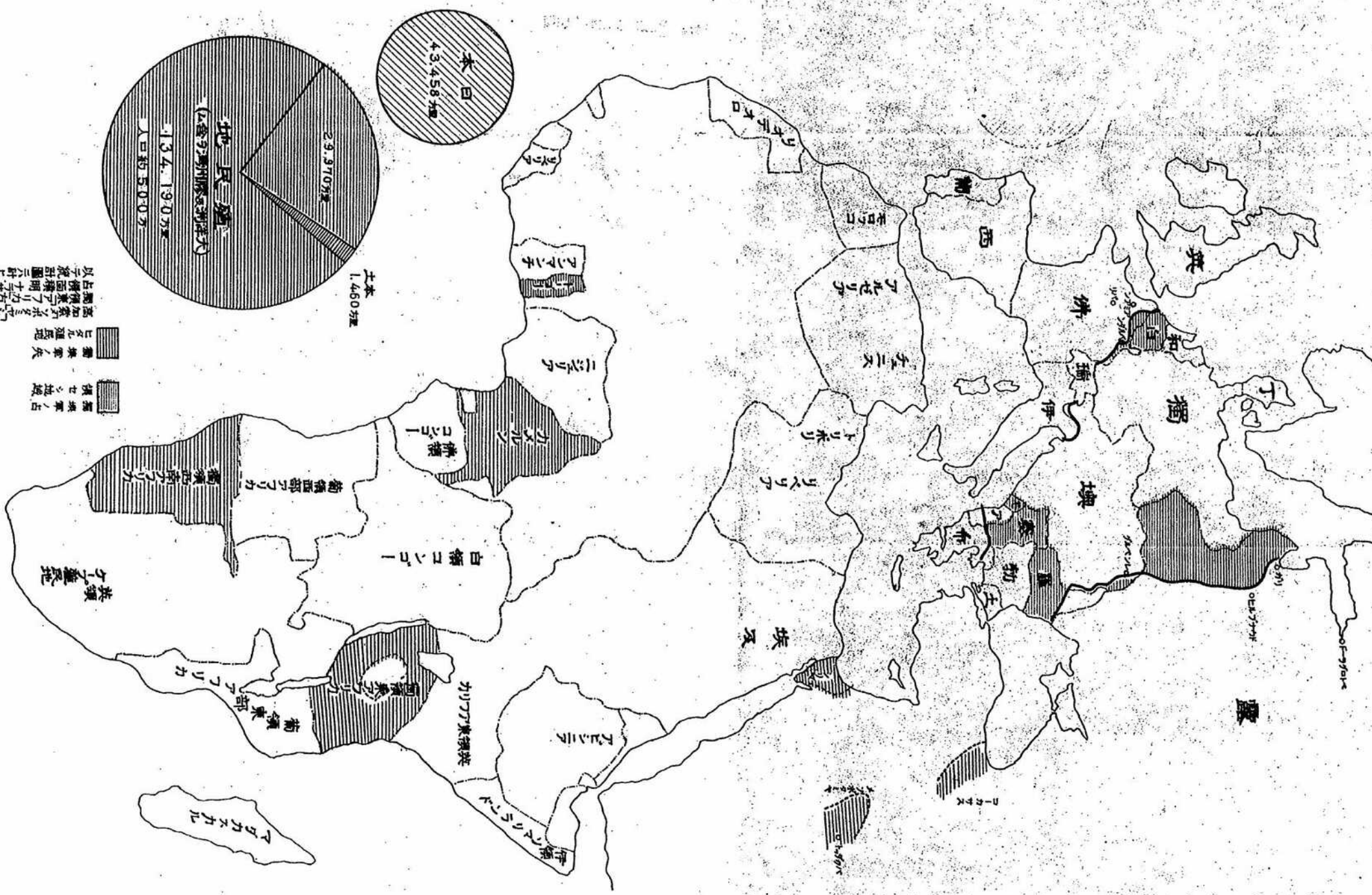


物七填獨刺羅表白伊併共露

物七填獨刺羅表白伊併共露

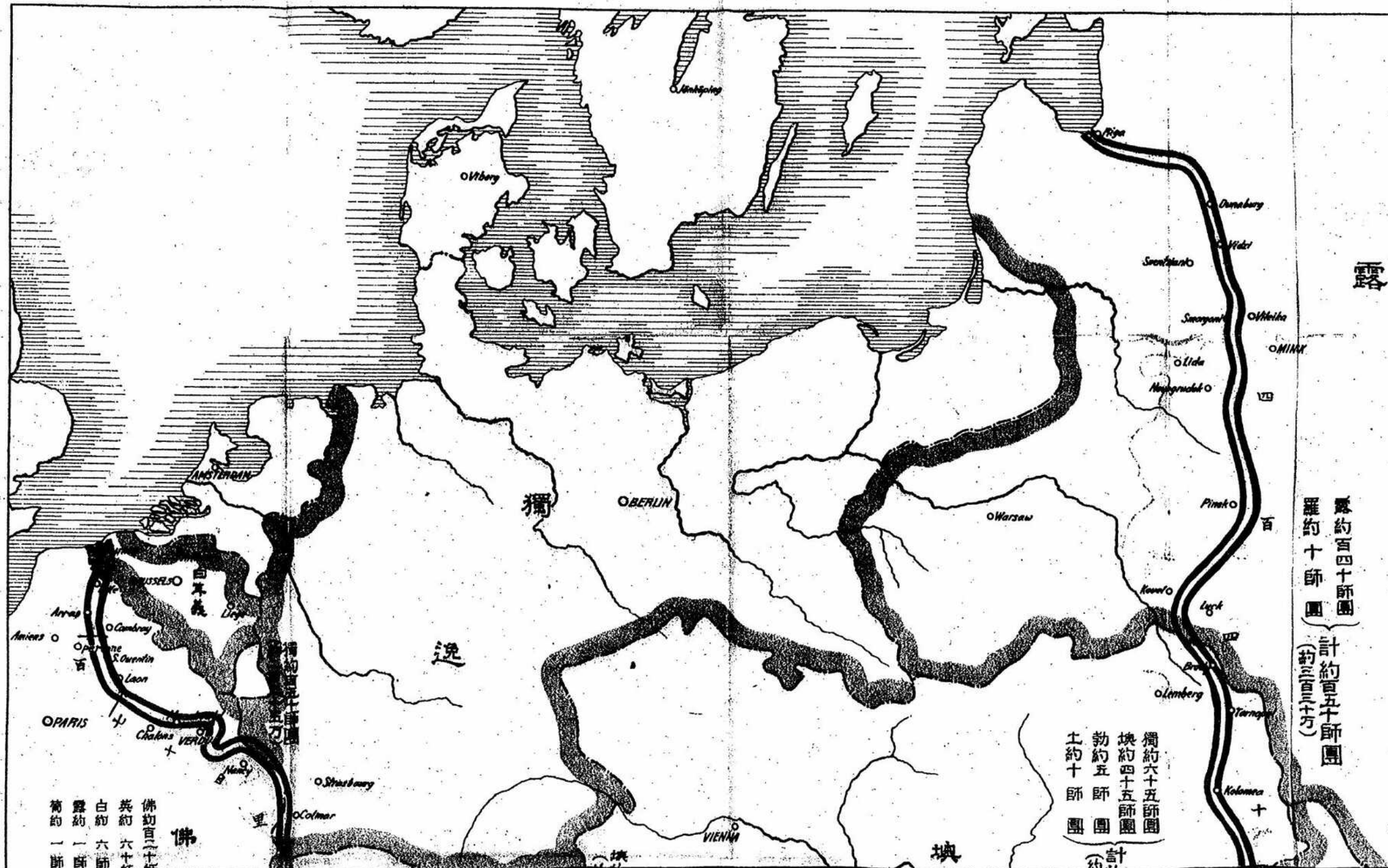
日 西暦

三第 獨境軍占ノ領地シテ域及ルキ種民地圖
 (大正六年五月五日)



三第 獨境軍占ノ領地シテ域及ルキ種民地圖

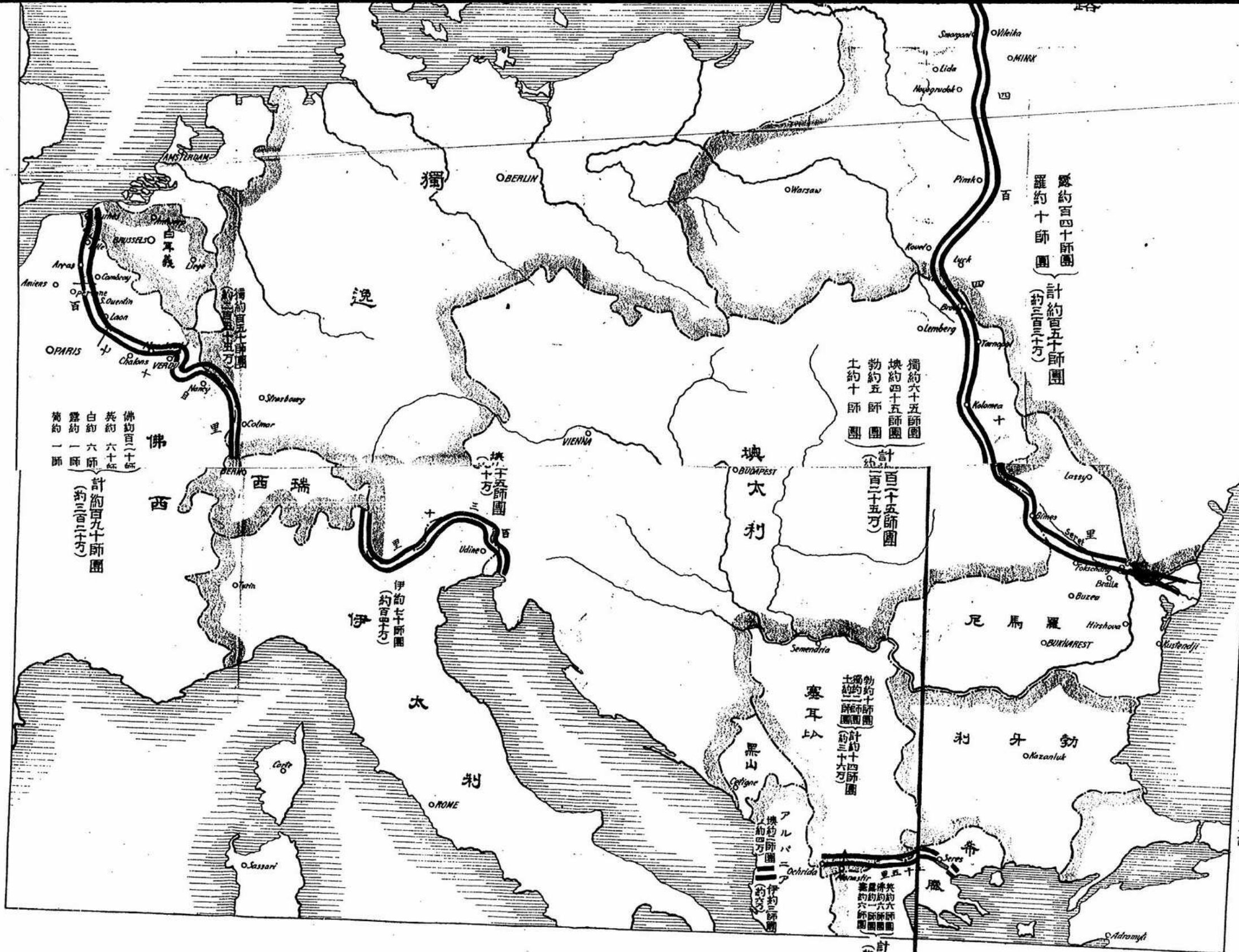
第四歐戰戰爭沉一覽圖



露

獨約六十五師團
塊約四十五師團
勃約五師團
土約十師團

佛約百四十師團
羅約十師團
計約百五十師團



獨約百四十師團
羅約十師團
(約三百二十方)

佛約百一十師團
英約六十師團
白約六十師團
露約一師團
計約百九十師團
(約三百二十方)

埃王亞師團
(約十方)

伊約七十師團
(約百十方)

獨約六十五師團
埃約四十五師團
勃約五師團
土約十師團
計約百二十五師團
(約二百二十五方)

獨約十師團
土約一師團
計約十一師團
(約三十四方)

佛約六師團
露約六師團
計約十二師團
(約三十七方)

大正六年五月調

第五 交戰諸國戰費一覽表 (天正六年五月調)

修正 交戰諸國戰費一覽表

國名	英國	佛國	露國	伊國	羅國	塞白國	聯合國	獨國	埃國	勃國	同盟側	計	交戰國合計	備考
自開戰至天正六年四月末戰費總額	三百餘萬	三百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	增加シアルヘシ
最近一日戰費支出額	三百餘萬	三百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	增加シアルヘシ
英國	三百餘萬	三百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	增加シアルヘシ
佛國	三百餘萬	三百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	增加シアルヘシ
露國	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	增加シアルヘシ
伊國	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	增加シアルヘシ
羅國	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	增加シアルヘシ
塞白國	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	增加シアルヘシ
聯合國	三百餘萬	三百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	增加シアルヘシ
獨國	三百餘萬	三百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	增加シアルヘシ
埃國	三百餘萬	三百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	增加シアルヘシ
勃國	三百餘萬	三百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	增加シアルヘシ
同盟側	三百餘萬	三百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	增加シアルヘシ
計	三百餘萬	三百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	增加シアルヘシ
交戰國合計	三百餘萬	三百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	二百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	三百餘萬	增加シアルヘシ
備考	英國獨國(日)戰費最近、支出額ナルモ其、他、從前ノ日額ナルヲ以テ本表ヨリ多少增加シアルヘシ													

第六 英、佛、獨國ノ新設シタル官廳

交戰諸國ノ兵力、兵器（銃砲、航空機、自動車等）彈藥ノ戰時ニ入りテ異常ニ膨脹シタル狀況ハ本書ニ掲ケタル所ナリ而シテ兵員、兵器、彈藥ニ關スル要務ト共ニ糧秣、軍需品ノ補給、運輸、衛生、封鎖若ハ輸出入、軍人ノ家族救濟、俘虜其ノ他作戰ノ要求、新戰闘法ノ趨勢ニ伴フ所ノ諸業務カ開戦以來各交戰國ヲ通シテ極メテ繁劇トナリ内ニ其ノ規模、結構ノ空前ナルモノ亦多シトス最近更ニ獨國ニ在リテハ祖國補助勤務法發布セラレ英國ニ在リテハ同性質ノ國民勞役法成リ佛國モ亦之ニ對應セムトシテ討議シツツアリ

以上軍國ノ多端ナル要務ヲ統轄セムカ爲交戰諸國ノ各カ或ハ既設官公廳ヲ擴張シ或ハ所要ノ機關ヲ創設シタリ左ニ英、佛、獨國ニ於ケル新設中央官廳並既設機關ヲ擴張シタルモノノ内重要ナルモノヲ掲ケテ比較對照ノ便ニ供ス

所管業務區分

兵器、彈藥、器材等ニ關スルモノ

封鎖ニ關スルモノ

労働、食糧、國民勞務ニ關スルモノ

海運ニ關スルモノ
航空ニ關スルモノ

恩給、救濟等ニ關スルモノ

衛生ニ關スルモノ

俘虜ニ關スルモノ

英國

兵器省

兵器彈藥省
内ニ彈藥次官及國防發明次官ヲ置ク

佛國

封鎖省

外務省内ニ封鎖次官ヲ置ク

獨國

國民勞務省

作業省(イ)

陸軍省戰時局
外ニ陸軍省經理局ヲ擴張ス
帝國被服局
帝國宰相ニ直隸ス
内務省ニ軍用給養品中央調達局ヲ置ク

労働省

労働運輸補給局
内ニ運輸次官及海上通商次官ヲ置ク(ロ)

食糧院
帝國宰相ニ直隸ス

食糧省

船舶省

陸軍省内ニ航空次官局ヲ置ク

平時既設ノ陸軍省航空課ヲ擴張ス

空中局
内閣ニ直隸ス

恩給省

陸軍省内ニ恩給、救濟、家族通報、戸籍、軍人相續部ヲ置ク

陸軍省恩賞及法務局ヲ擴張シ特ニ年金課、將校下士卒救濟課、遺族扶助課ヲ新設ス

陸軍省内既設機關ヲ擴張ス

陸軍省内ニ衛生次官局ヲ置ク

陸軍省醫務局ヲ擴張ス

陸軍省内ニ一機關ヲ置ク

俘虜總監部

陸軍省營舍局及中央情報局

備考 (イ)

佛國ノ作業省所管業務ハ未タ詳ナラサルモ既設他省ヲ併セ考察シ本表内相當欄ト認メタルモノノ内ニ收メタリ

(ロ)

佛國ノ海上通商次官ハ今年(千九百十七年)三月二十日ノ内閣更迭後ニ於テ其ノ所屬不明トナリタルモ從來ノ關係上労働運輸補給省内ニ收メ置キタリ

第七 交戦諸國兵員補充ノ概況

近世兵器其ノ他戦争技術ノ進歩ニ依リ戦争ノ勝敗ハ其ノ軍隊訓練ノ精度及兵數ノ多寡ニ關スルコト益顯著トナリ從テ各國共ニ軍隊ノ教育及兵數増加ニ努力スルニ至レリ之カ爲現今諸國軍ハ何レモ未曾有ノ戰鬥人員ヲ擁スルニ至リ又兵器ノ精銳ニ依ル死傷ノ増大ト激戰ノ頻發トニ依リ損傷補充ノ爲莫大ノ人員ヲ要スルヲ以テ兵員補充ノ問題ハ益重要ナル因子タルニ至レリ而モ戦争永續ノ結果交戦諸國何レモ其ノ補充資源漸ク涸渴セムトシ從テ種々ノ方策ヲ講シ苟モ戦争ノ勤務ニ堪フル者ハ一人モ空シクセサラムコトヲ努メ遂ニ或ハ紅顔ノ少年ヲ戦線ニ使用シ或ハ纖弱ノ婦女子ヲ戦地ノ補助勤務ニ使用スルニ至レリ以下各國兵員補充ノ概況ヲ述ヘムトス

一 豫備役、後備役及補充兵役者ノ召集

豫備役及後備役者ハ開戰當初ノ動員ニ於テ殆ト全部召集セラレタルハ言フ俟タス
補充兵役者モ平時ヨリ軍隊教育ヲ受ケタル者（以下之ヲ既教育ト稱ス）ハ亦第一ノ動員ニ於テ召集セラレ又未タ軍隊教育ヲ受ケサル者（以下之ヲ未教育ト稱ス）モ戦争ノ初期ニ補充隊ニ召集セラレテ一旦教育ヲ受ケ漸次戦線ニ使用セラレタリ

二 國民兵ノ召集

佛國ノ如キハ第一ノ動員ニ於テ既教育國民兵ノ大部ヲ召集セリ獨、埃ニ於テモ開戰當初ニ既教育國民兵ノ一部ヲ召集シ内地、兵站線等ノ守備ニ充テタリシカ戰場ノ擴大ト共ニ之ヲ第一線ニ使用スルニ至リ從テ殘餘ノ既教育國民兵モ漸次召集セララルニ至レリ
徵兵適齡以上ノ未教育國民兵モ漸次召集セラレ一旦教育ヲ受ケテ戰場ニ用キララルハ補充兵ト異ルコトナシ徵兵適齡以下ノ者ニ關シテハ次ニ述フ

三 徵集年次ノ繰リ上ケ

開戰前各國ノ徵集年次ハ皆等シク滿二十歳ナリキ然ルニ丁年以上ノ未教育國民兵ハ概ネ平時ノ徵兵檢査ニ於テ體格劣等ナリシ者ナルヲ以テ其ノ戰鬪能力ハ充分ナラサル所アリ之ニ反シ徵兵適齡ニ接近セル未丁年者ハ體格上及員數上未教育者中ノ最重要ナル分子ナリ從テ兵員補充ノ切迫ヲ豫想スルヤ各國共ニ徵集年次ヲ繰リ上ケ是等未丁年者ヲ徵集シ之カ教育ヲ開始シ逐次弱年次ノ者ニ及ホセリ今二、三ノ國ニ就キ其ノ徵集年月ノ概要ヲ示セハ左ノ如シ(年次ハ平時確定入營年ヲ示ス)

年次區分	佛	露	獨	埃
千九百十四年兵	千九百十四年九月	千九百十四年九月	千九百十四年十一月乃至十二月	千九百十四年十月

千九百十五年兵	千九百十四年十二月	千九百十五年一月	千九百十五年五月乃至六月	千九百十四年十月
千九百十六年兵	千九百十五年四月	千九百十五年八月	千九百十五年八月乃至九月	千九百十五年一月
千九百十七年兵	千九百十六年一月	千九百十五年十一月	千九百十六年二月乃至三月	千九百十五年四月
千九百十八年兵	千九百十七年四月	千九百十六年五月	千九百十六年七月乃至九月	千九百十六年十月
千九百十九年兵		千九百十七年二月	千九百十六年十二月以降	

即チ千九百十七年兵ニ就テ之ヲ見ルニ佛、露、獨ハ約二年、埃ハ二年半、千九百十八年兵ニ於テハ露、獨ハ約二年半、埃ハ約二年、佛ハ約一年半タケ平時ヨリ早ク入營セシメタルナリ

四 英國ノ徵兵令施行

英國ハ開戰後約一年半ニ至ル迄モ依然志願兵制度ヲ持續シ之ニ依リテ兎ニ角最初企圖セシ軍備ノ大擴張ヲ實施スルヲ得タリ然レトモ千九百十五年秋期ニ至ルヤ應募ノ景況頗ル不良トナリ到底戰場兵力ノ増加ヲ期シ得サルハ勿論損耗兵員ニ對スル補充サヘモ困難ナルノ狀ヲ示セリ是ニ於テ所謂「ダービー」募兵案ナル半強制的募集ヲ實施セシモ所望ノ兵員ヲ得ルノ見込ナク漸ク翌千九百十六年一月二十七日ニ至リ獨身者ノミニ對スル徵兵令ヲ制定シ滿十八歳ヨリ滿四十一歳ニ至ル迄ノ未婚男子及保育スヘキ小兒ヲ有セサル鰥夫ニ兵役服務ノ義務ヲ負ハシムルコトトセリ然レトモ作戰ノ情況ハ益多數ノ兵員ヲ要シ到底斯

ノ如キ偏頗ナル狹範圍ノ徵兵ニテハ之ニ應スル能ハサルヲ思ヒ遂ニ同年五月二十五日一般の徵兵令ヲ制定スルニ至レリ其ノ要項左ノ如シ

- (一) 滿十八歳ヨリ滿四十一歳ニ達スル迄ノ男子ニシテ大不列顛(即チ英本國中愛蘭ヲ除ク)ニ常住スル英國臣民ハ陸軍ノ兵役ニ服スルノ義務アリ但シ海軍兵服務希望者ニ在リテハ海軍省先ツ其ノ所要數ヲ採ル
- (二) 滿十九歳ニ達セサル者ニ對シテハ成シ得ル限り外國勤務ニ從事セシメス
- (三) 兵役服務者ニシテ其ノ服務期限滿了スル者ト雖本戰役間ハ更ニ引續キ兵役ニ服セシム

此ノ外兵役免除、徵兵延期及猶豫ニ關スル條項アルコト概ネ他列強ノモノニ類似ス

五 兵役年限ノ延長

獨國ニ於テハ滿十七歳ヨリ兵役ノ義務ヲ有スルカ故ニ未丁年者ヲ召集スルモ兵役年ヲ變更スルノ必要ナキモ露、佛ニ於テハ兵役ハ丁年ヲ以テ始マルカ故ニ徵兵適齡以前ノ者ノ徵集ハ兵役開始年限ヲ早メタルコトニ當ルヘシ又獨國ハ平時ノ兵役法ニ依リ又佛國ハ戰時特別ノ規定ヲ以テ戰争間兵役ノ轉移ヲ停止シタルヲ以テ開戰當時ノ最古年國民兵(獨國ハ滿四十五歳、佛國ハ滿四十八歳)ハ今尙兵役ニ在リ故ニ是等ハ兵役年限ヲ延長シタルノ形ヲ成ス斯ノ如ク如ク各國或ハ平時ノ法律ニ依リ又ハ戰時特別ノ規定ニ依リ兵役年限ハ事實上何レモ多少増大セルヲ見ルモ其ノ最甚シキモノハ埃匈國トス即チ同國兵役義務ハ開

戰前ハ滿十九歳ヨリ滿四十二歳迄ナリシニ千九百十五年五月ヲ以テ是等ノ兵役義務者悉皆ヲ召集シ盡シタルヲ以テ同月法律ヲ制定シテ兵役ヲ滿十八歳ヨリ滿五十歳迄ニ延長シ千九百十六年一月ニ至リ更ニ之ヲ滿五十五歳迄延長セリ伊國亦兵役最終年ヲ滿二十九歳ヨリ滿四十四歳ニ延長セリ

各國ノ開戰前及今日ニ於ケル兵役年限ヲ掲ケレハ次表ノ如シ

國名	開戰前年限	開戰後年限	摘
英國	至自 滿四十八歳	至自 滿四十八歳	英國開戰當初ハ依然志願兵制度ヲ持續セシモ千九百十六年一月ヲ以テ獨身者ニ對スル徵兵令ヲ發シ更ニ千九百十六年五月ニ於テ一般徵兵令ヲ布クニ至ル
佛國	至自 滿四十八歳	至自 滿四十七歳	
露國	至自 滿四十三歳	至自 滿四十七歳	
伊國	至自 滿三十九歳	至自 滿四十三歳	
獨國	至自 滿四十七歳	變化ナシ	
埃國	至自 滿四十九歳	至自 滿五十五歳	

備考 現ニ召集セラレ在ル者カ前記最終年ニ達スルモ戰役中ハ引續キ服務スルコト各國共通ナリ

六 徵兵延期、猶豫ノ停止及不可充要員ノ減少

各國ノ徵兵令ニ於テモ概ネ我カ國ノモノニ類スル徵兵延期及猶豫ノ規定アリ開戦ノ當初ニ於テハ依然此ノ規定ヲ持續セシモ兵員増徴ノ必要益増加スルニ從ヒ漸次中學校以上ノ諸學校在學者、家事故障者等ヲ召集シ又海外居住者ヲ召還スル等ノ處置ヲ講スルニ至レリ

又兵役義務者ト雖現ニ國家ノ爲緊要缺クヘカラサル職ニ在ル者ハ所謂不可充要員トシテ召集ヲ免セリ而モ本戰役ニ於テハ軍需品及國民給養等ノ重大問題アリテ此ノ範圍ハ甚タ大ニシテ戰闘ニ堪フ得ヘキ強壯ナル男子ノ之ニ吸收セララルル數決シテ尠カラス是ニ於テ各國共漸次婦人及年齡、體格上兵役ニ服シ得サル男子ヲ以テ之ニ代用シ之ニ依リテ更ニ兵員ノ増徴ニ努メ遂ニ最近ニ至リテハ英、佛、獨ノ如キハ所謂國民動員ヲ實施シ強制若ハ半強制ニ依リテ此ノ實ヲ舉ケムコトヲ期スルニ至レリ

七 兵役免除者ノ再身體検査

平時ノ徵兵検査ニ於テ不合格(我カ丁種)ナリシ者又ハ平時服役中傷疾疾病ノ爲ニ兵役免除トナリシ者モ年月ノ經過ト共ニ身體ノ發育又ハ治療ノ結果兵役ニ堪フルニ至リシ者アリ又兵員補充ノ必要上平時ノ合格例規ヲ一層低下スルノ必要ヲ生シ一方ニハ又戰時勤務ノ中ニハ身體ニ故障アル者ニモ堪フル仕事ナキニアラス而シテ此等ノ仕事ヲ強壯ナル者ニテ充ツルハ戰線ノ兵力ヲ減シ不經濟ナルヲ以テ各國共ニ兵役免除者ノ再身體検査ヲ行ヒ健康程度比較的良好ナル者ハ再ヒ兵役ニ就カシムルニ至レリ之ヲ最早ク實

施シタルハ佛國ニシテ既ニ千九百十四年十二月ニ之ヲ行ヒタリ次ハ埃國ニシテ千九百十五年六月、七月ノ頃ニ之ヲ始メ獨國ハ千九百十五年九月ニ兵役免除者身體再検査ニ關スル法律ヲ制定シ直ニ實施ニ著手セリ其ノ他露國亦之ヲ實施シ英國モ千九百十七年四月初之ニ關スル法律ヲ制定セリ斯クテ各國共ニ苟モ何等カノ軍務ニ堪フル者ハ一人モ餘サス召集スルノ勢トナレリ

八 志願兵ノ募集

義務兵役制ヲ採用セル國ニシテ志願兵應募ノ最盛ナリシハ獨國ニシテ開戦當時ノ如キ其ノ應募數二百萬ニ達セリト稱セリ其ノ他露、佛、埃共ニ此ノ方法ヲ採レリ然レトモ此等ノ諸國ニ於ケル志願兵ノ採用ハ本戰役ノ初期ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ後ハ法律ニ依リテ前諸項ノ如ク苟モ健康程度ノ兵役ニ堪フヘキ年齢及狀態ニアルモノハ悉皆舉ゲテ兵役ニ就カシムルニ至リシ結果目下ニ於テハ志願兵トシテ採用スルモノ殆トナカルヘシ

獨リ英國ニ於テハ既述ノ如ク兵役最終年滿四十一歳ニシテ他國ニ比シ著シク短ク兵員徵集ノ餘地大ナリ是ニ於テ千九百十七年五月十一日陸軍大臣ハ公布ヲ發シテ四十一歳ヨリ五十歳ニ至ル男子ノ志願兵募集ヲ開始シタリ是他列強ノ法律ニ依ル兵役年延長ト同一目的ニシテ唯之ヲ志願者募集トスルヲ異リトスルノミ

九 犯罪者ノ特赦

第七 交戦諸國兵員補充ノ概況

獨國ニ於テハ開戦後千九百十六年一月迄ノ間ニ左ノ如キ特赦ヲ行ヒ以テ直接間接ニ兵員ヲ増加シタリ

- (一) 收禁中ノ現役下士以下及同在郷下士以下ニシテ召集セラレタル者ノ大部
- (二) 收禁中ノ國民兵役下士以下ニシテ召集セラレタル者ノ大部
- (三) 收禁中ノ一般人民ニシテ其ノ刑輕易ナル者(概テ二年以下ノ刑但シ犯即ノ種類ニ制限ヲ附ス)
- (四) 逃亡其ノ他ニ依リ兵役義務ヲ缺キシ者ニシテ一定ノ期日迄ニ復歸自首シタル者
- (五) 戦役参加者ニ對シ輕罪(概テ五年以下ノ刑ニ當ル)及重罪一部ノ刑ヲ免除ス
- (六) 戦役参加者全部ニ對シ訴訟手續ヲ中止ス

一〇 海軍兵ノ陸戰使用

海軍ニ於テハ兵力ノ補充ヲ要スルコト陸軍ノ如ク大ナラサルカ爲佛國ノ如キハ率先其ノ豫、後備役兵卒ヲ陸軍ニ轉役セシメテ使用シ獨國ニ於テモ亦之ニ倣ヒタリ其ノ他海兵ヲ陸戰ニ使用スルコトハ各國共ニ之ヲ實行セリ

一一 外國人ノ使用

佛國ニハ外國人聯隊ナルモノヲ平時ヨリ組織シアリテ外國人ノ志願者ヲ募リ開戦後之ヲ戰線ニ使用シ其ノ成績見ルヘキモノアリト謂フ而シテ之カ補充ニハ依然トシテ外國人ノ志願者ヲ以テ之ニ充テアリ其ノ志願者モ亦尠カラスト傳フ英國ノ殖民地タル加奈陀及印度ノ軍隊ニ日本人ノ志願兵ヲ編入スル如キ亦此

ノ類ニ屬ス

又露軍カ俘虜ノ「スラーブ」人ヲ以テ俘虜師團ヲ編成シ獨國カ其ノ占領地ニ於テ波蘭軍隊ヲ編成セシ等ハ人ノ普ク知ル所ナリ

第八 交戦諸國ノ國民動員

茲ニ國民動員ト稱スルハ戰爭遂行ニ最有效ナル如ク一國ノ全人員ヲ統一使用シ得ルノ状態トナスヲ謂フナリ

開戦以來交戦諸國ハ諸種ノ手段ヲ盡シテ兵力ノ増大ト之ニ供給スル軍需諸品ノ豊富トヲ競フテ止マス此ノ結果各國ニ於ケル兵數ノ總人口ニ對スル比率及軍需品ノ製造額カ古來ノ戰役ニ見サル大ナル數字ヲ呈スルニ至レルハ卷首諸表ノ示スカ如シ

右兩事項ノ外諸官廳ノ業務、運輸通信、軍事工業ニ要スル諸原料ノ採取及精製、國民ノ給養等戰爭遂行ノ爲ニ緊要缺クヘカラサル業務アリテ此等ニ戰闘員タリ得ヘキ強壯男子ノ從事スル者亦決シテ尠カラス然ルニ他方ニ於テハ娛樂ノ諸機關、贅澤品及裝飾品ノ製造販賣其ノ他戰爭ノ遂行ニ關係ナキ事業ニ從事スル者多ク又無爲徒食ノ無職者モ尠カラス故ニ此等ニ對シ適當ナル人員ノ按配ヲ施セハ更ニ國軍ノ戰闘能力ヲ向上スルノ餘地アリ

是ニ於テ全國民ヲ舉ケテ直接戰闘勤務若ハ戰爭遂行ニ必須ナル事業ノミニ從事セシメトスル所謂國民動員ナルモノノ實施ヲ見ルニ至レリ即チ其ノ要領ハ全國民ノ使用權ヲ政府ノ手ニ收メ且國家若ハ國民ノ事業ヲ戰爭遂行ニ必須ナルモノト否ラサルモノトノ二ニ區分シ後者ニ屬スルモノハ全然之ヲ中止セシム

ルカ若ハ大ニ之ヲ縮少セシメ從來之ニ從事セシ人員及無職業者ヲ前者ニ注入シ茲ニ人員ノ餘裕ヲ得テ其ノ強壯ナル者ハ之ヲ戰鬥員ニ加ヘ否ラサル者ハ之ヲ適當ナル後方ノ軍務ニ使用セムトスルモノナリ

國民動員ヲ最初ニ實施セシハ獨國ニシテ即チ千九百十六年十二月五日祖國勤務補助法ト稱スル法律ヲ發布シ英國ハ法律制ニ依ラス先ツ志願制度ニ依リテ此ノ目的ヲ達セムトシ國民勞役ト稱シテ千九百十七年二月十二日ヨリ志願者ノ募集ヲ開始シ佛國ハ全然獨國ニ倣ヒ千九百十七年二月十日國民動員ト稱スル法律案ヲ議會ニ提出セシモ未タ通過スルニ至ラス此等三國ノ國民動員ハ其ノ目的トスル所ハ全然同一ニシテ其ノ趣旨前ニ述ヘタルカ如ク唯其ノ方法ニ多少ノ差異アルニ過キス

以下英、佛、獨三國ニ於ケル國民動員ノ内容ニ關シ其ノ要項ヲ略述セム

一 國民動員ノ業務ニ任スル機關

(一) 中央機關

獨國 陸軍省戰時局(本局ハ新設ナリ)

佛國 勞働省

英國 國民勞役省(新設)

(二) 地方機關

獨國 軍團管區、聯隊區等陸軍ノ諸管區ニ現存スル陸軍官衙ヲ主體トシ之ニ各管區毎ニ新設スル諸

詢機關タル委員會ヲ附ス

佛國 地方行政管區ニ現存スル官衙公署ヲ主體トシ之ニ新設委員會ヲ附スルコト獨國ニ同シ

英國 特ニ本目的ノ爲ニ全國ヲ若干管區ニ分チ之ニ國民勞役省ニ直屬スル官衙ヲ新設シ且現存スル

地方官衙公署ノ協力ヲ受ケ尙各地ニ委員會ヲ新設スルコト獨、佛兩國ノ趣旨ニ同シ

二 勤務ノ種類

獨、佛兩國ハ服務セシムヘキ必要ナル勤務トシテ極メテ概括的ニ之ヲ示シ英國ハ國民勞役省ヨリ緊要ナル職業トシテ極メテ細目ニ亘ル職業表ヲ示シ別ニ國防條例ニ依リテ戰爭ニ必要ナラサル職業ノ細目ヲ定メ之ヲ發表セリ

斯ノ如ク國ニ依リテ形式ヲ異ニスルモ服務セシムヘキ勤務ノ種類ヲ總括スレハ各國皆大同小異ニシテ直接軍務ヲ除ケハ概ネ左ノ如シ

官衙公署ノ業務

軍需品ノ製造及其ノ原料ノ採取、精製ニ關スル事業

農業、林業

運輸、通信

傷病者ノ治療及看護

其ノ他戦争遂行又ハ國民ノ生存及給養ニ關係アル業務

三 服務ノ方式

獨 國 男子ニ對シテハ強制服務ノ法律ヲ制定セリ然レトモ實行ニ方リテハ先ツ志願者募集ニ依テ之ヲ行ヒ若志願セサル者アルトキハ法律ノ定ムル權能ニ依リテ服務ヲ強制ス

婦人ニ對シテハ一切服務ヲ強制セス志願者ヲ募リテ服務セシム

佛 國 全然獨國ト其ノ趣旨ヲ同フス

英 國 一切強制的法律ヲ設ケス志願者募集ニ關スル規定ヲ設ケ且一般男子ヲ勸誘シテ應募セシム但シ首相ハ此ノ方法ニ依リテ目的ヲ達セサレハ更ニ強制的法律ヲ制定スヘシト警告セリ

婦人ニ對スル方式ハ獨、佛兩國ノモノニ同シ

之ヲ要スルニ男子ニ對シテハ強制若ハ半強制的ニシテ婦人ニ對シテハ三國共全ク各自ノ自由意思ニ任セリ

四 服務者ノ年齢

獨 國 滿十七歳ヨリ滿六十歳迄ノ男子

佛 國 滿十六歳ヨリ滿六十歳迄ノ男子

英 國 滿十八歳ヨリ滿六十一歳迄ノ男子

婦人ニ對シテハ三國共何等一般の制限ヲ規定セス但シ英、獨兩國ニ於テ特種ノ事業ニ婦人ヲ募集シタル例ヲ見ルニ常ニ其ノ業務ニ應ジテ適宜年齢ヲ制限セリ

五 召集法ノ大要

獨 國 告示ニ依リテ一定期限内ニ各自希望ノ業務ニ就カシム若期限内ニ就職セサル者アルトキハ其ノ地方ノ關係官署ニ於テ就職スヘキ箇所ヲ指命ス

就業者ノ移動ハ關係官廳ノ命スルモノノ外ハ雇主ノ承諾書ヲ有スルニアラサレハ各自隨意ニ行フヲ得ス

佛 國 各市町村役場ニテハ各自ノ申出ニ依リテ服務スヘキ男子ノ連名簿ヲ備フ

勤務ノ種類及場所ニ對スル人員ノ配賦ハ各省ノ要求ニ依リテ労働省之ヲ定メテ各地方ニ示達ス縣知事ハ管内ノ志願者カ右労働大臣示達ノ數ニ達セサレハ官命ヲ以テ所要ノ人員ヲ強制徵集ス

英 國 一般男子ハ國民勞務省ノ特製セル應募申込用紙牌ニ住所、氏名、年齢、希望スル職業等所要ノ記入ヲナシテ之ヲ郵送(無料)ス之ニ依リテ各地方管區ニ於テハ恰モ徵兵検査ノ如ク應募者ヲ適宜集合セシメ検査ノ後各自ノ職業ヲ決定シ之ニ關スル統計ヲ國民勞務省ニ報告ス

國民勞務省ニ於テハ各省ヨリノ要求ニ應ジテ人員ノ分配ヲ定メ之ヲ各地方管區ニ示達シ地方管區ハ之ニ依リテ所要ノ人員ニ召集令狀ヲ發シ任所ニ赴カシム

以上ハ昨千九百十六年末ヨリ本千九百十七年初期ニ亘リ獨、英兩國ノ實施シ佛國ノ將ニ實施セムトスル國民動員ノ大要ナリ其ノ方法ニ至リテハ各國同シカラスト雖其ノ目的トスル所ハ皆同一ニシテ之ニ依リテ國家ノ戰爭能方向上ニ更ニ大ナル效果ヲ呈スヘク茲ニ至リ始テ眞ニ國ヲ擧ケテ戰爭ニ從事スト謂フヲ得ヘシ

一八

第九 歐洲戰ニ於ケル兵器ノ趨勢

一 兵器一般ノ趨勢

科學工藝ノ進步シタル列強カ其ノ興亡ヲ賭シ未曾有ノ大兵ヲ動カシ二年半有餘ニ亘リテ相爭ヘル本戰役ニ在リテハ其ノ使用兵器及編制ニ及ホセル變化モ著大ニシテ事前ニ世人ノ想像セサリシモノ尠カラス而シテ其ノ最顯著ナルモノハ極度ニ機械力ヲ應用セルコトトス蓋シ一方ニ進步セル築城ハ之ヲ破壊スルニ強大ナル機械力ヲ要シ一方ニハ兵器ノ精銳ハ損傷ヲ大ニシ各國其ノ兵員ノ補充ニ苦ムヲ以テ成シ得ル限リ機械力ヲ以テ敵ノ損傷ヲ大ニシ同時ニ自軍ノ損傷ヲ減シテ兵力ノ缺ヲ補ハムトスルニ外ナラス即チ歩兵ニモ各種新兵器ヲ使用セシメテ其ノ戰鬥力ヲ増加シ又互ニ相競フテ砲兵ノ増加ニ努メ特ニ多數ノ大威力重砲ヲ増加シ且之ヲ有利ニ使用スル爲盛ニ航空機及自動車ヲ併用シ且新式ナル各種重砲特種砲ヲ考案使用セリ其ノ他毒瓦斯、火焰放射器、裝甲自動車及航空機ヨリ投下スル各種爆彈ヲ採用シ其ノ種類複雜ヲ極ム尙兵力ノ大ト戰鬥激烈ナル結果兵器ノ所要及消耗數量多大ニ達シ各國ハ其ノ補給ノ爲國內工業力ヲ傾ケテ其ノ生産ニ從事シ上下協力國力ヲ擧ケ且科學ノ粹ヲ集メテ以テ最後ノ勝利ヲ全フセムトスルノ状態ニアリ以下各種兵器ニ就キ概説セムトス

二 歩兵ノ使用スル兵器

第九 歐洲戰ニ於ケル兵器ノ趨勢

一九

歩兵ノ使用スル兵器ハ開戦前各國ヲ通シテ威力略同等ナル小銃、機關銃ノミナリシカ實戰ノ經驗ハ歩兵ニモ各種兵器ノ必要ヲ生シ現ニ列國歩兵ハ其ノ大隊ノ編制中ニ輕機關銃、銃榴彈、小口徑砲、迫撃砲ヲ加ヘ又多數ノ手榴彈ヲ携行セシムルニ至レリ

小銃ハ開戦後其ノ構造ヲ改正シタル國軍ナキモ現戰役ノ如ク戰期長キニ亘ルトキハ一タヒ負傷シタル者モ再ヒ恢復シテ戰線ニ加ハリ得ル場合多キヲ以テ今日ノ小銃ハ日露戰爭當時一般ニ唱道セラレタルモノト其ノ見解ヲ異ニシ威力大ニシテ負傷者カ再ヒ戰線ニ加ハルコトナク以テ速ニ戰局ヲ結ハシムル如クナスヲ以テ寧ロ人道ニ合スルモノトナシ極力其ノ威力ヲ増大スルコトヲ計リツツアリ

機關銃ノ必要ニシテ效力著大ナルハ本戰役ニ於テ各國共特ニ深ク之ヲ感シ其ノ數ヲ増加セリ即チ開戦前各國歩兵隊ノ有セシ機關銃數ハ一般ニ一大隊ニ二銃ノ比ナリシカ現在ニ於テ之ヲ五乃至八銃ニ増加シタルモノ多ク尙更ニ一大隊ニ八乃至二十四銃ノ輕機關銃ヲ増加セルモノアリ

又敵ノ機關銃及小ナル障礙ヲ破壞シ歩兵ノ前進ヲ容易ニスル目的ヲ以テ五珊乃至三十七密口徑ノ火炮及迫撃砲ヲ歩兵ノ編制ニ加フルモノ多シ此等ハ歩兵ト全然行動ヲ共ニシ得ル構造ヲ有セリ

近接戰闘ニ於テハ從來小銃及銃劍ヲ使用スルヲ一般トセシカ本戰役ニ於テハ尙手榴彈、銃榴彈ヲ盛ニ使用シ又短劍、棍棒ヲ使用スルモノ少カラス

要スルニ開戦前極メテ單一ナリシ歩兵ノ武裝モ本戰役ニ於テ複雜ナルヲ要スルニ至レリ

三 砲兵材料

開戦前各國ノ砲兵編制及其ノ使用火炮ハ區々ナルモ戰略單位内ニ有スル火炮ヲ師團ニ配當スレハ八十乃至六十門トス而シテ多クノ國ニ於テハ其ノ戰略單位内ニ野戰重砲ヲ有シタリ

以上ノ外列國ハ戰略單位以外ニ各種重砲ヲ準備セシモ其ノ使用兵器及其ノ砲兵力ニ至リテハ大差アリテ或ハ舊式材料ヲ有スル微弱ナル重砲兵ヲ有スルニ過キササルアリ或ハ試驗的ニ若干ノ新式重砲ヲ有セシ外舊式材料ト編制不十分ナル重砲兵ヲ有スルアリ或ハ特ニ此等ノ材料ノ準備セサルアリ或ハ之ニ反シ科學工藝ノ進歩ヲ利用シ未來ノ戰場ニ現出スヘキ兵器ノ考案ニ注意シ各種ノ重砲ヲ制定シ特ニ大口徑火炮ヲ全然秘密裡ニ準備シ開戦前既ニ統一セル新式重砲ノ多數ヲ準備セルモノアリ即チ開戦當初ニ於ケル交戰各國ノ重砲ハ其ノ威力ニ於テモ其ノ數ニ於テモ多大ノ差異ヲ有セリ

以上ノ如ク區々ナル砲兵裝備ヲ以テ一タヒ砲火ノ下ニ相見ルニ至ルヤ統一セラレタル優勢ナル砲兵就中曲射砲重砲ヲ準備シタルモノハ戰闘殊ニ強固ニ築設セラレタル陣地ニ據ル敵ニ多大ノ損害ヲ與ヘ又大口徑砲カ到ル處ニ敵國要塞ヲ粉塵シタル經驗ハ交戰諸國ニ曲射砲重砲ノ必要ヲ示シ尙續テ東西ノ戰場ニ重砲カ偉大ノ效果ヲ奏シ尙現在迄ノ戰況ハ砲兵力ヲ要求スルコト極メテ大ナルヲ以テ列國ハ此ノ種火炮ノ増加ニ努メツツアリ

使用火炮ハ制式準備火炮ノ外各國共ニ在庫品タル舊式材料、私立會社ニ存在シタル試製品、戰時急造品

並海岸砲、海軍砲ヲ蒐集使用シタル結果現在ニ於テハ使用砲種極メテ多大ニ達セリ此ノ如ク各國共ニ砲兵増加ニ苦慮シタルモ砲兵ノ増加ハ材料ノ準備ヲ要シ急速ニ進捗セシテ其ノ増加ノ割合常ニ歩兵ニ及ハスシテ開戦前優勢ナル砲兵ヲ準備シタル國軍モ其ノ歩兵ニ對スル割合ハ漸次減少スルノ已ムナキニ至リ益砲兵増加ノ必要ヲ生シ如何ニ平時ヨリ砲兵ヲ準備シ置クノ切要ナルカヲ感セシム

本戰役ニ於テ使用スル火炮ノ内開戦後各國ニ於テ採用セルモノハ自動車牽引ニ依ル火炮及列車砲トス自動車牽引ニ依ル火炮ハ大重量火炮ヲ分解シテ牽引スルモノト又自動車ヲ以テ從來ノ馬匹ニ代用シ完全ナル火炮及彈藥車ヲ牽引スルモノトニアリ前者ハ重量大ナル爲其ノ大ナル牽引力ヲ應用セルモノニシテ後者ハ馬匹ノ不足ヲ補フ爲自動車砲隊ヲ編制シタルモノトス

列車砲ハ極メテ大ナル火炮ヲ容易ニ運搬シ到ル處ニ於テ即時ニ砲火ヲ開始シ得ル如ク列車ニ裝備シタルモノニシテ現今ノ如ク航空機發達シテ敵ヨリ一タヒ其ノ位置ヲ確認セラレタル火炮ハ敵ノ砲火ニ浴スルノ已ムナキ場合ニ於テ此ノ種火炮ハ隨所ニ其ノ位置ヲ變シ得ルヲ以テ有利ニ使用セララル

近來航空機ト自動車ノ發達ハ大口徑大射程ノ火炮ヲシテ容易ニ戰闘ニ加入セシメ得ルニ至リシヲ以テ列國ハ益火炮ノ口徑、射程ノ増進ヲ企畫シ戰闘ノ慘害ハ極メテ遠距離ニ及フニ至レリ航空機射撃砲モ本戰役ニ於テ始テ實戰ニ使用セラレタルモノトス是航空機ノ使用頻繁トナリシヲ以テ之ニ對抗スルノ必要アルニ依ル然レトモ開戦前此ノ種火炮ハ猶試驗研究ノ時期ニ屬シ各國共其ノ材料ノ準備十分ナラサルニ反

シ航空機ノ跳梁ハ日ニ劇シキヲ加フルヲ以テ各國ハ或ハ制式野砲ニ簡單ナル設備ヲ施シ或ハ新式砲ヲ應用セルモノアリテ其ノ構造一定セサルモ各國努メテ新式砲ヲ製造シ以テ航空機ヲ防禦スルニ努ム

迫撃砲ハ日露戰役中既ニ使用セラレタルコトアルモ要塞戰ニ近邇セル本戰役ニ於テハ特ニ賞用セララル兵器ノ一ニシテ開戦當初ニ於テ要塞攻撃ニ使用シ偉功ヲ奏シテヨリ各國之カ製造ニ苦心シ現在ニ在リテハ重、中、輕各種迫撃砲ヲ使用シ從テ多數ノ迫撃砲隊ヲ編制セリ

四 各種新兵器ノ現出

前記開戦後新ニ採用シタル銃砲ノ外尙新兵器ノ現出尠カラズ今其ノ梗概ヲ左ニ述フ

- (一) 毒瓦斯
鹽素、臭素、沃度及其ノ化合物ノ如キ毒性瓦斯ヲ使用シ之ヲ敵方ニ送り又ハ砲彈、手榴彈ニ充填シ敵ヲ毒殺又ハ窒息セシメ或ハ眼ヲ刺激スルニ使用ス
- (二) 火焰放射器
揮發油ヲ蒸氣トナシ之ニ點火シ之ヲ敵ニ注キテ燒殺スルモノニシテ近距離戰爭ニ於テ賞用ス
- (三) 航空機用爆彈
航空機ヨリ投下シ或ハ人員ヲ殺傷シ或ハ建築物ヲ破壊ス此ノ種爆彈中ニ燒夷彈ト稱スルモノアリ高熱ヲ發スル燒夷劑ヲ填寫シ著達ノ際發火シ燒夷劑ニ點火シ燒夷ノ功ヲ奏スルモノナリ

(四) 装甲自動車

自動車ニ装甲シ之ニ小口徑火炮又ハ機關銃ヲ裝備シ戰闘ニ使用スルモノニシテ各國多ク之ヲ使用セリ又近迫戰ニ専用スル「タンク」ト稱スルモノアリ
以上ノ新兵器ハ敵ノ之ヲ知ラサル程其ノ效果大ナリ從テ此等新兵器ハ平時ヨリ秘密裡ニ其ノ研究ヲ進メ以テ未來ノ戰爭ヲ準備スルノ必要アリ

五 兵器ノ費消及補給ノ概況

本戰役ニ於テ交戰諸國カ共ニ最困難ヲ感シタルハ彈藥ノ補給トス即チ開戰前迄ハ何レノ國軍モ今日ノ如キ莫大ナル彈藥ノ費消ヲ豫想セサリシト交戰兵力ノ大ナルト兵器、築城進歩ノ結果攻防力ノ増加シタルト又其ノ交戰日數大ナル爲其ノ費消數莫大ニ達ス今一例ヲ以テ之ヲ對照スレハ左ノ如シ

- 普佛戰爭ニ於テ獨軍ノ總費消彈數 約八〇萬
- 日露戰爭中日本軍ノ總費消彈數 約一〇〇萬
- 同奉天會戰日本軍總費消數 約三〇萬
- 本戰役「マルヌ」會戰佛軍費消彈數 約九〇萬
- 同「シャンパーニュ」及「アルトア」會戰佛軍費消數 約七五〇萬
- 同「ソンム」會戰英、佛軍費消彈數 三、四〇〇萬

以上ノ費消彈藥補給ノ爲ニハ各國非常ニ困難ヲ嘗メ遂ニ相前後シテ工業動員ヲ實施スルニ至レリ其ノ詳細ハ本書第一〇交戰諸國工業動員ノ實況概説ノ部ニ示ス

第一〇 交戦諸國工業動員ノ實況概説

一通説

歐洲戰爭ハ其ノ規模廣大交戦諸國ハ未曾有ノ大兵ヲ動カシ相對戦スルコト既ニ三年ニ垂ムトス此ノ事既ニ軍需品補給ノ容易ナラサルヲ説明シテ餘リアリ然ルニ兵器ノ進歩ハ兵器ノ種類ヲ複雑ナラシメ殊ニ費消彈藥ノ莫大ナルハ専門家ト雖全ク豫想シ得ザリシ所ナリ是ヲ以テ主要交戦國ハ孰レモ其ノ國內ノ全工業力及工業用資源ヲ統一組織ノ下ニ一貫セル方針ヲ以テ戰時ノ要求就中軍需品補給ノ目的ニ適スル如ク糾合掌握スルニ至リ野戰軍ヲ以テ勝敗ヲ戰場ニ争フト同時ニ國內工業軍ノ整備充實ヲ競ヒ英國ノ如キ又佛國ノ如キ遂ニ獨立ノ一省ヲ設ケ獨國モ亦此ノ業務ノ爲陸軍省ノ編成ヲ平時ノ二倍乃至三倍ニ擴張シアリ

茲ニ注目スヘキハ從來國防ニ關シテハ頗ル冷淡ナリシ米國カ後節ニ述フル如ク歐洲戰ノ教訓ヲ最大規模ニ最機敏ニ自國ニ適用シ陸海軍ノ大擴張ヲ斷行スルニ決シタルノミナラス彼ノ盛大ナル工業及工業用資源ヲ必要ニ應シ動員セムカ爲國防會議及其ノ顧問委員ヲ中心機關トシ官民舉テ國防上ノ工業準備ニ熱中シ工業動員ノ計畫、調査及準備ニ於テ既ニ具體的ニ實踐ヲ舉ケツツアルコト是ナリ

以下主要交戦諸國ニ就キ工業動員ノ大要ヲ紹介セムトス但シ國民ノ勞働力ヲ極度ニ工業其ノ他ニ利用セ

ムトスル所謂國民動員ニ關シテハ別章ニ之ヲ詳述ス

二 英國

英國ハ平時ニ於テ出征六師團ニ對スル軍需品約八箇月分ヲ標準トシテ準備シアリタリ而シテ砲彈ノ準備ハ主トシテ榴霰彈ナリシト云フ然ルニ兵力ハ開戦八箇月後ニハ三倍強ニ、一箇年ノ後ニハ約六倍ニ、一箇年半ノ後ニハ約十倍ニ増加シ彈種ハ陣地戰トナリテヨリ殊ニ榴彈ノ多數ヲ要シ砲彈ノ費消數ノ如キモ平時夢想タニセサル莫大ナル數量ヲ要スルニ至レリ即チ兵數ハ増加急速ナリシモ兵器彈藥ノ平時準備及戰時補給之ニ伴ハス殊ニ戰爭ノ成績良好ナラサルハ砲彈就中榴彈ノ不足ニ在リトノ聲ハ漸次英國内ニ喧シク兵器彈藥ノ補給ハ終局ノ勝利ヲ得ル爲重大ナル問題ナルコト上一般ノ認ムル所トナリ國內製造力ヲ兵器彈藥ノ補給ニ糾合協力セシムル爲所謂工業動員ノ實施ヲ見ルニ至レリ

英國ニ於ケル工業動員ノ端緒ハ千九百十四年九月國防法ニ依リテ兵器製造ニ從事シアル會社ヲ政府ノ手ニテ管理スルノ權ヲ得タルニ在リテ其ノ後政府ノ工業統轄權能及組織ニ種々ノ變遷アリシモ最完全ナル工業動員實施狀態ニ組織ノ完備セシハ千九百十五年五月兵器省(トモ譯ス)ノ設置以後ニ在リ而シテ兵器大臣ハ國防法、兵器法及兵器省法ニ依リ所要ニ從ヒ民間工場ヲ徵發シテ「管理工場」トナスコト、某工場ノ有スル器具、機械又ハ職工ヲ他ノ工場ニ移動スルコト、工場生産品ヲ徵發スルコト、製造作業ニ關スル規定ヲ設クルコト、工場主ヨリ報告ヲ徵スルコト等ノ權ヲ有スルモノニシテ全國ヲ十數管區ニ分チ各

管區ニ地方局及地方委員ヲ設ケ兵器省ノ指令ニ基キ一途ノ方針計畫ノ下ニ各管區内ノ諸工場ヲ指揮セシムルモノトス

英國工業動員ニ於ケル眼目ハ「管理工場」ノ設定ナリ此ノ工場ハ直接政府カ兵器製造ニ使用スルモノニシテ此ノ工場ニ在リテハ勞働者ノ努力カ徒ニ工場主ノ私腹ヲ肥スノ結果ニ陥ルコトナク直ニ國家ニ盡ス戰時業務タラシムル爲工場主ノ收益ニ制限ヲ加ヘ過剩ノ收益ハ國庫ニ納付セシムルモノトス此ノ管理工場數ハ千九百十五年九月ニ於テハ七百十五ナリシモノ今ヤ四千六百内外ニ達シアリ
平時ノ陸軍兵器工廠ハ三箇所ナリシカ千九百十六年八月ニハ九十五ニ増加セリ就中官民合同ノ經營ニ成レルヲ通常トスル砲彈製造所ノ設立頗ル盛ナリ

其ノ他平時兵器製造ニ全ク關係ナキ普通工場ヲ轉用シアルモノモ亦甚タ多シ兵器製造用機械ハ所要ニ應シ在來ノモノヲ各工場ニ亘リ移動流用スルコトハ既ニ述ヘタルカ其ノ他新ニ製造セルモノ、輸入セルモノ、改造轉用セルモノ等アリ殊ニ米國ヨリ輸入セル機械尠カラサルカ如シ原料ニ關シテハ英國ハ自國產ノ原料豐富ナルト米國其ノ他ヨリ輸入ノ途アリテ比較的困難ヲ感セザリシカ如シ
英國工業動員ニ於テハ其ノ資力豐富ナルト工業ノ殷盛ナルトノ關係上工場ノ擴張、機械ノ設備、原料ノ補給ノ如キハ甚シキ困難ナル問題ニアラサルモ勞働者ノ操縱ニ至リテハ尠カラサル困難アリタリ是英國勞働組合ノ組織強大ニシテ諸種ノ同盟規約アリ其ノ規約中ニハ兵器製造力ノ増進ヲ阻害スルモノモ尠カ

ラス新入職工ノ排斥、勞働時間ノ制限、作業力ノ相互控制ノ如キ是ナリ又勞働界ハ一般ニ飲酒ノ惡風盛ニシテ紀律ヲ紊リ缺勤ヲ生シ易シ之カ爲英國皇室ハ率先シテ禁酒ヲ勵行セラルルニ至レリ又勞働界ノ氣受良キ「ロイド、デヨーシ」氏ヲ兵器大臣トナシタルコトモ此ノ邊ノ消息ヲ語ルモノト想ハル上流婦人、有識階級ノ男女、後ニハ學校生徒等カ日曜日ニ無報酬ニテ工場ニ出テ兵器製造作業ニ従事スル者多キニ至リタルカ此等モ勞働界ノ國家的觀念ヲ刺戟シ兵器大臣ノ手腕其ノ他ト相俟テ漸次弊風ヲ変除シ得タルカ如シ

熟練職工ノ缺乏モ亦工業動員ニ於テ困難セル所ニシテ或ハ一旦軍隊ニ召集セルモノヲ舊業ニ復セシメ或ハ熟練職工ノ使用上ノ配合ヲ適切ニシ或ハ之ヲ甲工場ヨリ乙工場ニ移動シ尙且其ノ不足ヲ充タスコト容易ナラサリシモノノ如ク千九百十五年九月ニ於テモ尙熟練職工八萬人不足シアリタリ然レトモ素人職工ノ教育ニ就テ工業學校其ノ他ノ援助モアリ漸次良景況ニ進ミタルカ如シ

女工ノ使用ハ政府ノ獎勵ニ依ルモ其ノ數ノ増加著シキモノアリ千九百十六年六月ニ於テハ軍需品職工ノ總數ハ二百二十五萬餘人ニシテ内女工約四十萬人ナリ以テ英國戰時兵器工業ノ盛大ナルト女工使用ノ景況ヲ知ルニ足ルヘシ

英國ハ以上ノ如ク英國ノ工業動員ヲ實施シ尙加奈陀ノ製造力ヲ利用スルコトニ就テモ各種ノ方法ヲ講シ舉國兵器彈藥ノ製造ニ熱中シタル結果製造力ノ増進著シキモノアリ野砲彈ノ製造力ノミニ就テ云ヘハ

千九百十四年九月ヨリ千九百十六年六月迄ニ約百七十倍ニ増加セリト云フ

三 佛 國

開戦直後即チ千九百十四年八月及九月ニ於テハ佛軍ハ動員集中、敗戦等國家及國軍ノ状態ハ紛雜セルモノアリシモ兵器彈藥ノ製造ハ大體ニ於テ佛軍平時計畫即チ砲彈ニ於テハ官立兵器製造所及二、三ノ民間兵器製造會社ニ依リ一日約二萬發ヲ標準トシテ製造スルニ努メタルカ如キモ此ノ時期ニ於ケル製造數ハ此ノ數ニモ達セサリシカ如シ然ルニ此ノ日製數二萬發ハ野砲全數ニ配當セハ一日一門八發以下ノ補給率トナルニ過キス又平時ノ貯藏彈藥ハ同年九月「マルス」會戰ノ終リ迄ニ既ニ三分ノ二ヲ消費シ其ノ後現在ノ如ク堅固ナル陣地ヲ以テ相對スルニ至リタル後ハ砲彈ノ消費率特ニ多ク一日一門百數十發ニ上ルニ至レリ是ニ於テ有ラユル手段ヲ盡シテ兵器特ニ彈藥ノ補給ヲ圖ルコトトナリ外國ノ生産力及製造品ヲ利用スル外千九百十五年五月陸軍大臣ノ下ニ砲兵彈藥次官ノ職ヲ設ケ「アルベルト、トーマス」氏ヲ以テ之ニ任シ全國ニ於ケル兵器彈藥ノ製造ヲ統轄セシムルニ至リ千九百十六年十一月更ニ兵器彈藥省ナル獨立ノ一省トナスニ至レリ而シテ佛全國ヲ工業統轄上四箇ノ管區ニ分チ之ニ管區長各一名ヲ置キ各工業管區ハ更ニ數箇ノ工業區ニ分チ之ニ區長ヲ置ケリ各工業管區ニハ兵器彈藥省ヨリ派遣シアル監督官アリ兵器檢査官アリテ全國ニ於ケル兵器彈藥ノ製造ヲ統一ス工場ハ官立兵器製造所及二、三ノ民間兵器製造會社ノ他新設工場及轉用工場アリ其ノ新設ノモノハ多數ナレトモ多クハ民間事業ニシテ直接政府ノ保護ヲ受ク

ルコトナク競争ニテ政府ノ注文ヲ受クルヤ製造者ハ土地、建物、工場ヲ購入又ハ設立シ設備ヲ完成ス其ノ際政府ハ契約價格ノ三分ノ一ヲ仕拂ヒ殘餘ノ價格ハ製品受領ノ際仕拂フヲ通常トス而シテ是等企業家ハ其ノ投資額ヲ直ニ回收スルノ企圖ヲ有セス只管兵器製造能力ヲ得ムコトヲ望ミ爾餘ノ事項ハ之ヲ戰後ニ於テ決定セムトスルモノノ如シト云フ轉用工場ハ器具機械又ハ自動車部品等ノ製造工場ナリシモノ多ク何レモ信管及野砲彈丸等ノ製造ニ良成績ヲ舉ケツツアリ以上ハ大工場ノコトナルカ小規模ナル機械工業者モ亦多數ニシテ巴里及其ノ附近ニ於テモ其ノ數千八百ニ達ス是等小製造業者ハ直接政府ノ注文ヲ受ケス仲介者ノ手ヲ經テ製造ヲ受負フモノニシテ所謂家庭工業ナリ晝間ハ父及娘之ヲ經營シ夜間ハ母及子之ニ從事スルカ如ク晝夜兼行其ノ努力掬スヘキモノアリ從テ其ノ設備不完全ナルニ拘ラス生産能力大ナリト云フ機械ハ自國在來ノモノ及製造セルモノヲ利用セル外米國、英國及瑞西國ヨリ輸入セルモノ多ク新式機械ノ設備多數ナリト云フ。

佛國カ兵器原料ニ於テ第一ニ遭遇セル困難ハ鐵及石炭ナリ其ノ主ナル原因ハ佛軍カ佛、白國境ヨリ退却シ目下ノ線以北ニ進出セサル結果平時ニ於ケル鐵及石炭ノ主要産地ヲ獨軍ニ占領セラレアルヲ以テナリ是ニ於テ鋼材ハ米國ヨリ、石炭ハ英國ヨリ主ナル供給ヲ受ケツツアリ

開戰以來佛國人ハ上下擧テ光輝アル戰勝ノ終局ヲ收ムルニ努力シ其ノ精神ノ緊張ハ工場ニモ歴然タリ兵器工場ニハ多數ノ女工アリ殊ニ砲兵彈藥次官ノ設置後女工ノ使用ヲ獎勵シ千九百十六年一月頃ニ於テ兵

器職工ノ約三分ノ一ハ女工ナリシトノコトナルカ是等ノ女工ハ嬉々トシテ業務ニ服シ其ノ作業力ハ體力上一定ノ限界アレトモ殆ト男工ト異ラス男工ハ女工ノ就業ヲ歡迎シ之ヲ指導シ之ニ協力シ一意兵器ノ製造額ヲ増加セムコトニ努力ス戰爭ノ初佛國モ亦工業動員ノ顧慮ナク職工ヲ軍隊ニ召集シタル結果多クノ會社ニテハ一時平時職工ノ約三分ノ二ヲ失ヒ其ノ後政府カ如何ニ彈丸ノ製造ヲ急クモ職工缺乏ノ爲如何トモスルコト能ハス遂ニ數回ニ戰時勤務ニ在ル技師、職工ヲ舊業ニ復セシムルニ至レリ

夜間作業及晝間作業共約十時間就業ナリ開戰以前ニハ勞働問題ニ關スル紛擾アリタルモ戰爭開始後更ニ同盟罷工ナシ

以上述フルカ如ク佛國カ組織的ニ舉國努力ヲ兵器製造ニ傾注セル結果其ノ製造力ハ日ヲ逐テ増大シ之ヲ砲彈ニ就テ云ヘハ開戰當時日製二萬發ニ滿タサリシモノ今ヤ日製三十萬發以上ニ達セリト傳ヘラル

四 露 國

日露戰爭ハ一會戰多クモ三週ヲ出テ各會戰間優ニ一乃至數月ノ餘裕ヲ有シタレトモ今次ノ會戰ハ數箇月繼續シ其ノ兵力モ頓ニ増加シ費消彈藥亦驚クヘキモノアリ露軍カ平時幾許ノ兵器彈藥ヲ準備シタルカハ未タ知ルコト能ハサルモ其ノ準備數ノ標準ヲ日露戰爭ノ經驗ニ據リタリトセハ事實ニ於テ暴露セルカ如ク兵器彈藥準備上大違算ヲ生シタルハ素ヨリ當然ナリ何レニシテモ露國ハ目下ノ如ク全歐洲ノ大戰トナリテ軍需品ノ輸入斯ノ如ク困難ナル狀況ニ陥ルヲ豫想シテ國內ノ工業準備ヲ爲スカ如キハ平時全然夢

想タニセサリシ所ナリト想ハル從テ千九百十四年此ノ大戰ヲ開始スルヤ數月ナラスシテ忽チ兵器特ニ彈藥ノ不足ヲ來タシ一時ハ小銃ヲ有セサル兵卒、砲彈ナキ火砲カ戰線及其ノ後方ニ夥シキ景況ニ迄陥リ敗戰ハ兵器彈藥缺乏ノ自然ノ結果ナリトノ觀念露軍全般ヲ支配スルニ至レリ狀況斯ノ如クナルヲ以テ露國ハ兵器彈藥補給カ國家ノ致命的大問題ナルヲ悟リ千九百十五年五月頃ヨリ全國ノ工業動員ヲ企テ當面ノ責任者タル陸軍大臣及砲兵本部長ノ罷免トナリ千九百十五年九月陸軍大臣ノ下ニ兵器彈藥次官ヲ設置シ以テ兵器彈藥補給計畫ノ統一完成ニ於テ陸軍大臣ヲ輔佐セシムルコトトナシ尙軍需品補給會議ヲ設ケ兵器彈藥次官之カ議長トナリ商工省、大藏省、會計検査部ヨリ代表者ヲ出タシテ議員タラシメ陸軍省內ノ各中央本部長ハ何レモ其ノ常置議員タリ全國ハ在來ノ工業的地方分布ニ基キ之ヲ十數管區ニ別テ各管區ニ監督官及兵器受領委員ヲ置ク今ヤ管理工場數三十六州ニ亘リ二百三十三ニ上ルト云フ其ノ工場ニハ在來ノ官立製造所、徵用私立工場及純私立工場ノ三種アリ金屬業者、造船業者、砂糖製造、「ビール」製造、菓子製造、機械製造業者等率先シテ其ノ工場ヲ提供シ尙官有工場ノ擴張ハ勿論劇場、氷仁場ノ如キスラ工場ニ變形セルモノアリ所要機械ハ或ハ自國ニ於テ製造シ或ハ外國ヨリ購入シ或ハ學校備附ノ機械、普通工業用器具、機械ヲ應用シ時計師所有ノ器具ヲ徵用スル等百方施設經營ニ努メ一方職工ニシテ召集セラレタル者ヲ工場ニ復歸セシメ軍服ヲ著シ現役兵卒トシテ作業シアル者尠カラス尙急遽職工ノ養成ニ努メ遂ニ填人俘虜ヲモ利用シアリト云フ又各教育機關及技師等顧問トナリ又職工學校、工業學校ノ各生徒等特志勞働者ノ志願シテ作業ニ從事スルモノアリ斯ノ如キ狀態ニテ露國ハ官民合同國內ノ兵器彈藥製造力ノ増進ヲ圖リ一方ニ於テ我カ國ヲ始メ米國其ノ他ヘ注文セル兵器彈藥モ漸次到著シ今ヤ彈藥不足ノ聲ヲ聞クコト少キニ至レリ

五 伊 國

現戰爭ニ於ケル著シキ特點ハ兵器彈藥ノ著大ナル費消ニシテ之カ補給ハ一ニ工業動員ノ結果ニ依ラサルヘカラサルコト明ナルヲ以テ伊國モ亦他交戰諸國ノ例ニ倣ヒ工業動員ヲ實施スルニ至レリ伊國ノ工業動員ハ千九百十五年六月發布ノ之ニ關スル勅令及同施行規則ニ依リ其ノ大綱ヲ規定セリ此等ニ依ルニ同國工業統轄組織ノ中央機關ハ兵器彈藥次官ヲ委員長トスル中央委員會ニシテ同委員會ハ委員長ノ外八名ノ委員ヨリ成リ陸海軍將校、元老院議員、國庫省職員及技術專家ヲ以テ組織ス又地方機關トシテハ全國ニ七箇ノ地方委員會ヲ設置シアリ民間工場ハ所要ニ應シ「補助工場」トシテ指定シ工場主又ハ支配人ニ對シ動員告知書ヲ交付ス補助工場ハ地方委員會及軍事官憲ノ監督下ニ置キ工場衛兵ヲ設置シテ紀律ヲ監督セシメ尙補助工場人員ノ異動、轉職ヲ監視シ軍需品ノ製造ニ任セシムルモノナルモ工場ノ支配經營ニ關シテハ干涉ヲ受クルコトナキモノトス伊國ハ斯ノ如ク工業動員ヲ實施シ尙原料補給其ノ他ニ關シ英、佛兩國ノ援助ヲ受ケ居ルコト尠カラサルモノノ如ク今日マテ兵器彈藥缺乏ノ跡ヲ認メス

六 獨 國

獨國ト雖平時ヨリ完全ナル工業動員ノ計畫ハナカリシモノノ如ク開戦後數日ナラスシテ某實業家カ陸軍大臣ニ提出セル經濟戰及工業戰ノ計畫ヲ採用シ直ニ全國ノ工業ヲ戰爭ノ要求ニ適應スル如ク組織セルモノナリ而シテ其ノ工業動員ノ主旨ハ初ヨリ輸入ノ杜絶ヲ豫期シ原料材料ノ自給策ヲ樹テ輸入ヨリ分離シテ長期ノ戰爭ヲ繼續シ得ル如ク工業用原料其ノ他ノ資源ヲ陸軍省ナル一中樞部ニ統一セルニ外ナラス元來獨國ハ多數ノ陸軍工場ヲ有スルノ外民間ニモ「クルップ」、「エーアハルト」等ノ如キ世界的大工場アリ加之工業力旺盛ナル國ナルヲ以テ會社組織、勞働者ノ組織、産業組合等ノ發達完全ナレハ之ヲ中央部ニ統轄シ生産ヲ戰時ノ要求ニ合致セシムルコト困難ナラス唯最困難トスル所ハ原料ノ自給及其ノ適切ナル配給集散ニ在リ從テ統轄機關モ此ノ工業狀態ニ適應スル如ク編成セラレアリ即チ中央機關トシテハ開戦後間モナク陸軍省ニ原料課ヲ設ケ内地及占領地ニ於ケル原料ノ集收分配、原料ノ輸入、原料價格ノ調節、原料ノ沒收、徵發、統計、輸送其ノ他工業編成ニ關スル事項ヲ掌ラシメ尙各種原料ニ精通スル學者、專門家等ヲ集メタル顧問部ヲ設ケアリ此ノ原料課ハ昨千九百十六年十一月ニ至リ之ヲ擴張シテ戰時局トナセルカ其ノ組織ノ龐大ナルコト殆ト獨立ノ一省ニ讓ラス地方機關トシテハ在來ノ大會社、戰時勃興セル會社其ノ他各種組合、半官半民ノ各種需給整理所等アリ何レモ生産者ト軍部トノ仲介機關タルモノトス勞働者ノ需用供給ハ勞働仲介本部ニテ調査整理スルモ戰時局設置ト略同時ニ國民動員ヲ實施シ(詳細ハ別章參照)同

局ニテ統一スルニ至レリ

獨國平時ニ於ケル工業狀態ハ既ニ述ヘタル如クナルヲ以テ英國ニ於ケルト同シク多數ノ工場ヲ兵器彈藥製造ノ爲政府ニテ管理スル必要ナカリシカ如ク實際ニ於テモ原料ノ集收分配、軍用品製造、注文ノ配當竝之ニ關聯スル輸送ヲ敏活適切ナラシムルヲ主トシタルカ如シ又政府ハ戰爭ノ影響ヲ蒙リアル小資本ノ諸會社ニハ其ノ資本ヲ合同シテ軍需品製造ノ大株式會社ヲ組織スルヲ獎勵シ職工及機械ノ供給等會社ノ基礎ヲ作ルニ盡力セリ一般ニ民間諸工場ハ海外貿易杜絶其ノ他ノ影響ヲ受ケ平時ノ製造ヲ繼續シ得サルモノ多キニ至レルハ自明ノ理ナルカ政府ハ特ニ軍需品注文ノ配當ヲ適切ニシ全國工場ノ編成替ヲ實施セリ即チ機械製造所ハ彈丸製造所ニ、人工絹製造所ハ無煙火藥製造所ニ、玩具製造所ハ信管製造所ニ變化セルノ類ニシテ開戦後間モナク全國工場ノ約八〇「プロセント」ハ陸軍省ノ事業ニ服スルニ至レリ原料ニ關シテハ廢品利用、代用品ノ使用(詳細ハ別章參照)、占領地生産品ノ利用、内地原料ノ節約及利用等盡ササルナシ彼ノ空中窒素ノ利用、白銅貨ヲ鐵貨ニ換ヘタル等皆此ノ原料缺乏ヲ補フ窮餘ノ手段ニシテ其ノ例甚タ多シ

熟練職工ハ開戦當初ヨリ控置セラレタルカ如ク又普通職工ノ召集時期ニ關シテモ工業地ノ狀態ニ依リ斟酌ヲ加ヘタルカ如シ女工ノ使用ハ獨國モ亦頗ル盛ニシテ千九百十六年初ニハ獨國ノ使用シアル女工數六十萬乃至七十萬ニ達セリト云フ其ノ大部分ハ彈藥製造ニ從事ス全國職工ノ融通及補充ハ既ニ述ヘタルカ

如ク勞働仲介所本部ノ管掌スル所ナリ

獨國ハ前述ノ如キ状態ニテ開戦後速ニ工業動員ヲ實施セル結果彈藥ノ製造力モ夙ニ日製約二十五萬ニ上
リ今ヤ三十二、三萬ニ達シアルカ如ク未タ彈藥不足ノ形迹ヲ認メタルコトナシ

七 米 國

世界曠古ノ大戰亂ニ際シ米國ハ久シク交戦國外ニ超立シ無限ノ生産力ト絶大ノ工業力トヲ以テ交戦國ニ
軍需品ヲ供給シ爲ユ開戦以來千九百十五年末ニ至ル輸出超過五十億圓ニ達セリト傳ヘラレ其ノ致富ノ急
激ナル他ニ類例ヲ見ス然ルニ歐洲戰亂ハ一方米國ヲシテ著シク國防ノ不安ヲ感セシメ同時ニ國防ノ要ハ
兵力ノ充實ト軍需品補給力ト併行セサルヘカラサルコトヲ覺ラシメ兵力ニ於テハ正規軍ヲ十萬人ヨリ一
躍シテ二十萬人ニ倍加シ民兵軍ヲ十二萬人ヨリ四十二萬人ニ増加シ且膨大ナル海軍大擴張ヲ斷行スルニ
決シ軍需品補給ニ關シテモ工業上ノ國防ト稱シ政府及民間相協同シテ之カ計畫ニ熱中スルニ至レリ殊ニ
歐洲交戦國ヨリ莫大ナル軍需品注文ヲ受ケ大規模ニ之ニ著手セル結果國內ヲ通シ官民共ニ兵器戰時補給
ノ容易ナラサルコトヲ具サニ實驗シ一層痛切ニ工業上ノ國防ヲ完備スルノ必要ヲ感知セルカ如シ
米國ニ於ケル工業動員研究機關ハ海軍省軍事諮問局中ニ設置セル工業準備委員ヲ以テ嚆矢トス此ノ委員
會ハ工業動員ニ關シ種々ノ研究ヲ爲シ遂ニ成案ヲ得タルカ大統領モ陸海軍卿モ之ニ同意シ大統領ノ斡旋
ニ依リ全國ノ五大工業協會即チ化學協會、土木協會、電氣工業協會、機械工業協會及鑛業協會ノ贊同ヲ得

其ノ協力ヲ得ルニ至レリ即チ先ツ全國ニ亘ル工業調査ヲ開始スルコトトナリ各州毎ニ前述五大協會ノ州
ニ於ケル代表者五名ヲ以テ組織スル委員會全國合計四十九箇(アラスカ)ヲ設ケ是等委員會ヲ介シテ一定
ノ書式ニ依ル報告ヲ徵シ其ノ報告數ハ千九百十六年七月マテニ約三萬ニ達セリ此等報告徵集ノ主目的ハ
畢竟戰時國內ノ諸工場ヲ最有效ニ軍需品補給ニ利用スルカ爲適切ナル命令ヲ下シ得ムカ爲ニ外ナラス
尋テ米國議會ハ國防會議及其ノ顧問委員(會議ノ關係スル各種ノ事項ニ精)ノ創設ヲ可決シ前述海軍省内工業準
備委員ノ事業ハ同委員ノ蒐集セル工業調査書類ト共ニ之ヲ國防會議ニ引繼キ同委員ハ單ニ工業動員上ノ
一機關タルニ至レリ國防會議ハ華盛頓ニ設置シアリテ爾來其ノ業務ヲ繼續シ漸次活動範圍ヲ擴張シツツ
アリ本千九百十七年初頃國防會議及其ノ顧問委員會ノ連合會議ヲ陸軍大臣官房ニ開催シ其ノ結果七箇ノ
實行委員ヲ設クルニ至レリ即チ兵器製造委員、糧食被服補給委員、原料委員、勞働委員、運輸通信委
員、科學研究兼教育委員、衛生委員是ナリ是等委員長ハ實業家ト屢會議交渉ヲ重ネ各種關係職業團體毎ニ
一名若ハ一委員(多クハ三名ヨリ成ル)ヲ代表者トシテ選出シ之ヲシテ國防會議ト交渉ノ任ニ當ラシムル如ク組織ヲ
形成セシムルニ努メアリ尙米國議會ハ熟練職工ヲ戰時所要工場ニ控置スル爲工業豫備役ノ制ヲ設クルコ
ト並工業動員教育ノ目的ノ爲毎年最少限ノ軍需品製造注文ヲ民間工場ニ發スルコトヲ得ルノ權能ヲ國防
會議ニ附與セリ

他方又米國商業會議所ハ極力國防會議ノ事業ヲ援助セムコトヲ決議シ同時ニ國防會議顧問委員ノ委員長

ハ參謀總長若ハ海軍軍令部長ト同一資格ヲ有セサルヘカラサルコトヲ強硬ニ主張セリ更ニ鐵道側ニ於テモ米國鐵道協會國防委員ナルモノ編成セラレ二百八十萬哩ノ鐵道ハ何時ニテモ陸軍ノ用途ニ利用シ得ル如ク統一組織ヲ編成スルニ至レリ其ノ他民間工業家ノ熱狂的愛國心ノ發露ハ殆ト歐洲交戰國ニ譲ラサル状態ナリ

之ヲ要スルニ現歐洲戰ニ際シ米國ハ大規模ノ軍需品製造ニヨリ到ル處永久の大兵器工場新設セラレ加フルニ官民舉テ前述ノ如ク著々工業上ノ國防計畫ヲ完成シツツアリ一朝有事ノ際ハ軍需品補給力ニ於テモ頗ル強大ナル一國タルニ至ルヘキハ既ニ疑ノ餘地ナキニ至レリ
因ニ米國カ協商側諸國ヨリ注文ヲ受ケタル主要兵器ニシテ既ニ明ナルモノヲ示セハ概ネ左表ノ如シ

兵器ノ種類	英	國	佛	國	露	國	供給狀況
小銃	1,000,000	3,500,000	2,500,000	1,500,000	1,000,000	2,000,000	露國注文ノモノハ大正五年一月迄ニ約十萬挺引渡済全部ノ引渡了ハ大正六年九月頃ノ見込 露國注文品ハ大正五年二月頃ヨリ交付シツツアル筈
實包	100,000,000	357,000,000	1,600,000,000	1,700,000,000	2,000,000,000	2,000,000,000	大部分引渡済ナラム
機關銃	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	露國注文品ハ大正四年末迄ニ野砲彈約二萬五千箇ヲ引渡セルノミナルカ大正五年中ニ少クモ全砲彈數ノ約三分ノ二ヲ交付セルナラム
砲彈							大部分交付済ナラム
火藥							

第一一 歐洲戰ト通信ノ狀況

近來非常ノ進歩ヲ遂ケタル通信技術ハ今次ノ歐洲戰ニ於テ作戰上ニ應用セラレタルハ勿論戰爭ノ目的ヲ達成スルニ必要ナル萬般ノ情報交換ニ利用セラレアリ今此等ニ關スル概況ヲ述ヘム
今ヤ世界ノ列國ハ單獨ノ行動ヲ取ルコト殆ト稀ニシテノ主義相投合スルモノハ位置ノ何レニアルヲ問ハス互ニ攻守同盟ヲ締結シテ戰爭ヲ實行スル爲其ノ間ニ密接ノ連繫ヲ維持スルヲ要シ又列強ハ全世界ニ擴カレル版圖若ハ殖民地ト本國トノ間ニ確實ナル連絡ヲ保有スルヲ要シ而モ此ノ連絡力終始中絶セサルコト緊要ナリ

以上ノ目的ニ應スル爲列強ハ世界一週ノ獨立セル通信系ヲ施設セムトシ既ニ海底電線ハ全世界ノ海洋ニ沈設セラレシカ近來頃ニ其ノ發達進歩ヲ遂ケタル無線電信ノ利用ニ依リテ此ノ目的ヲ完全ニ達成スルコトヲ得ルニ至レリ是無線電信ハ通信可達距離漸次増大セルト、其ノ設備ノ輕易ナルト、海底線ノ如ク海上權ノ喪失ト同時ニ容易ニ遮斷セラルルノ虞ナケレハナリ列國ハ夙ニ茲ニ留意シ多クノ無線電信局ヲ設置シ昨大正五年末ノ調査ニ依レハ全世界ニ存スルモノ其ノ數實ニ七百二十餘ヲ計上ス其ノ内列強カ獨立セル無線電信通信系トシテ施設セルモノ左ノ如シ

- (一) 英國ニハ東阿弗利加及東亞ニ支線ヲ有スル世界一週ノ通信系アリ

(二) 佛國ニハ「エツフェル」塔ニ陸軍式大規模通信所ヲ建設シ之ヨリ佛領阿弗利加ヲ經テ佛領東印度、支那印度及南洋諸島ヨリ佛領西印度ヲ經テ佛本國ニ至ル通信系並阿弗利加殖民地ヲ連絡スル通信系アリ

(三) 米國ニハ南米方面及太平洋方面ニ於ケル通信系アリ

(四) 獨國ニハ北米合衆國トノ直通線、阿弗利加殖民地ト本國トヲ連絡スル通信系、支那及南洋殖民地ヲ互ニ連絡スル太平洋殖民地通信系ヲ有シ更ニ之ヲ本國ニ連絡スルノ計畫アリ

以上列記セル無線電信通信系ハ海底電信ト相俟テ今次ノ戰爭ニ利用セラレ之カ爲ニ列國ノ得タル利益ハ頗ル大ナルモアリ今一、二ノ例ヲ掲クレハ獨國ノ如キ其一ナリ即チ協商國海軍カ海上ヲ制スルヤ東西兩洋ニ散在セル多クノ殖民地ハ孤獨ノ位置ニ立チ而モ遂ニ之ヲ敵手ニ委スルニ至リシモ其ノ間無線電信ニ依リ本國トノ連絡ヲ確保シタリ就中彼ノ青島要塞カ開城ノ當日マテ其ノ無線電信ヲ利用シテ要塞内ト中立國若ハ自國艦船トノ連絡ヲ保チ瀕死ノ情況ヲ逐一本國ニ通信セシハ吾人ノ忘ルル能ハサル所ニシテ是偏ニ獨國ノ通信政策其ノ功ヲ奏シタルモノト謂フヘシ其ノ他露都ト巴里間ニ無線電信ヲ利用シテ通信ヲ交換シ獨軍カ開戦ノ當初聯合軍ヲ間ニ挾テ土耳其ト無線電信ニ依リ交信シタルカ如キハ現戰爭ニ於テ戰爭一般ノ目的ニ通信ヲ應用シタル好範例ナリ

次ニ列國カ全戰役間作戦上ニ平時ノ通信網ヲ應用セル景況ト能ク之ヲ利用シタルニモ拘ラス其ノ有力ナル野戰用通信諸隊ノ必要ナル所以及是等諸隊活動ノ狀態トヲ述ヘム

作戦ノ初期即チ軍ノ集中時ニ於テハ集中地ト後方高級司令部間並各軍ト其ノ前方偵察諸隊トノ間ニハ密接ノ連絡ヲ必要トス然ルニ交戦諸國ノ軍ノ集中ハ自國內ニ行ハレタルヲ以テ平時ノ通信網ヲ其ノ儘利用シ野戰通信機關ハ作戦上纔ニ其ノ缺ヲ補フニ過キス是兩軍共ニ平時通信網ノ完備セル爲ニ格段ノ利便ヲ得タル所以ニシテ嘗テ東亞大陸ノ貧弱ナル通信網ヲ利用シタル吾人ノ到底想像シ能ハサルモノアリ然レトモ一旦敵ト接觸スルヤ我ノ利用シ得ヘキ通信網ハ敵ノ爲破壊若ハ遮斷セラルルヲ常トスルカ故ニ通信網ノ新設及補修ノ爲茲ニ野戰電信隊ノ活動ヲ必要トス之カ爲本戰爭ニ在リテハ交戦軍ヲ通シ各高等司令部ハ通常有線通信一隊ヲ有シテ隸屬若ハ隣接セル各司令部トノ間ヲ連絡シ其ノ他ノ各部各隊ハ相當ノ通信隊ヲ有シテ各必要ノ連絡ヲ保持シアリ然ルニ有線通信網ハ時ニ各部團隊ノ迅速頻次ノ移動若ハ其ノ他ノ事故ニ依リ能力ノ不足ヲ來タスコトアルヲ以テ之ヲ補ハムカ爲有線通信部隊ノ外高等司令部ニハ通常數箇ノ無線通信所ヲ配屬セリ殊ニ騎兵ノ如キハ其ノ移動性大ナルカ爲有線通信ノ力及ハサルコト普通ニシテ屢連絡ヲ失スコトアルカ故ニ列國軍共輕快ナル無線電信機ヲ附屬シテ其ノ效ヲ收メツツアリ其ノ他無線電信ハ獨リ陸地作戦ノミナラス上陸作戦ヲ實施スルニ當リ海陸ノ連絡上缺クヘカラサルモノニシテ本戰役ニモ諸所ニ此ノ例ヲ有ス而シテ無線電信ハ近來技術上及運用上ノ進歩ニヨリ其ノ不利ノ主點タル混信ノ害ヲ或ル程度迄豫防シ得ルヲ以テ漸次其ノ利用ヲ確認セララルルニ至レリ

戰闘線ニ近キ電信、電話線ハ敵砲彈ノ爲ニ切斷セラレルヲ以テ第一線諸部隊ハ其ノ連絡ノ維持ニ關シ頗ル苦心シ交戰軍中鎧裝被覆線(鋼線ノ類ヲ以テ被覆線ノ外部ヲ更ニ被裝シテ其ノ強度ヲ增加セルモノ)ヲ使用スルモノアリ然レトモ其ノ多クハ電信、電話ノ外回光通信、信號火、信號旗、小無線電信、傳令等ヲ併用シ佛國ノ如キハ傳書鳩ヲ使用シテ豫想外ノ奇功ヲ奏シタリ然ルニ以上各種ノ補助通信ハ尙完全ナリトスルコト能ハス何トナレハ砲煙天ヲ蔽フノ機ニ際シテハ視號通信モ其ノ效少ク敵彈雨注ノトキニ方リテハ傳令モ屢之ニ阻止セラレテ其ノ目的ヲ達スル能ハサルコト多クハ第一線ニ於ケル通信ノ困難ナルコト夫レ斯ノ如シ而モ其ノ通信連絡ハ頗ル重要ニシテ缺クヘカラサルモノナルカ故ニ之ヲ確保セサルヘカラス之カ爲ニハ到底一種ノ方法ノミヲ以テハ其ノ要求ヲ充タシ難ク各種ノ通信機關ヲ併有スルヲ要ス是列國カ通信部隊ニ多クノ補助通信器材ヲ携行セシムル所以ナリ

又第一線通信ニ關聯シテ茲ニ紹介スヘキハ近時第一線ノ電話ヲ竊聽スル器械及方法ヲ案出シテ東西戰場ノ各所ニ之ヲ利用セルコト是ナリ吾人亦之カ利用法ト共ニ其ノ防止ノ方法ヲ研究スルヲ要ス

最後ニ飛行機カ通信連絡ニ關係アル重要ナル機關ナルコトヲ一言セサルヘカラス即チ機上ヨリ戰場ヲ撮影セハ直ニ之ヲ現像シ一時間ヲ出テスシテ其ノ結果ヲ指揮官ニ呈シ以テ彼我戰線ノ狀態ヲ詳細ニ知ラシメ得ヘシ故ニ今ヤ飛行機ハ戰闘酣ナルノトキ第一線ノ情況ヲ知ルニハ缺クヘカラサルモノトナレリ又遠距離偵察ニ從事シテ速ニ其ノ情況ヲ報告シ或ハ砲兵射擊ノ觀測ニ從事スル爲飛行機ニ無線電信機ヲ附シ

テ益其ノ活動ヲ盛ナラシムルニ至レリ之カ爲現時列國軍ニ所有スル飛行機ノ殆ト全部ハ無線電信ヲ裝備セリ

之ヲ要スルニ歐洲ニ於ケル今次ノ戰爭ハ交戰諸國互ニ技術上ノ妙ヲ盡シテ雌雄ヲ爭ヒタルモノニシテ其ノ勝敗ハ各種技術的施設ノ可否如何ニ存スルモノ多シ而シテ通信ハ就中重要ナル任務ヲ果タシタルモノト謂フヘシ蓋シ協商各國ノ軍カ歐洲ノ東西ニ分レテ尙能ク連絡ヲ維持シ或ハ獨國カ同盟國及其ノ版圖ト通信ヲ交換シ得タル所以ノモノハ平時ニ於ケル世界的通信系ノ發展ニ歸スヘク又兩軍共ニ龐大ノ軍ヲ指揮統御シテ一系索レサル所以ノモノハ歐洲各地ニ於ケル通信網ノ發達ト野戰通信諸隊ノ編成活用宜シキヲ得タルニ因ルヘク亦以テ歐洲列國努力ノ跡ヲ認メ得ヘシ實ニ戰爭ノ目的ヲ完全ニ達成セムカ爲ニハ平時ニ於ケル國家的通信施設ノ整備ト純陸軍的通信部隊ノ編制並其ノ練成缺クル所ナキヲ要ス

第一二 航空界ノ狀況

現戰役ニ於テ活動シツツアル航空機ハ主トシテ飛行機ニシテ其ノ他航空船及繫留氣球亦相當ノ效果ヲ呈シツツアリ

一 飛行機活躍ノ概況

現時歐洲ノ戰場ニ於ケル飛行機活動ノ主要任務ハ爆彈攻撃、敵情偵察、砲兵射撃ノ觀測及敵機ノ驅逐等ニシテ其ノ概要左ノ如シ

(一) 爆彈攻撃

飛行機ニ搭載携行セル爆彈、鋼箭等ヲ敵軍ノ頭上ニ投下シテ我カ攻撃前進ヲ援助シ或ハ又之ヲ敵軍ノ司令部、軍需品倉庫、軍用停車場及遠ク内地ニ於ケル軍需品ノ製作工場等ニ投下シテ敵ノ指揮ヲ攪亂シ補給機關ヲ破壊燒棄スルニ努ムルモノトス
此ノ爆彈攻撃ニハ投下セシ爆彈ノ命中公算及破壊的威力ヲ増加スル爲數隻乃至數十隻ノ飛行機ヲ集團的使用スルヲ原則トシ之カ爲現時交戰諸國軍ハ少クモ五隻通常二十隻内外ノ飛行機ヲ以テ一目標ノ攻撃ニ任セシメ其ノ他最大限六十五隻ヨリ成ル集團飛行機隊ヲ使用セシコト尠カラス而シテ戰役ノ實績ニ徴スルニ僅々五隻ノ飛行機ヲ用ウルモ能ク五十里ヲ航空シテ約五十發ノ爆彈ヲ目標ニ投下シ再ヒ出發點ニ

歸還スルコトヲ得此ノ爆彈ノ總重量ハ概略二百五十貫ニ達シ從テ東京ヲ基點トスレハ東北地方ニ於テ白河、北國地方ニ於テ長野又東海道ニ於テ濱松附近ノ工場ニ約二百五十貫ノ爆彈ヲ投下シ悠々ト東京ノ根據地ニ歸還シ得ヘキ能力ヲ有ス

(二) 敵情偵察

飛行機ハ敵ノ頭上ヲ飛翔シテ其ノ狀勢ヲ俯瞰偵察シ得ルカ故ニ其ノ齎ス情報ハ爾餘ノ手段ニ依テ收得セラルモノニ比シ遙ニ緻密正確ナルハ世人周知ノコトニ屬シ從テ今次ノ戰役ニ於テモ開戰當初ノ機動戰ニ於テ敵ノ兵力及行動ヲ迅速ニ偵知報告シ友軍ノ作戰ニ資セシコト今更多言ヲ要セス

又目下西方戰場ノ塹壕戰ニ於テモ敵上ヲ飛翔シテ敵陣地ノ後方諸設備即チ第二、第三線陣地ノ狀況、彈藥、糧食ノ準備或ハ鐵道及停車場ノ増設等ヲ監視シテ敵ノ企圖ヲ詳細ニ偵察シテ友軍ノ作戰計畫ニ有力ナル資料ヲ提供シツツアリ而シテ此ノ敵陣地ノ狀況ハ通常機上ヨリ寫真ニ撮影シテ歸還シ之ヲ幻燈ニ映寫シテ詳細ニ研究スルハ勿論更ニ數枚ノ寫真ヲ綴リテ敵ノ配備ヲ委細記入セル軍用地圖ニ編入ス交戰諸國軍ハ目今專ラ此ノ地圖ヲ使用シ多大ノ便宜ヲ得ツツアリト稱セリ

(三) 砲兵射撃ノ觀測

現時ノ砲兵ハ其ノ火砲ノ進歩セシ結果往時ノ如ク必スシモ直接目標ヲ照準シ得ヘキ位置ニ暴露陣地ヲ占領スルヲ要セス山、森林及村落等ノ後方ニ遮蔽シテ陣地ヲ占領シ尙能ク射撃ヲ實施シ得ルニ至レリ之ニ

依テ彼此共ニ多クノ場合遮蔽陣地ヲ占領シ昔日ノ如ク敵眼ニ暴露シテ無益ノ損害ヲ惹起スルヲ避クルニ至レリ是ニ於テ地上觀測ニ依リテハ敵砲兵ノ發見及我カ射彈ノ觀測困難トナリ爲ニ多ク空中觀測ヲ使用スルニ至レリ即チ飛行機ヲ放チテ射撃スヘキ目標ノ所在及我カ砲兵ノ發射セル射彈ノ著達ノ景況ヲ無線電信若ハ信號ニ依リ委細明確ニ報告セシム而シテ現戰役ノ實驗ニ依レハ斯ノ如キ飛行機ヲ使用スル砲兵ハ直接目標ヲ照準スルト同一ノ精度ヲ以テ能ク遮蔽陣地ヨリ所望ノ目標ヲ射撃シ得ヘキコトヲ立證シ從テ飛行機ハ目今砲兵ノ爲緊要缺クヘカラサル要具タルニ至レリ

(四) 敵機驅逐

飛行機ハ獨リ友軍ノ專有物ニアラス故ニ敵ノ狀勢ヲ明瞭ニ偵知シ得ルト同時ニ我カ狀況モ亦敵ニ詳知セラルヘキ不利アリ而シテ此ノ不利ヲ除去セムニハ敵ノ飛行機ヲ驅逐撲滅シテ制空權ヲ獲得スルノ外ナシ但シ地上ヨリ火砲及小銃等ヲ以テ射撃スルモ飛行機ハ益高空ヲ飛行シ以テ銃砲彈ノ命中ヲ避クヘキカ故ニ十分目的ヲ達スルコト能ハス是ニ於テ驅逐用飛行機ヲ案出シ快速度ヲ利用シテ敵機ニ肉薄シ機關銃ヲ以テ之ヲ擊墜スヘキ方法ヲ探ルニ至レリ其ノ結果空中ニ於ケル飛行機相互ノ格闘ヲ生シ日々慘澹タル空中戰ヲ演出シツツアリ

以上列舉スルカ如ク飛行機ハ日々重要ノ任務ニ服シ軍事上多大ノ效果ヲ呈シツツアリ從テ交戰諸國軍ハ何レモ飛行機ノ軍事上ニ於ケル價值ヲ確認シ大ニ其ノ飛行機隊ヲ擴張スルニ至レリ尙獨リ飛行機數ノ増

加セシノミナラス現用飛行機ハ總テ實戰ノ經驗ニ基キ構成セラレタル新銳ノモノニシテ其ノ能力ノ如キ開戦前ノモノニ比シ著シク増加セルヲ認ム

二 飛行機増加ノ概要

交戦諸國ハ戰役ノ實驗ニ鑑ミ開戦後非常ノ努力ヲ以テ其ノ飛行機隊ヲ著シク増加擴張セリ

(一) 飛行機ノ現在數

現時交戦諸國ノ陸軍カ歐洲ノ主戰場ニ於テ使用シツツアル飛行機ハ少クモ其ノ總數大約三千隻ニ達シ之カ活動ニ要スル揮發油及滑油ノ如キ消耗品ノ量ノミニテモ日々十三萬圓ヲ下ラス

即チ今各國陸軍カ開戦直前ニ於テ保有セル飛行機數ト現時主戰場方面ニ於テ使用シツツアルモノトヲ比較對照スレハ次ノ如シ

國別	開戦直前ノ保有數	主戰場方面ニ於ケル現用數
佛 國	六〇〇隻	一、四〇〇隻
英 國	一六〇隻	四五〇隻
露 國	一〇〇隻	二〇〇隻
伊 國	一〇〇隻	一五〇隻
獨 國	五〇〇隻	七〇〇隻

埃 國

計 五〇隻 一〇〇隻
一、五一〇隻 三、〇〇〇隻

其ノ他佛軍ハ「サロニカ」方面ニ六、七十隻ヲ派遣シ英軍又亞弗利加方面ニ於テ數十隻ヲ使用シツツアリ尙以上戰地ニ於テ使用シツツアル飛行機ノ外操縦者ノ教育、内地重要都市ノ敵航空機ニ對スル防禦及戰地部隊ノ補充用トシテ内地ニ準備シアルモノ亦尠カラズ而シテ此等ヲ合スレハ現時交戦諸國ノ陸軍ハ戰地及内地ヲ通シ總計約五千五百隻ノ飛行機ヲ保有スルモノト推測セラルル此ノ總數ハ實ニ開戦當初ニ於ケル各國陸軍用飛行機ノ大約三倍半ナリ

(二) 飛行機ノ需要ト製造力ノ激増

現戰役ノ經驗ニ依レハ軍用飛行機ハ連日劇務ニ服スルヲ以テ機體ノ疲勞甚シク之カ爲三乃至四箇月毎ニ之ヲ新品ト交換スルニアラサレハ實戰場裡ニ於テ到底十分ノ活躍ヲ期待セムコト不可能ナルカ如シ故ニ戰地部隊ニ使用スル飛行機ハ概ネ四箇月毎ニ新品ト交換スルヲ例トシ從テ此ノ種ノ補充交換ノ爲ノミニテモ交戦諸國ハ現時主戰場方面ニ於テ活動スル飛行機隊ノ爲毎年大約一萬隻ノ飛行機ヲ建造セサルヘカラス況ヤ此等ノ諸國ノ採リツツアル方針ハ實戰ノ要求ニ基キ益其ノ飛行機隊ヲ増設擴張スルニ在リ故ニ目今交戦諸國カ其ノ陸軍飛行機隊ノ爲熱望シテ止マサル飛行機ノ年産額ハ上述ノ一萬隻ヲ遙ニ超過シア

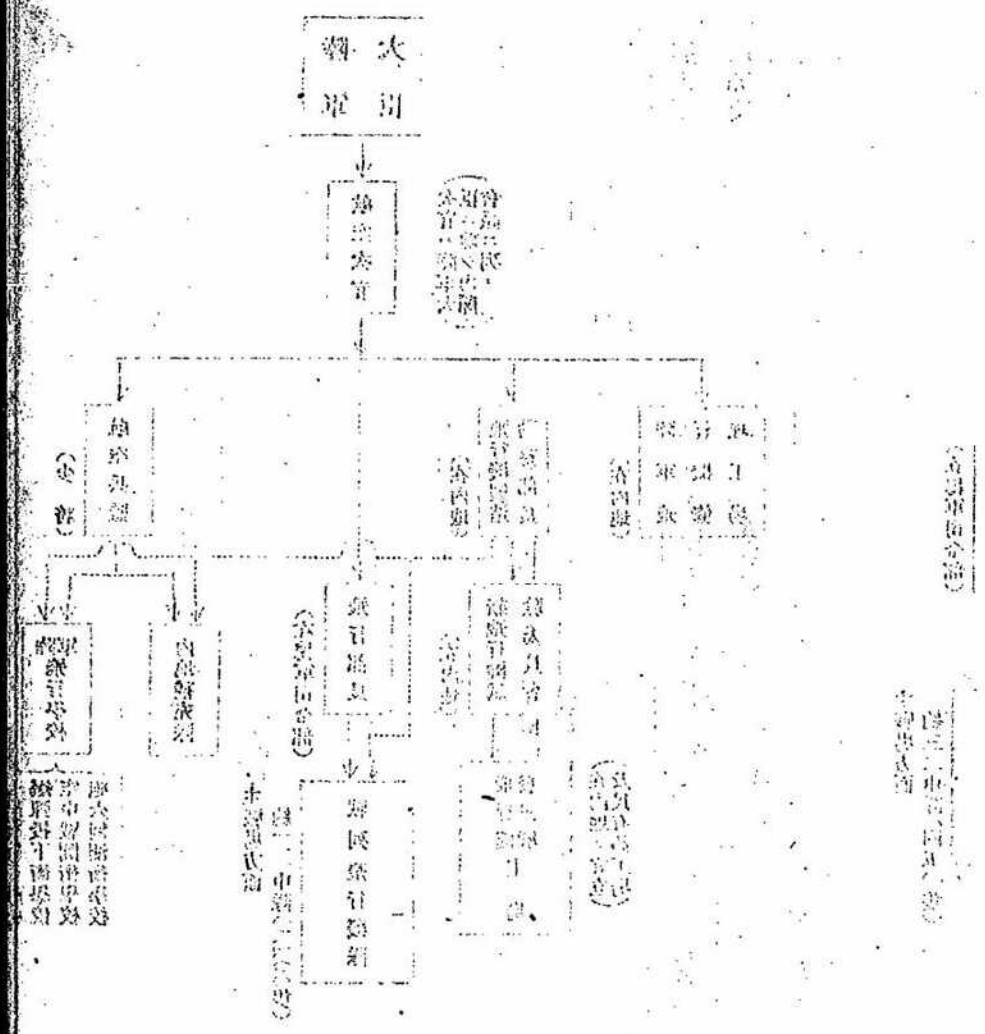
ルコト明白ナリトス

但シ年々斯ノ如キ多數ノ飛行機ヲ建造セムコトハ戰前ノ設備ヲ以テセムカ飛行機工業ノ旺盛ナル歐洲諸國ニ於テモ尙製造力ノ之ヲ許ササルモノアリ例セハ由來飛行機ノ進歩ヲ以テ名アル佛國ニ於テモ開戦ト同時ニ國內ノ飛行機工場全部ヲ動員シテ毎日漸ク四乃至五隻ノ飛行機ヲ製作シ得タルニ過キス開戦當初爾餘ノ諸國ニ於テ飛行機製造力ノ不足ヲ感セシコト推シテ知ルヘキナリ是ヲ以テ佛國ハ開戦後航空次官局ヲ新設シテ銳意飛行機製造力ノ増加ヲ計リ其ノ結果同國ノ製造力ハ目下日製二十五隻内外ノ程度ニ達シ英國亦空中局ヲ設置シテ飛行機工場ノ大々的増設ニ努メ最近飛行機ノ製造力ヲ日製二十隻内外ニ擴張セリト傳フ而シテ飛行機一隻ノ建造費ハ平均一萬五千乃至二萬圓ナルヲ以テ今之ヲ最少限一萬五千圓ト概定スルモ現今佛、英兩國カ飛行機建造ノ爲日々支出シツツアル經費ノ總額ハ大約七十萬圓ニ達ス其ノ他此等諸國カ工場増設等ノ爲支出セシ經費亦實ニ莫大ナリ

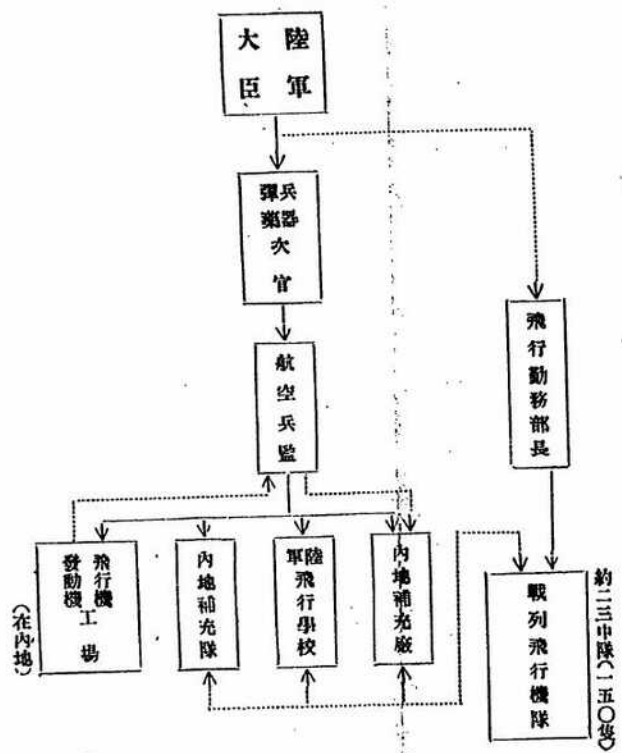
(三) 工場ノ擴張ト其ノ統括機關ノ新設

抑上述ノ如ク飛行機ノ製造力ニ激増ヲ來タセシハ開戦後民間ノ飛行機工場ヲ誘掖シテ其ノ一大擴張ヲ斷行セシメ且内閣若ハ陸(海)軍大臣ニ直隸セル飛行機調辦ノ統括機關ヲ新設シテ專ラ國內ノ飛行機工業ヲ鞭撻指導セシ結果ニ外ナラス而シテ其ノ施設ハ飛行機工業ノ幼稚ナル本邦ノ爲直接參考ニ資スヘキモノ尠シト雖飛行機ノ補充上一大製作機關ノ切要ナルハ現戰役ノ實驗ニ徴シ頗ル明瞭ナリ次表ハ現今佛、英、伊三國陸軍ニ於ケル航空行政機關ノ概要ヲ示ス

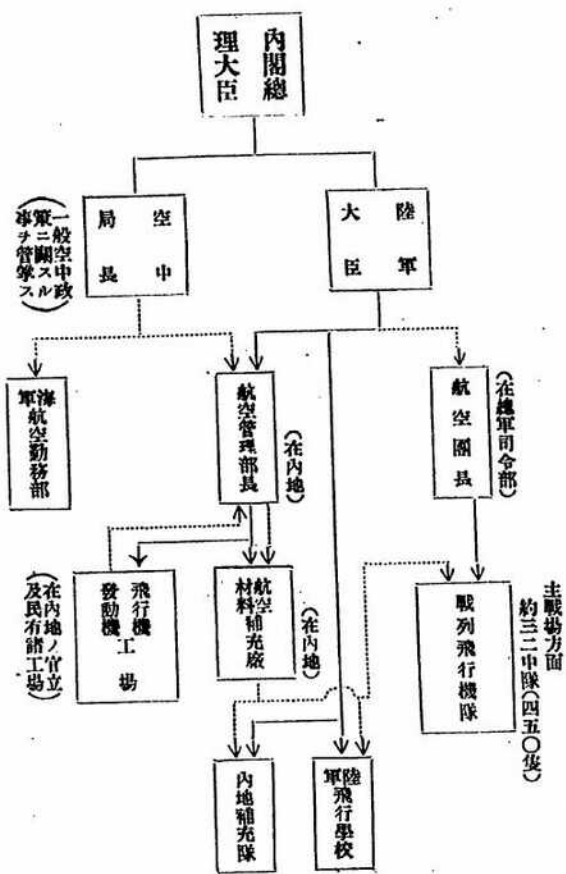
英 要 點 關 於 對 德 空 軍 之 策 略



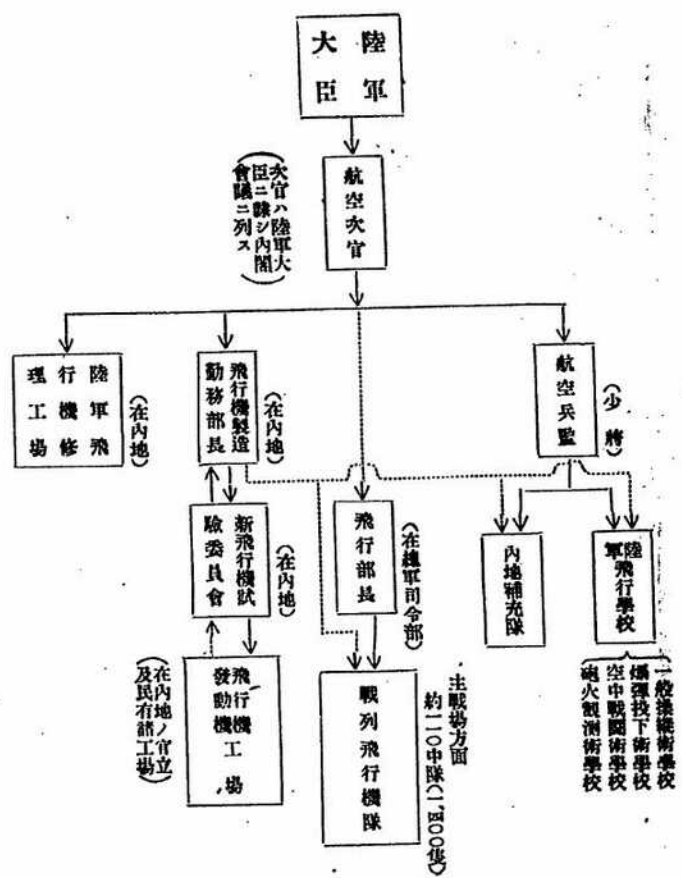
伊軍航空行政機關概要



英軍航空行政機關概要



佛軍航空行政機關概要



備考
補給系統

三 開戦後ノ進歩

飛行機ハ實戦ノ要求ト各國ノ競争的努力トニヨリ前述ノ如ク獨リ機數ヲ激増セシノミナラス其ノ進歩亦實ニ驚クヘキモノアリ即チ軍事上ノ用途ニ基キ開戦以降漸次爆彈攻撃用大型、偵察用中型及驅逐用小型ノ三種ニ岐レテ進歩發達シ以テ各用途毎ニ獨特ノ性能ヲ發揮スルニ至リ最近更ニ廣ク制空權ノ獲得ニ任スヘキ戰闘用大型飛行機ノ現出ヲ見ルニ至レリ

而シテ現戦役カ以上各種ノ飛行機ニ要求シツツアル性能ノ主要條件ヲ按スルニ概ネ次ノ如シ即チ爆彈攻撃ニ任スル飛行機ハ多量ノ爆彈ヲ携行シテ遠ク出動シ得ル爲搭載力ノ大ナルヲ肝要トシ又驅逐用飛行機ニ在リテハ所要ノ際能ク敵機ニ肉薄シ得ル爲特ニ輕快ナルヲ緊要トス其ノ他軍用飛行機ハ地上ヨリスル敵火ノ危険ヲ避クル爲従前ニ比シテ一層高ク飛行スヘキ必要ヲ感スルニ至リ之カ爲戰役前ノ常用飛行高度ハ概ネ八百乃至一千米ニ過キサリシモ現時ノ飛行機ハ專ラ二千乃至三千五百米ノ高空ヲ飛行スルヲ例トシ従テ又迅速ニ所望ノ高度ニ昇騰シ得ヘキ十分ノ上昇能力ト且二千米以上ノ高空ニ於テ出タシ得ヘキ十分ノ大速度トヲ必要トスルニ至レリ

如上ノ諸要求ヲ充足スル爲交戦諸國ハ全力ヲ傾注シテ益輕量強力ノ發動機ヲ製作スルニ努メ以テ之ヲ飛行機ニ適用シ著シク其ノ能力ヲ増加セリ其ノ概要左ノ如シ

(一) 發動機ノ進歩ト馬力數ノ増加

飛行機用發動機ハ開戦以降異數ノ進歩發達ヲ呈シ之ヲ戰前ノモノニ比スレハ其ノ機能頗ル確實トナリ且其ノ出タス馬力數ヲ著シク増大セリ即チ近時ノ發動機ハ少クモ十時間ノ連續運轉ニ堪ヘ更ニ最近連續能ク六十時間ノ運轉ニ適スルモノアルニ至レリ而シテ其ノ出タス馬力數ハ發動機ノ型式及用途ニ應シテ勿論差異アリト雖少クモ百二十馬力以上ニシテ最大限二百五十馬力ニ達ス

從テ開戦當初ノ飛行機ハ平均七十馬力ノ發動機ヲ使用セシニ過キサリシカ現時ノ飛行機ハ小型ノモノト雖百二十馬力又大型ノモノニ在リテハ少クモ二百五十馬力ノ發動機ヲ使用ス其ノ他尙特種ノ大型飛行機中ニハ二箇以上ノ發動機ヲ備ヘテ三百馬力以上ノ動力ヲ使用スルモノアルニ至レリ

(二) 搭載力及航續力

以上ノ如キ馬力數増加ノ爲大型飛行機ノ爆彈搭載量ハ戰役前ノ平均二倍ニ達シ殊ニ千九百十六年春佛國ニ於テ建造セラレタル大型飛行機中ニハ二百三十馬力ノ發動機四箇ヲ備ヘテ總計九百二十馬力ヲ使用シ大約百三十貫ノ爆彈ヲ搭載シテ一舉東京、名古屋間ヲ往復シ得ヘキモノアルニ至レリ其ノ他最近佛、獨諸國ニ於テ建造セラレシ戰闘用大型飛行機中ニハ機關銃數銃ノ外尙口徑三十七密内外ノ速射輕砲ヲ搭載セルモノアリ

(三) 上昇能力及速度

又馬力數増加ノ結果飛行機ノ上昇能力及速度モ共ニ著シク増加セリ即チ開戦當初ノ飛行機ハ離陸後二、三十分ヲ費シテ漸ク一千米ノ高度ニ昇騰シ得ヘキ程度ニ過キサリシカ今ヤ最重キ大型飛行機ト雖二十五分内外ニテ能ク二千米ノ高空ニ達シ得ヘク尙小型飛行機ニ在リテハ二千米ヲ昇ルニ僅々七、八分ヲ要スルノミ

速度モ亦開戦當初ノ一倍半以上ニ進歩シ即チ開戦當初軍用飛行機ノ平均速度ハ千米以下ノ低空飛行ニ於テ毎時間百吉米内外ニ過キサリシモ現時ノ飛行機ハ前述ノ如ク專ラ二千米以上ノ高空ヲ飛行シ而シテ此ノ高空飛行ニ於テ大型ノモノト雖其ノ速度毎時間百三十吉米又小型ノモノニ在リテハ毎時間百六十吉米以上ニ達ス

(四) 飛行學校ノ増設ト飛行術ノ進歩

上述ノ如ク交戰諸國ハ孜孜飛行機ノ進歩發達ニ努力スルト同時ニ一方飛行學校ヲ改良擴張シテ操縦者要員ノ養成及其ノ伎倆ノ高上殊ニ最近空中戰ノ實驗ニ鑑ミ敵機ヲ急襲驅逐スル爲急轉、直上、直下等巧妙ナル飛行術ノ演練ニ努メ又特種ノ飛行學校ヲ創設シテ一部ノ者ニ宙返リ飛行ヲ演練セシムルモノアル等操縦者教育ノ爲多大ノ顧慮ヲ拂ヒツツアリ例セハ佛國ノミニテモ開戦後陸軍ニ於テ新ニ開設セシ主要ナル飛行學校ノ數ハ十箇以上ヲ算ス之カ爲飛行術ハ大ニ進歩セルモノアリ即チ最近佛國ニ於テハ十一分ニテ三千米ノ高度ニ昇リ且此ノ高空ニ於テ毎時間能ク百八十三吉米ノ速度ヲ出タセシモノアリト傳フ

四 航空船ノ概況

現今實戰ノ使用ニ堪フヘキ航空船ヲ有スルハ交戰諸國中獨リ獨國ノミトス此ノ航空船ハ所謂「ツエツペリン」ト稱スルモノニシテ屢英、佛兩國ヲ襲撃セルハ世人ノ熟知スル所ナリ

而シテ情報ヲ綜合スルニ開戰當初獨國ノ保有セシ「ツエツペリン」ノ總數ハ僅々十一、二隻ニ過キサリシモ開戰以降枚々之カ新造ニ努メ千九百十六年三月末迄ニ於テ大約其ノ七十五隻ヲ建造セルカ如シ但シ「ツエツペリン」ハ開戰後各地ニ出動シ之カ爲大約三十五隻ヲ喪失セシカ故ニ現時獨國ノ保有スル「ツエツペリン」ノ總數ハ大約五十隻ヲ下ラサルモノト推定セラル

抑「ツエツペリン」毎隻ノ建造費ハ約八十萬圓ニシテ尙之カ格納庫ノ建造費ニ二十乃至三十萬圓ヲ必要トス從テ獨國カ開戰後「ツエツペリン」新造ノ爲ニ支出セシ經費ハ之カ製作ニ從事スル工場ノ増設費ヲ除クモ大約七千萬圓ヲ下ラス其ノ他航空船ノ運轉(揮發油、滑油及水素瓦斯)保存及修理費等ヲ合スレハ「ツエツペリン」カ活動ノ爲ニ要スル經費ハ蓋シ莫大ナルヘシ

翻テ「ツエツペリン」進歩ノ跡ヲ見ルニ新造ノ「ツエツペリン」ハ號ヲ逐テ益厖大トナリ其ノ氣囊ノ如キ開戰當初多クモ二萬立方メートルヲ超エサリシカ近時概ネ三萬二千乃至五萬五千立方メートルヲ算シ搭乗人員二十五名及機關銃六銃ト約千五百吉瓦ノ爆彈トヲ搭載シテ一舉東京、京城間若ハ東京、浦鹽間ヲ往復シ得ルカ如シ

獨國ハ實ニ如上ノ「ツエツペリン」ヲ使用シ或ハ英、獨海戰ニ於テ其ノ偉大ナル搜索の威力ヲ發揮センメ

其ノ他開戰以降屢英、佛兩國ヲ襲ヒテ爆彈攻撃ニ任セシメツツアリ而シテ此ノ爆彈攻撃ハ徒ニ無辜ノ住民ヲ殺傷スル外物質上ノ效果尠キカ如シト雖之カ爲英、佛兩國ニ於テ屢空中防禦ノ問題ヲ惹起シ數次制度ノ改廢ヲ行フ等國內ノ議論喧シキニ徴スレハ尠クモ敵國ノ人心ヲ擾亂スル爲相當ノ威力ヲ呈シツツアルモノト推測スルコトヲ得

五 繫留氣球

繫留氣球ハ最近飛行機及航空船進歩ノ爲一時軍事上ヨリ閑却セラレタリト雖開戰後幾モナク西方戰場ニ於テ恰モ要塞ノ攻防戰ニ類似セル特種ノ戰況ヲ現出セシ爲速ニ其ノ需要ヲ激増スルニ至リ之カ爲交戰諸國ハ倉皇多數ノ繫留氣球ヲ製作シ千九百十五年秋以降之ヲ各戰略單位毎ニ一箇ノ割合ヲ以テ配屬シ飛行機ノ補助トシテ日々敵情ノ偵察及砲兵射撃ノ觀測ニ從事セシメツツアリ從テ天氣晴朗ノ日西方戰場ニ於テハ點々空中ニ浮ヘル數十ノ氣球ヲ見サルコトナシト云フ而シテ其ノ構造ノ如キ實戰ノ經驗ニ鑑ミテ多少改良進歩セラレタルモノアルヲ認ム

第一三 自動車ノ狀況

一 開戦前ニ於ケル自動車ニ關スル各國ノ施設

自動車ノ軍事上必要ナルコトヲ豫期シタル歐洲各國政府ハ戰時利用シ得ヘキ自動車ヲ成ルヘク多數ニ其ノ領土内ニ所有セムコトヲ企圖セリ然レトモ如何ニシテ之ヲ所有スルカハ苦心研究シタル問題ニシテ多數ノ國民カ自動車ヲ所有スルコトハ最初ニ於ケル購買價格ノ低廉ナラサルト之カ維持ニ多額ノ費用ヲ要スルトニ依リ頗ル難事タリ又若政府カ平時ヨリ豫メ多數ノ自動車ヲ整備シ置クトセハ之カ爲巨大ノ不生産的資材ヲ要シ而モ之カ新陳交換ノ困難ナルト數年ヲ經過セハ世ノ進歩ニ遅レタル自動車ヲ尙使用セサルヘカラサルトノ不利アリ是ニ於テ政府ハ一定ノ型式ヲ指定シ此ノ種自動車ノ所有者ニハ年々一定ノ補助金ヲ交付シ開戦ニ當リ直ニ之ヲ政府ニ提供シ得ル如ク平素完全ニ保持スルノ義務ヲ負ハシメ陸軍ニハ單ニ教育上必要ナル自動車及戰時民間ヨリ提供ヲ受クルコト能ハサル特殊ノ構造ヲ有スル自動車ノミヲ所有スルノ策ヲ講シタリ而シテ乗用自動車ハ民間ノ需用多大ニシテ有事ノ場合適宜之ヲ徵用スルニ支障ナキヲ以テ自動貨車及自動列車ニノミ補助金ヲ交付スルヲ常トセリ是即チ英、佛、獨、埃、匈國ニ行ハルル自動車獎勵ノ爲ノ補助金支給ノ制度ナリトス

補助金制度ノ趣旨ハ各國概ネ其ノ軌ヲ一ニスルモ自動車ノ形狀及種類ハ主トシテ使用スヘキ道路其ノ他

軍隊ノ組織、國情等各國不同ナル爲差異アルヘキハ勿論ニシテ現ニ其ノ補助金ヲ與フル自動車ノ型式ニ關シテモ獨、埃匈兩國ハ其ノ設計、構造等ニ關シ最細密ニ之ヲ規定シ英國ハ其ノ制限ヲ稍寬大ニシ佛國ハ最採用ノ範圍ヲ擴大シアリ之ヲ要スルニ各國共補助金制度ヲ設ケシ以來民間ハ之ニ促進セラレテ商業及一般ノ交通上ニ多數ノ自動車ヲ所有シ遂ニ今次戰役ニ偉大ノ效果ヲ發揮スルニ至レリ

露、伊兩國ハ未タ補助金制度ヲ設ケサルモ其ノ政府ハ軍用トシテ時々所要ノ自動車ヲ購入シタルノミナラス露國ノ如キハ開戰直前ニ至ルマテ自動車ノ制度ニ關シ調査ヲ續行シツツアリタリ

開戰前及現時ニ於ケル各國用自動車數ハ附表ノ如シ

以下各國ニ就キ述ヘムトス

(一) 英國

英國ハ千九百十六年陸軍省內ニ動力輸送委員ヲ設置シテ自動車ノ研究ヲ開始シ同時ニ自動車中隊四箇ヲ創設シテ諸種ノ運行試驗ヲ實施セシメ爾後大演習其ノ他ノ演習ニ參加セシムル等極メテ慎重ナル調査研究ヲ遂ケ千九百十二年自動車獎勵規則ヲ發布シ戰時ニ於テ師團輜重及兵站輜重中ニ自動車ヲ充當スルノ計畫ヲ確立シタリ

(二) 佛國

千九百十三年軍用自動車教育班ヲ設置シ千九百十七年以來諸種ノ運行試驗ヲ實施シ千九百十年自動車獎勵規則ヲ發布スルト共ニ自動車ヲ以テ糧秣ノ補給ヲ行フニ決シ屢大演習其ノ他ノ演習ニ於テ自動車隊ヲ編成シテ後方勤務ニ關スル實驗ヲ遂ケ又時々兵員輸送ノ演習、攻城重砲牽引試驗等ヲ行ヒ其ノ結果自動車ハ戰時主トシテ鐵道ノ端末ト師團輜重間ニ於ケル糧秣、彈藥ノ輸送ニ任シ尙他ノ勤務ニモ使用スル如ク計畫セリ

(三) 露國

露國ハ千九百十年七月自動車教導隊二隊ヲ設置シ翌千九百十一年以來既ニ數回民間自動車ノ長途競争運及軍用自動車ノ耐久試驗ヲ實施シ又千九百十一年ニハ騎兵大演習ニ自動車ヲ參加セシメ之ヲ實際的ニ使用シテ其ノ研究ヲ進メ千九百十二年八月ニハ軍用自動車トシテ最良ノ型式ヲ選定スル爲民間自動車ヲ以テ自動車運行試驗ヲ行ヒ千九百十三年自動車幹部養成ノ目的ヲ以テ自動車學校ヲ創設スル等熱心ニ自動車ニ關スル諸般ノ施設ニ從事シタリ而シテ自動車獎勵法案既ニ脱稿シ之ヲ議會ニ提出スルノ運ニアリタルモ未タ實施スルニ至ラスシテ今次戰爭ノ幕ヲ開キタリ

(四) 伊國

伊國ハ千九百十年二月將校ニ自動車運轉術ヲ研究セシムル爲自動車運轉術研究科ヲ設立シ翌千九百十一年自動車中隊二箇ヲ設置シ自動車ノ研究及運轉手ノ養成ニ努メタリ

(五) 獨國

獨國ハ千九百七年自動車中隊ヲ創設シ千九百十一年之ヲ大隊ニ擴張シ千九百八年自動車獎勵規則ヲ發布シタリ又千九百七年以來毎年大規模ノ自動車運行試験ヲ實施シ且屢大演習其ノ他ノ演習ニ自動車隊ヲ參加セシムル等諸般ノ研究ニ從事シ千九百十三年三月ニハ野戰自動車隊勤務令ヲ發布スルト共ニ自動車隊ヲ戰時編制ニ組入ルルニ至レリ

(六) 埃匈國

埃匈國ハ千九百七年自動車中隊ヲ創設シ千九百十年三月軍用自動車ニ關スル陸軍大臣ノ補助機關トシテ自動車研究部ヲ編成シ爾後幾多ノ試験及演習ヲ實施シタリ又千九百十一年自動車獎勵規則ヲ發布セリ

(七) 其ノ他ノ諸國

白、土、塞、勃、羅國等ハ開戰前相當ノ施設ヲ爲シタルコト事實ナルカ如キモ未タ其ノ詳細ヲ知ル能ハス

二 開戰後ニ於ケル自動車ノ利用

自動車ノ軍事上ニ於ケル主ナル用途ハ開戰前ト等シク依然自動車ヲ以テスル軍需品ノ輸送ニアリト雖戰争ノ經過ニ伴ヒ其ノ用途頗ル多岐ニ亘レルト共ニ其ノ需要モ亦激増シタル爲各國ハ一方自國內ニ於ケル自動車ノ製作ヲ督勵スルト同時ニ一方外國品ノ購入ヲ努メツツアリ今試ニ此等多數ノ自動車カ如何ニ利用セラレアルヤニ就キ其ノ主ナルモノヲ順序ニ概説スレハ左ノ如シ

一 軍需品ヲ輸送シテ軍ノ補給ヲ容易ニス

軍需品ヲ輸送スル爲各國軍ノ多クハ一噸半乃至三噸積自動車(此ノ外ニ平時ヨリ補助金ヲ與ヘテ準備セル自動車アルモ其ノ數甚タ少シ)ヲ使用ス實ニ開戰ノ初期ニ於テ獨ノ大軍カ疾風迅雷的ニ白耳義ヲ突破シ續テ日々約二十哩ノ速力ヲ以テ巴里城下ニ殺到シタル行動ノ敏活ナルハ主トシテ鐵道ノ力ニ由ルト雖又自動車カ軍需品ノ輸送ヲ補助シ以テ作戰軍ニ著大ナル推進力ヲ與ヘタル結果ナリト謂ハサルヘカラス又「ヴェルダン」附近ノ戰闘ニ於テ佛軍ハ日々費消スル莫大ノ彈藥、糧秣ヲ輸送スルニ到底鐵道ノミニテハ其ノ需要ヲ充タス能ハサルニ至リ千九百十六年二月初旬新ニ自動車補給線路ヲ設ケ多數ノ自動車ヲ以テ主トシテ彈藥ノ輸送ヲ行ハシメタリ該要塞カ今日マテ克ク抵抗ヲ持續シアルハ此ノ自動車ノ效果ニ俟ツモノ大ナリト謂ハサルヘカラス

二 兵員ノ輸送ニ使用シ軍ノ機動力ヲ増大ス

此ノ利用ハ本戰争ニ於ケル特殊現象ノ一ニシテ又自動車獨特ノ長所ヲ利用スルモノナリ蓋シ會戰間敵ノ豫期セサル方面ニ軍隊ヲ使用セムトシ或ハ我カ企圖スル決戰場裡ニ將タ敵ニ對シ危險ヲ感スル方面ニ隨意ニ兵員ヲ輸送シ得ルヲ以テナリ之カ爲各國軍ハ主トシテ乗合自動車及自動車ヲ使用シ時トシテ乗用自動車ヲ以テ補足スルコトアリ佛軍ハ開戰後四箇月間ニ自動車ノミヲ以テ輸送セシ兵員ハ其ノ數三十五萬人ニ達スト謂フ以テ自動車利用ノ一端ヲ窺フヲ得ヘシ

- 三 自動車ノ牽引ニ依リ大口徑重砲ヲ野戰ニ使用ス
大口徑重砲ニ運動性ヲ附與シ之ヲ野戰ニ使用スルニ至レルハ全ク自動車ノ牽引アルカ爲ナリ各國軍ハ漸次其ノ數ヲ増加シ所謂自動車砲兵隊ヲ編成シツツアリ
- 四 衛生勤務ニ使用シ患者ノ後送ヲ安全迅速ニシ且治療ヲ容易ニス
患者ヲ戰線ヨリ後方ニ搬送スルニハ從來擔架又ハ馬曳車輛ヲ用キタルモ其ノ速度緩慢ナルノミナラズ普通車輛ハ震動烈シキヲ以テ患者ニ苦痛ヲ感セシメタリ然ルニ自動車ハ其ノ速力ノ大ナルト動搖ノ柔軟ナル等有利ナル特長ヲ有シ特ニ急速ニ後送ヲ要スル患者ノ爲ニハ最大ナル便益ヲ有スルヲ以テ各國軍ハ大ニ患者自動車ヲ増加シツツアリ
- 五 指揮、通信、連絡ニ使用シテ軍ノ統帥ヲ補助ス
作戰軍兵力ノ龐大ハ會戰ニ於ケル戰鬪正面ヲ著シク擴大セリ從テ之ヲ指揮スル爲電信、電話等通信ノ諸機關完全ニ設備セラルルト雖單ニ之ノミニ依頼シ得ヘキモノニアラス必要ノ場合ニハ幕僚ヲシテ迅速ニ戰況ヲ觀察セシメ又ハ緊要ナル命令ノ傳達ヲ爲サシメ或ハ他軍トノ連絡ヲ取ラシムルノ必要アリ又高等司令部ノ移動極メテ迅速ナルヲ要スルコト多シ即チ此等ノ勤務ノ爲本戰爭ニ於テ各國軍ハ其ノ各司令部ニ若干輛ノ乘用自動車及自動二(三)輪車ヲ配屬スルニ至レリ
通信勤務ニ於テモ自動車ハ單ニ命令、報告ヲ迅速ニ傳達スルノ用ニ供スルニ止マラス各國軍ハ尙種々ノ任務ニ服セシメツツアリ即チ車體ニ裝置シタル儘通信シ得ル移動的無線電信所タル無線電信用自動車、自動車上ニ移動的電力供給所ヲ設備シ之ニ有スル強大ナル發電機ニ依リ電流ヲ回光通信機ニ與ヘ若ハ通路及掩蓋ノ照明ニ用キ又ハ鐵條網ニ電力ヲ供給スル電力供給用自動車、傳書鳩ヲ自動車上ニ棲息セシムル傳書鳩自動車及野戰郵便自動車ヲ使用ス此ノ野戰郵便自動車ノ野戰郵便輸送ニ貢獻シツツアルコトハ各國軍ノ何人モ深ク感謝スル所ナリト謂フ
- 六 戰鬪及偵察ニ使用シ各種戰術的任務ヲ達成ス
敵ノ航空機ヲ射撃スル爲速射砲ヲ速度輕快ナル自動車ニ裝備スル所謂自動車砲ヲ用ウルノ外各國ハ戰鬪及偵察ノ爲装甲自動車ヲ使用ス装甲自動車ハ通常機關銃或ハ口徑殆ト野砲ニ等シキ速射砲ヲ裝備シ若ハ機關銃ト速射砲トヲ併セ裝備シ鋼板ヲ以テ其ノ火器ト共ニ自動車ノ殆ト全部ヲ覆フモノトス

- 七 道路修理、鐵條網破壞、塹壕掘開等ノ作業ニ使用ス
装甲自動車ノ戰術的價值偉大ナルコト各國軍ノ等シク之ヲ認容スル所ナリ開戰ノ劈頭獨軍騎兵團ニ屬スル装甲自動車隊カ白耳義軍及同國民ヲシテ殆ト抵抗スル能ハスシテ彼ノ跳梁ニ委シタルカ如キ昨千九百十六年七月以後ニ於ケル「ソナム」方面ノ英、佛軍ノ攻勢ニ於テ英軍ノ新式装甲自動車「タシク」ト稱ス)カ獨軍ニ驚怖ヲ與ヘタルカ如キハ何レモ著明ノモノナルヘシ

此ノ種ノ利用ハ以上述ヘタルモノニ比シ其ノ效果少キカ如クナルモ概ネ各國軍ニ於テ實施シツツアリ

八 其ノ他ノ特種勤務ニ使用ス

以上ノ外尙各國軍ノ一部ニ於テハ自動車内ニ設備セル炊具ヲ以テ炊爨スヘキ炊爨用自動車、戦地ニ於テ禮拜スル爲自動車内ニ禮拜堂ヲ有スル野戰禮拜用自動車等ヲ使用ス

之ヲ要スルニ歐洲戰場ニ於ケル自動車利用ノ盛況夫レ斯ノ如シ傳聞スル所ニ依レハ苟モ自動車使用ノ必要ヲ見ルヤ彼等ハ地形、道路ノ不良等ヲ以テ之カ實行ヲ躊躇セス斷然之ニ必要ナル補修ヲ加フルト同時ニ一方車輛ニ對スル特殊ノ技術的考案ヲ加フル等人工ヲ以テ凡百ノ自然ニ打勝タスムハ已マサルノ概ヲ見ルト謂フ深ク鑑ミサルヘカラス

國	國	國	國	國	國
英國	美國	法國	德國	日本	蘇俄
英國	美國	法國	德國	日本	蘇俄
英國	美國	法國	德國	日本	蘇俄
英國	美國	法國	德國	日本	蘇俄
英國	美國	法國	德國	日本	蘇俄
英國	美國	法國	德國	日本	蘇俄
英國	美國	法國	德國	日本	蘇俄
英國	美國	法國	德國	日本	蘇俄
英國	美國	法國	德國	日本	蘇俄
英國	美國	法國	德國	日本	蘇俄
英國	美國	法國	德國	日本	蘇俄
英國	美國	法國	德國	日本	蘇俄

交運機關軍用自動車一覽表 (大正六年六月一日附)

此ノ種ノ利用ハ以上述ヘタルモノニ比シ其ノ效果少キカ如クナルモ概ネ各國軍ニ於テ實施シツツアリ

八 其ノ他ノ特種勤務ニ使用ス

以上ノ外尙各國軍ノ一部ニ於テハ自動車内ニ設備セル炊具ヲ以テ炊爨スヘキ炊爨用自動車、戦地ニ

附表

交戦諸國軍用自動車數一覽表

(大正六年六月一日調)

考 備	開 戦 當 時				現 時				
	國 名	開 戦 當 時	現 時	國 名	開 戦 當 時	現 時	國 名	開 戦 當 時	現 時
一 黒國、葡國モ若干ノ軍用自動車ヲ有スルモノノ如クナルモ其ノ數不明ナリ 二 本表中露國、獨國及埃匈國ノモノハ其ノ計算過大ノ疑アリ	英 國	二、五五〇 (内三〇〇政府保護自動車)	三〇、〇〇〇 (内一五、〇〇〇自動車)	獨 國	八〇、〇〇〇 (内二五〇政府保護自動車)	一〇〇、〇〇〇 (内二五、〇〇〇自動車)	獨 國	八〇、〇〇〇 (内二五〇政府保護自動車)	一〇〇、〇〇〇 (内二五、〇〇〇自動車)
	佛 國	一四、五〇〇 (内三〇〇政府保護自動車)	八〇、〇〇〇 (内二五、〇〇〇自動車)	埃 匈 國	二二、四〇〇 (内一、四〇〇自動車)	三〇、〇〇〇 (内三、〇〇〇自動車)	埃 匈 國	二二、四〇〇 (内一、四〇〇自動車)	三〇、〇〇〇 (内三、〇〇〇自動車)
	露 國	三、五〇〇 (内五〇〇陸軍用自動車)	四〇、〇〇〇 (内二〇、〇〇〇自動車)	土 國	七五〇 (内五〇自動車)	七五〇 (增加數不明)	土 國	七五〇 (内五〇自動車)	七五〇 (增加數不明)
	伊 國	四、〇〇〇 (内五〇〇陸軍用自動車)	一〇、〇〇〇 (内五、〇〇〇自動車)	物 國	三〇〇 (軍用、民用不明)	三〇〇 (增加數不明)	物 國	三〇〇 (軍用、民用不明)	三〇〇 (增加數不明)
	白 國	一〇、三〇〇 (軍用、民用不明)	一〇、三〇〇 (增加數不明)						
	塞 國	一二五 (軍用、民用不明)	一二五 (增加數不明)						
	羅 國	一、七〇〇 (軍用、民用不明)	一、七〇〇 (增加數不明)						

第一四 鐵道ノ狀況

今次ノ戰役ニ於テ歐洲交戰諸國ハ其ノ鐵道ノ能力ヲ遺憾ナク發揮セリ即チ充員召集ニ應スル者ハ召集令狀若ハ兵役證書ヲ示スノミニテ隨時ニ無賃乗車セシメテ動員ヲ迅速ニシ或ル場合ニハ一時間四十吉米ノ平均速度ヲ出タシ十五分乃至二十分ヲ間シ一日ニ平均六十乃至九十ノ列車ヲ些ノ故障ナク運行シ以テ軍ノ集中、移動、補給ヲ迅速且容易ニシテ其ノ機動力及戰鬪力ヲ増進スル等鐵道運用ノ適切巧妙ナル真ニ稱嘆ニ堪ヘ得サルモノアリ殊ニ惡疫豫防ノ爲浴場列車ヲ、火炮ノ移動ヲ容易迅速ナラシムル爲裝甲列車或ハ列車砲等ヲ戰線ニ沿フテ馳驅セシムル如キハ鐵道應用ノ手段絶大ニ達セルモノト謂フヘシ今開戰直前ニ於ケル歐洲主要諸國ノ鐵道(輕便鐵道ヲ除ク)ニ關スル數字上ノ狀態ヲ比較スレハ左表ノ如シ

區分	國名	資本額	營業哩數	營業一哩ニ對スル人口		百平方哩ニ對スル營業哩數		輪轉材料 <small>(營業百哩上ニ於ケル)</small>		
				營業一哩ニ對スル人口	百平方哩ニ對スル營業哩數	機關車	客車	貨車		
英國	英國	一、二、九九三 <small>(百萬元)</small>	二、三、六九一 <small>(哩)</small>	一、九四三 <small>(人)</small>	一九三 <small>(哩)</small>	一〇五 <small>(輛)</small>	一一〇 <small>(輛)</small>	一、三七八 <small>(輛)</small>	三、八〇〇 <small>(輛)</small>	
佛國	佛國	七、四四〇	二、五、一九四	一、〇四一	一五三	五一	一二〇 <small>(輛)</small>	一、三七八 <small>(輛)</small>		
露國	露國	七、〇一七	四、一、六二二	三、三六〇	一〇九	五〇	五〇	一、一一四 <small>(輛)</small>		
伊國	伊國	?	一〇、八〇〇	三、二四〇	九八	四九	九三	九八七 <small>(輛)</small>		

獨 國	九、一六〇	三七、八五四	一、六九八	一九〇	七四	一五五	一、五七〇
奧 匈 國	五、三四七	二七、四八八	一、七九二	一〇、九	四二	八三	九三四

右表ニ依レテ、英、獨國ハ鐵道網ノ稠密ナル點ニ於テモ又輪轉材料ノ豐富ナル點ニ於テモ最優越ヲ示シアリ是單ニ數字上ノ比較ニ止マルモ要スルニ獨國鐵道網ノ完備セルコトハ戰時其ノ欲スル方面ニ莫大ナル輸送力ヲ賦與シ得ルヲ以テ今次戰爭ニ於テ東西兩戰場ニ在ル優勢ナル聯合軍ニ對シ局部ニ於テ或ハ優勢ヲ占メ或ハ均衡ヲ保チツツ今日ニ至ルノ一因ヲ爲セリ

以下交戰主要諸國ニ就テ鐵道ノ狀態ヲ概説セムトス

一 英國

英國ノ鐵道網ハ平時ヨリ軍事上ノ顧慮ヲ加味シ計畫的ニ建設セラレタルモノ極メテ尠ク寧ロ一般産業ノ振興ニ伴ヒ自然ニ發達シ來リシモノナルヲ以テ幾多ノ私設會社ニ依リ經營セラレ軍事上ノ見地ヨリ觀察スルトキハ遺憾ノ點尠カラズ去リトテ既ニ國內ニ普及シタル鐵道網ハ一朝一夕ニ改革シ得ヘクモアラス是ニ於テ政府ハ軍事上ノ要求ニ對スル調和策トシテ開戰數年前ヨリ各私設鐵道會社支配人ヨリ成ル鐵道軍事委員ヲ設置シ戰時國內ノ鐵道ヲ如何ニ活用スヘキヤヲ計畫セシメタリ

各私設鐵道ハ概ネ其ノ端末ヲ港灣ニ導キ此處ニ良好ナル埠頭(各會社カ港灣ニ於ケル海陸連絡ノ設備ニ

千九百十三年度ニ於テ四千萬磅乃至五千萬磅ヲ投資セルニ見ハ如何ニ其ノ規模ノ宏大ニシテ且完全ナルカノ一端ヲ窺フニ足ラム)ヲ有スルト前記ノ計畫ニ基キ鐵道業務ニ精通セル鐵道管理委員ノ適切ナル運用ト相俟テ海陸連絡圓滿ニ實施セラレ嘗テ英國國民ノ夢想シ能ハサリシ未曾有ノ大戰ニ際シ軍事上竝一般國民ノ生存上必要ナル交通ニ對シ克ク其ノ任務ヲ遂行シツツアリ

二 佛 國

佛國ハ千八百七十年戰役ノ苦キ經驗ニ鑑ミ戰後鐵道網ノ大成ト其ノ改善トニ努力シ而モ其ノ鐵道網ハ總テ佛、獨國境ニ對スル集中鐵道ニ甚大ノ注意ヲ拂フニ至リタリ其ノ結果現在ノ鐵道網ハ佛、獨國境ニ對スル複線九條ノ外佛、白國境方面ニ對シテモ亦複線九條ヲ有シ「アルサス」方面ニ對シテ作戰スル團隊ヲ白國方面ノ戰場ニ移動スル爲少クモ六、七條ノ複線ヲ有スルニ及ヒ獨國ノ其ノ西方國境ニ對スル鐵道網(後文之ヲ示ス)ト著シキ差異ナキニ至レリ

現時佛國ノ鐵道ハ其ノ大部ハ私設鐵道會社ノ所有ニ屬スルヲ以テ政府ハ嘗テ全鐵道ノ國有案ヲ企圖シ以テ國防ノ整備ニ努メタリシモ財政ノ狀態未タ之ヲ實施スルニ至ラス從テ國軍ノ作戰計畫ニ基ク軍事鐵道輸送ニ滯支障ナカラシムル爲千八百八十九年以後終始陸軍官憲ヲシテ各鐵道會社ノ平時設備並其ノ勳員計畫ニ關與セシメ戰時ニ至レハ國內鐵道ハ總テ陸軍官憲ノ管理ニ屬シ以テ軍事鐵道勤務ニ遺憾ナカラシメタリ

千九百十四年八月一日全國ノ動員ヲ令スルヤ國內ノ鐵道ハ悉ク陸軍ノ管理ニ入ルト共ニ各鐵道會社ノ所有スル鐵道諸材料ハ平時ヨリノ計畫ニ基キ悉ク之ヲ軍事輸送ノ爲陸軍官憲ニ徵發シ爾後自國及英國ノ大軍並之ニ要スル巨萬ノ軍需諸品ヲ輸送シ軍事上及一般交通上ニ大ナル支障ヲ招クニ至ラザリキ是畢竟平時ニ於ケル施設ノ完備セルト利用ノ優秀ナルトヲ證スルモノニシテ苦心努力ノ效果ニ歸セスムハアルヘカラス

三 露國

露國ハ日露戰爭後大ニ戰略鐵道ノ改善ヲ企圖シツツアリタルカ如シト雖元來西方國境ニ對スル鐵道網ハ極メテ稀薄ニシテ到底之ニ對スル獨國鐵道網ノ稠密ナルニ比スヘクモアラサルヲ以テ千九百十三年佛國ヨリ五十億法ノ借款ヲ爲シ主トシテ西方國境ニ於ケル鐵道ノ増設ニ著手セルモ其ノ工事未タ大ナル進捗ヲ見ルニ至ラスシテ頗ル不利ナル状態ノ下ニ獨國ニ對シ宣戰スルニ至レリ一説ニ依レハ獨國カ千九百十四年ニ開戰スルニ至リタルハ露國ノ此ノ不利ニ乘セムトスルニアリタリト謂フ
今露國ノ鐵道網ヲ觀察スルニ西方國境方面ニ對シテハ複線四條、單線三條ヲ、「ガリシヤ」方面ニ對シテハ複線二條、單線二條ヲ有スルニ過キス然ルニ之ニ對スル獨、埃國ハ稍密ナル鐵道網(後文之ヲ示ス)ヲ有シタリ是即チ開戰當初露軍ノ集中甚タ緩漫ナリシニ比シ獨、埃軍ノ集中大ニ迅速ナリシ所以ナリ
露國鐵道ノ軌隔ハ五呎(一米五二)ナルニ獨國鐵道ノ軌隔ハ一米四五ナルヲ以テ開戰ノ當初露國ハ波蘭及

露本國ニ向テスル獨、埃軍ノ直通鐵道輸送ヲ免レタリ一説ニ依レハ獨國ハ平時ヨリ輪轉材料ノ車軸ヲ變シテ露國鐵道線路上ニ運轉シ得ルノ準備ヲ爲シアリタリト謂フモ露軍カ自國內ヲ退却スルニ際シ其ノ有スル輪轉材料ヲ運搬シ去リタルヲ以テ獨軍ハ鐵道利用ニ多少ノ不便ヲ感シタルカ如シ
要スルニ露國ハ交戰諸國中最大ノ兵力ヲ擁スルニ拘ラス開戰以來概ネ其ノ優勢ヲ發揮シ能ハサル所以ノモノハ他ニ種々ノ原因アルヘキモ稀薄ナル鐵道網モ亦其ノ一大原因ナリト斷言スルヲ憚カラス鐵道ノ全力ヲ擧ケテ作戰ニ傾注セシ結果ハ到ル處貨物ノ大停滯ヲ惹起シ物價ノ騰貴著シク國民ハ物資供給ノ不足ニ因リ苦惱ヲ極メ遂ニ革命ノ一原因ヲ爲スニ至レリ

四 伊國

伊國ノ鐵道ハ千九百五年以來其ノ大部ヲ國有トセルモ多クハ單線ニシテ且國ヲ通シテ山岳多ク爲ニ線路ノ勾配概シテ急ナル等其ノ輸送能力ニ於テ缺陷アリシヲ以テ開戰直前ヨリ複線鐵道ノ増設、線路及停車場ノ改築、輪轉材料ノ増加等ニ依リ大ニ其ノ面目ヲ一新スルニ至リ爲ニ開戰後概シテ軍事上ノ要求ニ合スル如ク運轉セラレ而モ一般交通及輸送ニ甚シキ支障ヲ招キタルコトナカリキ

五 獨國

獨國鐵道網ハ現時世界中最軍事的ニ發達シアルモノトス即チ鐵道網中平時ハ殆ト收益ナキモ戰時ノ必要アルカ爲敷設シアルモノ少カラス又國境附近ノ停車場ハ待避線、軍用乘降場等總テ軍事上ノ要求ニ基キ

構築セラレアリ

獨國ハ歐洲國際關係ノ變動ニ伴ヒ佛國ヲ敵トスルノミナラス露國ヲモ亦敵トセサルヘカラサルニ至ルヤ
電光石火ノ速度ヲ以テ國軍ヲ西方國境ニ集中シ先ツ佛軍ヲ破碎シ然後東方ニ反轉シ動員及其ノ集中ノ
緩慢ナル露軍ヲ擊破セムトスルノ方針ヲ有シタルカ如シ之カ爲現時佛國ニ對スル集中線トシテ複線十二
條、「ルクセンブツグ」及白國方面ニ對シ複線五條、單線三條ヲ有シ西方戰場ヨリ東方國境ニ對スル反轉
輸送トシテ國內ヲ縦貫スル複線六條ノ外國境ニ近ク尙數條ヲ有シ露國カ西方國境ニ向テスル集中線ニ比
シ有利ナルコト既ニ述ヘタルカ如シ今戰爭準備ノ爲開戦前獨國ノ爲シタル鐵道施設中特ニ注目ニ値スヘ
キ事項ヲ舉クレハ左ノ如シ

- (一) 鐵道線路ハ勾配急ナル部分極メテ少ク又重要ナル縱貫線ニハ一ノ隧道ヲモ有セサルヲ特徴トス
- (二) 佛國境ニ近キ二、三ノ鐵道線路ハ開戦前數箇月ハ雜草茫茫トシテ繁茂シアリタリ是一般ノ交通及
經濟ヲ無視シ専ラ軍事上ノ要求ヨリ構築シアリタルヲ證スルニ足ル
- (三) 從來單線ナリシ國內ノ縱貫線モ宣戰直前マテニ殆ト複線ニ改メ尙所々三重線、四重線ヲ有セリ
- (四) 位置ノ關係上商業上ニ何等必要ナキ小停車場ニ長大ナル待避側線ヲ設備セリ又此ノ停車場ハ多ク
ハ平地ニ設ケ停車場附近ニハ平坦ニシテ大ナル空地ヲ有シタリ
- (五) 鐵道敷設ニ關シテハ政府ハ絕對ノ權力ヲ有ス然レトモ住民ノ意ニ反シテ其ノ土地ノ通過ヲ避クル

カ如キコトハ異例ナリキ

要スルニ獨國鐵道網ノ發達ハ軍事上ニ將タ一般生活上ニ或ハ占領セル鐵道ノ經營上ニ遺憾ナク其ノ能力
ヲ發揮シ餘裕綽々タルモノアリ此等ハ固ヨリ其ノ運用ノ卓越セルニ起因スルモノナリト雖夙ニ千八百四
十二年ニ於テ鐵道ヲ軍事的重要機關ナリト遠觀シ爾後汝々トシテ施設經營シタル賜物ナルコト言ヲ俟タ
サルヘシ

第一五 船舶ノ狀況

歐洲交戰諸國中船舶ニ關シ範ヲ示スモノハ獨リ英國アルノミ英國ハ龐大ナル船舶ヲ有セシヲ以テ所要ノ船舶數ヲ充足スル爲ニハ何等ノ支障ヲ醸スルコトナク又沿海ニハ施設完備セル多クノ港灣ヲ有スルヲ以テ海陸連絡ニモ間然スル所ナカリキ而シテ開戰當時英國當局カ陸軍輸送用(野戰師團六箇、騎兵師團一箇、騎兵旅團若干ノ爲)及海軍補助用トシテ徵發シタル船舶ハ約二千五百隻ニシテ其ノ總噸數ハ約四百萬噸ナリ之ヲ當時ニ於ケル英國所有船舶隻數約一萬一千隻(總噸數百噸以上ノモノ以下同シ)ニ比スレハ四分ノ一弱、總噸數二千一百萬噸ニ比スレハ五分ノ一弱ヲ算ス又之ヲ試ニ我カ國所有船舶隻數約千百隻、總噸數約百七十萬噸ニ比スレハ共ニ二倍強ニ相當ス

戰爭ノ永續ニ伴フ出征軍ノ増加ト作戰方面ノ擴大ト獨國潜水艇ノ爲ノ被害トニ依リ漸次徵用船ハ増加スルニ至レリ即チ開戰ノ翌年(千九百十五年三月)「ガリポリ」半島ノ遠征ヲ企圖スルヤ軍用船ハ全船舶噸數ノ約四分ノ一即チ約五百萬噸ヲ算スルニ至リ其ノ翌千九百十六年二月頃ニ於テハ更ニ増加シテ全船舶噸數ノ約三分ノ一即チ約七百萬噸ニ上リ同年末ヨリ現時ニ至ル間ハ全船舶噸數ノ約二分ノ一即チ約千百萬噸(陸軍輸送用ハ野戰師團約八十箇ノ爲)ニ達ス之ヲ我カ國ノ全船舶噸數ニ比スレハ約六位半ニ相當ス然ルニ獨國潜水艇ノ跳梁跋扈ハ獨リ陸海軍ニ影響ヲ及ホセシノミニ止マラス食料品ノ輸入漸次遞減スル

ニ至リ茲ニ國民生存ニ關スル問題ヲ惹起スルニ至レリ
 抑英國政府ハ開戰當初軍用船ニ限リ海軍省內運輸部ヲシテ管理セシメタルモ戰爭ノ永續ニ伴ヒ一般海運
 界ニ於ケル船腹缺乏シ各船主ハ或ハ自己所有船舶ヲ目前巨利ヲ博スル方面ニノミ使用シ或ハ國籍ヲ變更
 スルモノアルニ至リ一般國家ノ利益ヨリ打算シ甚タ不利ナルヲ認メ一方造船ノ獎勵ヲ圖ルト同時ニ航海
 ノ取締ヲ嚴ニシ輸入貨物ニ制限ヲ加ヘ船舶ノ國籍變更ヲ防ク爲千九百十五年十一月中旬以來一般通商船
 ハ商務省內航海許可委員、食料輸入ニ要スル船舶ハ同省內食料徵發委員ヲシテ管理セシメタルモ右機關
 ノ行動往々統一ヲ缺キ大局ヨリ見タル海運機關ノ運轉上猶遺憾ノ點尠シトセサルカ故ニ更ニ千九百十六
 年五月船舶中央管理委員ヲ設ケ右各海運機關ヲ統一セシメタリ然ルニ其ノ成績頗ル舉ラサリシヲ以テ遂
 ニ千九百十六年末戰爭內閣ヲ組織スルニ方リ一大英斷ヲ以テ船舶省ヲ創設シ船舶大臣ヲシテ本戰役ノ終
 了後十二箇月迄全海運ヲ統一セシムルノ一新紀元ヲ開キタリ
 之ヲ要スルニ戰爭ノ永續ト使用兵數ノ激増トハ船舶ノ大ナル輸送力ヲ必要トスルニ拘ラス現時科學ノ進
 歩ニ伴フ潜水艇ノ異常ナル發達ハ此等海上ノ輸送ニ對シ甚大ナル打撃ヲ加フルニ至レリ而シテ彼ノ優勢
 ナル艦隊ト龐大ナル船舶トヲ擁シ多數ノ良好ナル港灣到ル處ニ存在シ海上輸送ノ特ニ容易ナルヘキ英國
 ニ於テスヲ此ノ被害ヲ全然除去スルコト能ハスシテ頗ル焦慮スル所アリ殊ニ其ノ海運上ノ障害タル獨リ
 軍事上及通商上ノ要求ト相容レサルノミナラス實ニ國民ノ生存ヲモ危カラシメムトス即チ地理上ニ於テ
 英國ト酷似セル我カ國ニ於テハ特ニ考慮ヲ要スルモノアルヲ信スルナリ

第一六 獨國ニ於ケル被服需給ノ概況

被服ハ軍需品中主要ナル部分ヲ占ムルモノニシテ戰時數百萬ノ兵員ヲ動員セル場合ハ之ニ對スル補給ノ
 ミニテモ頗ル至難ナリ然ルニ一般國民ノ需要モ全ク度外視スル能ハサルヲ以テ戰時被服工業問題ハ戰時
 工業中最重要ナルモノノ一タリ而シテ現歐洲戰爭ニ於テ英、佛、露、伊ノ協商國ハ制海權ヲ收メ相互有
 無相通スルヲ得ルノミナラス被服原料品及既成品ヲ海外殖民地及中立國ヨリモ供給ヲ受クルヲ以テ同盟
 國ニ比シ其ノ補給途ニ容易ナリ獨國ハ開戰以來既ニ千百萬ノ兵員ヲ召集シ開戰ト共ニ殆ト海外ヨリノ輸
 入ヲ杜絶セラレ加フルニ埃甸國其ノ他ノ同盟國ニ對シ補助ノ地位ニ立チ頗ル困難ニ遭遇セシモ今日マテ
 能ク此ノ窮境ニ耐フルヲ得タルハ戰前ニ於ケル同國織物工業ノ發達戰前戰時ノ施設ノ結果ニシテ大ニ研
 究ノ價值アリト思料ス

一 開戰前ニ於ケル織物工業ノ概況

(一) 輓近ニ於ケル織物工業ノ發達

獨國ノ織物工業ハ輓近著シキ發達ヲナシ千八百八十二年ニ於ケル勞働者數八十五萬餘ナリシカ開戰ノ前
 年千九百十三年ニハ百萬以上ニ達シ織物工業ニ使用セル機械ノ價格約五十億麻ニ上レリ然レトモ之ニ要
 スル原料品ハ主トシテ外國ヨリ輸入シ其ノ年額二十億麻以上ナリ輸入原料品ノ首位ヲ占ムルハ棉花ニシ

テ其ノ輸入額五億麻ニ達シ之ニ次クモ、ハ羊毛三億六千九百萬麻、絹一億五千萬麻、黃麻七千五百萬麻、亞麻七千五百萬麻、大麻四千五百萬麻、「ラミー」二百三十萬麻、「マニラ」麻二百十萬麻、「ジザール」麻百九十萬麻ナリ

二 獨國織物工業用原料品ノ自給策

前述ノ如ク獨國織物工業ハ非常ナル發達ヲナセシモ之カ原料品ハ主トシテ外國ニ仰キ獨逸本國ニ於テハ大麻、亞麻及羊毛ノ收穫漸次減少シ他ノ原料品ハ總テ外國ヨリノ輸入ニ俟タサルヘカラス是ニ於テ原料ノ内地自給策ヲ講シタリシモ木綿、黃麻、「ラミー」、「マニラ」麻及「ジザール」麻、大麻ハ獨逸本國ニ於テ生産セス養蠶ノ試育ハ獨國ニ於テ不結果ニ終レリ(但シ最近一種ノ野草ニ依リ養蠶ヲ試育シ成功シタリトノ情報アルモ眞偽未詳ナリ)故ニ原料品ノ生産増加ヲナシ得ルモノハ植物纖維トシテハ單ニ亞麻、大麻、動物性原料トシテハ羊毛ノミ而シテ亞麻ノ耕作ハ既ニ數年來著シク増加ノ傾向アリ大麻收穫ノ増加モ専門家ノ判斷ニ依レハ特別ノ困難ナク實施シ得ヘシト云フ獨リ羊毛産額ノ増加ハ殆ト絶望ナリ是ニ於テ獨領殖民地ニ原料品ノ生産ヲ計ラムトシ千八百九十六年「カルツンブ」ノ發企ニ依リ伯林ニ殖民地經濟委員ヲ設立セリ該委員ハ千九百零六年棉花耕作委員ヲ設立シテ獨領殖民地ニ棉花ノ栽培ヲ獎勵シ千九百十四年ニ羊毛用牧羊委員ヲ設立シ殖民地ニ於ケル牧羊獎勵ヲナセリ其ノ結果千九百零二年以前ハ獨領東亞弗利加ヨリ棉花ノ輸出ナカリシカ千九百十三年ニハ七千五百二十六捆價格二百十萬麻ノ輸出ヲナセリ右ノ外殖民地經濟委員ハ織物用纖維ヲ供給スル他ノ

植物ノ耕作ヲ保護獎勵セリ其ノ最著シキモノハ獨領東亞弗利加ニ於ケル「ジザール」麻ニシテ最近ニ於テハ又「カポーク」及「アコン」大ニ増加セリ千八百九十八年ニ於テハ獨領東亞弗利加ヨリ「ジザール」麻ノ輸出ハ僅ニ三捆ナリシカ千九百十三年ニハ二千八百三十三萬四千六百三十捆價格千七百一十一萬五千五百九十一麻ニ達セリ

三 開戦後被服需給ノ概況

(一) 軍需被服ノ調辨機關

計畫的動員用被服ハ平時ヨリ準備シアリシモ本戦争ニ在リテハ多數計畫外ノ新部隊ヲ編成シ之カ爲爾後ノ補給用トシテ多額ノ被服ヲ要シ之カ製作及購買ハ總テ戰時被服廠ニテ實施セリ元來獨國ニハ平時各軍團(二十五箇)ニ一箇ノ被服廠ヲ置キ當該軍團所要ノ被服品及裝具ノ製作、購買等ニ任セシム而シテ所要絨及皮革等ハ成ルヘク其ノ管區内ニテ調辨シ資源涵養ニ努ム戰時ニ於テハ右被服廠ハ動員シテ戰時被服廠トナリ其ノ兵額ヲ増加シ製造力ヲ大ニシ軍靴ハ殊ニ堅牢適合ヲ必要トスルヲ以テ平時ノ如ク總テ被服廠ニテ自ラ製作シ軍衣袴、外套ハ裁斷ノ上廠外ニテ製作ヲ請負ハシメ背囊、水筒、飯盒等ノ裝具ハ一定ノ條件ヲ示シ地方請負人ヲシテ製作セシム

(二) 原料品ノ需給調節

戦争勃發ト共ニ一時被服工業ハ打撃ヲ受ケタルモ軍需被服ノ激増ト共ニ平素此等ノ機械業ニ從事セシモ

ノ又ハ此等ノ職業ニ轉業セシモノハ大ニ繁忙ヲ極メタリ然レトモ輸入原料品中敵國及其ノ屬領ヨリ輸入セルモノハ直ニ杜絶シ中立國ヨリ輸入セルモノモ英國等ノ海上封鎖益嚴ナルニ從ヒ漸次殆ト其ノ跡ヲ絶テリ然レトモ工業家ノ貯藏量(獨逸工業家ハ平時約一箇年分ノ原料品ヲ貯藏シ在リト云フ)ニ依リ尙棉花ハ戰爭勃發ニ當リ極メテ多量ニ國內ニ存シ且戰爭ノ初期ハ北米合衆國ヨリノ輸入アリタルヲ以テ差當リ其ノ供給ヲ確保スルヲ得タリ續テ戰況ノ有利ナル發展ハ白耳義、北佛、露領波蘭等ノ織物工業ノ盛ナル地ノ占領トナリ巨額ノ織物及同原料ヲ鹵獲押收スルヲ得セシム此等原料ハ陸軍省ノ設立セル戰時經濟會社ニ依リ獨國內地ノ工場ニ供給セシメタリ然レトモ此等資源タルヤ一時的ナルヲ以テ戰爭勃發前獨逸工業家カ原料品供給ニ關シ研究努力シタル結果ヲ利用シ原料品利用法ノ改善、新原料品ノ發見及原料品生産ノ増加等ヲ計レリ即チ襪及被服ノ裁斷屑ヨリ織物工業ニ要スル良質ノ纖維材料ヲ作り藁、雜草中ニ存スル纖維ノ加工ヲ爲シ又ハ紙、糸ヲ製シ梱包又ハ袋用織物ヲ作り以テ優良ナル織物纖維ヲ成ルヘク被服地質製造ニ使用シ亞麻及大麻ノ耕作ヲ盛ニシ再ヒ之ヲ舊産額ニ挽回セムトシ大麻工業家組合ハ之カ耕作獎勵ノ事務ニ當レリ右組合ニ依リ設立セル大麻耕作委員ハ大麻ヲ耕作スル農家ニ對シ未精製ノ儘之ヲ購入スルヲ保證セリ之カ爲大ニ耕作ヲ希望者ヲ生セリト云フ

(三) 陸軍省戰時原料課

開戰後間モナク陸軍省内ニ設立セラレタル原料課ニ於テモ亦織物原料品ノ經理、確保及之ニ關スル規則ノ制定ヲ掌リ以テ軍需品製造ニ蹉跌ナカラシムルヲ期シ數多ノ原料品需給調節機關ヲ設立シ原料品ノ供給及其ノ價格調節ヲ計レリ即チ亞麻需給整理所、黃麻需給整理所、戰時梳毛株式會社、麻絲糸需給整理所、棉花需給整理所、馬毛需給整理所、「ライフチヒ」羊毛商同盟、戰時絨組合、戰時機織工組合等ナリ

(四) 被服品調達局

該局ハ千九百十四年ノ終リニ設立セラレタル獨立陸軍經理官衙ニシテ從來各軍政區ノ陸軍省被服課及各軍團ニ配屬セル被服廠ニテ調辨セルヲ改メ該局獨リ全軍ニ對スル絨、麻布、綿布並裝具品ノ調達ニ任シ以テ被服品ノ品質ヲ常ニ平均ニ良好ナラシメ且其ノ價格ヲ低廉ナラシムルヲ努メタリ而シテ供給者ハ所屬商業會議所又ハ工業會議所ヲ經由シ該會議所ノ媒介ニ依リ供給申込ヲナスモノトセリ是開戰當初ハ被服品ノ調達ヲ主眼トシタルヲ以テ戰時ノ常弊タル投機商ノ暴利、無經驗ナル仲間商ノ跳梁アリ大ニ價格ノ騰貴ヲ來タシタルヲ以テ暴利取締ノ規程ヲ設ケ直接生産者ヲシテ供給セシムルニ至リシナリ尙陸軍官憲ハ努メテ職工組合ニ注文ヲナサシメムトシ陸軍調達機關ニ訓令ヲ發シ軍用品ノ供給契約ニシテ職工組合ニテ履行シ得ルモノハ先ツ該組合ニ注文ヲナサシメタリ

右ノ如ク直接生産者ヨリ購買スルニ至リ軍用絨ヲ貯藏セル商人ハ大打撃ヲ受ケタルヲ以テ陸軍官憲ハ之カ救濟策トシテ一定ノ價格ヲ以テ之カ買上ヲ實施シ一方ニ箇人ノ注文ニ依ル軍用絨ノ製造ヲ禁シタリ前述ノ施設及調達方法ニ依リ軍用被服ノ需要ヲ充タセシモ原料品ノ缺乏ハ千九百十五年九月戰時服制ノ

改正ノ緣因トナリ後千九百十六年ノ初軍用ニ使用シ得ル織物類ノ徵發ヲ必要トスルニ至レリ

(五) 織物類價格ノ制限

戰爭ノ繼續ト共ニ漸次織物類原料品ノ不足ヲ増大シ且陸軍官憲ノ徵發實施ノ爲千九百十六年ノ初織物類ノ價格騰貴ヲ來タセリ而シテ其ノ騰貴タルヤ一部投機の性質ヲ帶ヒタリ之カ防止策トシテ法定價格制定ノ議アリシモ織物類ニ在リテハ其ノ品種類ル多種多樣ナルヲ以テ其ノ實行困難ナリ故ニ一般的價格ノ限界ヲ示スニ止メタリ

(六) 帝國被服局

被服品缺乏ノ爲戰爭間一般國民ノ需要ヲ確保スル必要アルト尙平和條約締結後最初ノ期間ニ要スル原料品ノ貯藏ヲ要シ且歸郷者ノ爲俄然生スル需要ノ増加ヲ顧慮スル必要アリ之カ爲全帝國內ノ自由取引ニアルモノノ統一の且計畫の經理ヲ實施セサルヘカラス之カ機關トシテ帝國被服局ナル帝國宰相ノ監督下ニアル一官廳ヲ設立セリ該局ノ主タル任務ハ現在セル被服及將來製造スヘキ被服並外國ヨリ輸入スヘキ被服類ヲ節約的ニ經理シ之ヲ國民ニ相當價格ヲ以テ給付スルニアリ分配ニ當リテハ現在ノ商取引ノ方法ヲ襲用シ卸及小賣價格ハ之ニ依リ卸商及小賣商ニ一定ノ利益ヲ與フル如ク定メ單ニ不必要ナル仲間商ニ依ル不相當ノ價格騰貴ヲ防止セリ又消費ヲ絕對ニ制限スル爲仲間商及過度ノ買占ヲ取締ル規程ヲ設ケタル外織物類ニ對シテ特別ノ需要券ノ制ヲ定メ消費者ノ購買ヲ制限セリ需要券ノ制定ハ小賣商ヨリ消費者ニ

移ル時期ニ於テ費消ノ制限ヲナシ所要ノ節約ヲ期セムトスルニ在リ

(七) 皮革監督所

皮革價格ノ暴騰ヲ防止スル爲皮革監督所ヲ設ケシカ千九百十五年十二月皮革最高價格制定セラレシヲ以テ一時之ヲ解散セリ後皮革軍需品就中靴皮革ノ需要増加ト中立國ヨリノ鞣革及生皮ノ輸入漸次困難ノ度ヲ加ヘ千九百十六年ノ春季ニ於テ私立工場及手工業ニ要スル皮革ノ供給漸次困難トナリ資力豊富ナル若干ノ工業家ハ其ノ所要材料ヲ調達スルヲ得シモ手工業者ノ如キ資力少キ者ハ全ク其ノ材料ヲ得ル能ハサルニ至レリ是ニ於テ千九百十六年四月帝國內務局ハ伯林ニ再ヒ皮革監督所ヲ設ケ曩ニ陸海軍用トシテ差押ヘタル皮革中一般國民ノ爲差押ヲ解除シタルモノヲ各費消團ニ成ルヘク公平ニ供給セシメムトセリ該監督所ハ監督委員ト業務執行委員ヨリ成リ監督委員中ヨリ一名ノ所長ヲ任命ス其ノ任務ハ陸海軍官憲カ民間需要ノ爲解除シタル皮革ノ取引ヲ監督スルニ在リ之カ爲條例違反者ニ對シテハ違約金ヲ徵シ且將來皮革ノ分配ヨリ排斥スル權能ヲ與ヘラレタリ其ノ他監督所ノ任務達成ヲ容易ナラシムル爲差押皮革ノ解除ハ監督所ノ媒介アル場合ニ限レリ監督所ニ於ケル皮革分配ノ方法ハ其ノ目的物ニ依リテ異ルモ例ヘハ靴皮革ノ分配ニ在リテハ費消者ヲ二集團ニ分チ二十人以上ノ職工ヲ使用スルモノヲ大取引集團トシ二十人以下ノ職工ヲ使用スルモノヲ小取引集團トシ兩集團ニ對シ解除皮革ノ各半部ヲ配當セリ

第一七 交戰諸國國民給養ノ概要

往時戰時兵額少キトキハ戰時糧食問題ハ單ニ軍隊ノ給養問題ナリシカ現時ノ戰爭ニ於テハ戰時兵額極メテ大ナル爲國內勞力ノ不足ヲ生シ加フルニ貿易ノ杜絶又ハ困難ニ依リ輸入ノ絶滅又ハ激減スル結果國民一般ニモ給養品ノ缺乏ヲ來タシ之カ需給調節ハ複雑ナル政務トナリ交戰諸國共開戰以來多數ノ法令ヲ定メ新ニ機關ヲ設置セルモノ亦尠カラス左ニ交戰諸國ノ給養諸施設中參考トナルモノノ梗概ヲ叙セム

一 食料品ノ増加策

歐洲交戰國ハ露國ヲ除ク外總テ平時國民食料品ノ一部ヲ他國ヨリ輸入セリ其ノ最多キハ英國ニシテ總量ノ六割ヲ輸入シ獨國モ穀類ノ約一割ヲ輸入セリ故ニ食料品輸入税ノ制アル國家ハ獨、埃兩國ヲ始メ開戰以來關稅ノ減免等ノ手段ニ依リ外國ヨリノ輸入ヲ獎勵セシモ漸次海上封鎖ノ爲交戰國雙方トモ輸入困難トナルト共ニ極力自國內ノ生産増加ヲ圖ルニ至レリ而シテ其ノ最早ク且其ノ必要ヲ切實ニ感シタルハ獨、埃ノ同盟國ナラシモ其ノ後獨國潛航艇ノ跳梁ニ伴フ船腹不足ハ英國ニ於テモ本問題ヲ重大ナラシムルニ至レリ此等諸國ニ於ケル生産増加ノ方法トシテハ主トシテ耕作ノ獎勵、耕地ノ擴張、栽培物ノ整理等ナリシカ之ニ要スル勞力、肥料及種子ノ供給亦容易ナラス勞力ハ應召ノ爲大ニ減シ例ヘハ千九百十六年末ニ於テ英國ノ農夫百二十六萬餘人中六十七萬餘人出征セリ獨、佛、埃諸國ニ在リテハ其ノ比更ニ甚シ故ニ

郷里ニ殘留セルモノハ多ク老幼婦女ノミニシテ大ニ農業勞力ノ不足ヲ來タセシヲ以テ各國共盛ニ俘虜ヲ使役シ應召兵又ハ學生ニ休暇ヲ許容シ或ハ市街地居住民及無職者ヲ強制的ニ使用スル等所謂農業動員ヲ實施スルニ至リシモノ亦尠カラス尙一方動力勦等ノ耕作機械ヲ使用シ以テ人馬ノ不足ヲ補ヒタリ肥料ノ供給モ各國太ニ力ヲ盡シ窒素肥料ノ原料ヲ智利硝石ニ仰キタル獨國ニテハ空中窒素ヲ代用シ又野戰軍ニテ屠殺セル屠獸ノ内臟等ヨリ生スル廢物ニ至ルマテ使用スルニ至レリ種子ハ各國共之カ分配取締ヲ嚴ニシ(例ハ英國ノ種馬鈴薯規則ノ制定)以テ圓滿ナル供給ト之ヲ直ニ食用ニ供スル如キ濫用制限ヲナセリ

二 麵麩ノ食ヒ延シ策

各國共其ノ施行ノ時期程度ニ差アルモ皆麵麩用穀物即チ小麥、「ライ」麥ノ製粉率ヲ高メ昨今英國ニ於テスラ小麥ノ製粉強制率ヲ八十一〇トシ製粉業者ニ在リテハ八十六〇トスルカ又ハ他ノ穀粉ヲ混用スヘキモノトシ以テ穀粉ノ増加ヲ計リ獨國ノ如キハ窮餘特種ノ製粉法ヲ發見シ穀粒全部ヲ粉トシ衛生上差支ナキ所謂全穀麵麩ヲ製スルモノアルニ至レリ此ノ種麵麩ハ其ノ外見、風味共良シカラサルモ營養分ニ富ムヲ以テ衛生學者ノ推奨支持ヲ受ケ制令ト相待テ比較的容易ニ實施セラレタルカ如シ彼ノ獨國ノ有名ナル「ライ」麥粉ニ馬鈴薯ヲ混シテ製造シタルモノナリ其ノ他各國ハ麵麩用穀物ヲ他ノ目的ニ使用スルヲ制限シ例ハ獨國ハ火酒蒸餾及麥酒釀造高ヲ從來ノ六十〇ニ制限シ之ニ依リ馬鈴薯、「ライ」麥及大麥ノ多量ヲ採出シ英國ニテハ小麥ヲ製粉以外即チ家畜ノ飼料及麥酒釀造ニ使用スルヲ禁止シタリ

麵麩ノ消費節約ノ方法トシテハ獨國ハ製麵麩所ニ夜間作業ヲ禁シ以テ朝食麵麩ノ使用ヲ制限セムトシ其ノ功ヲ奏セサルヤ千九百十五年一月麵麩券ヲ採用シ各人ノ需用量ヲ定メ絶對ニ使用ヲ制限スルノ外麵麩ノ種類、大ツテ制限シテ消費ノ節約ヲ計レリ(食料品ノ切符制度ハ獨國ニ於テハ其ノ他牛酪、脂肪、生肉等ニモ施行セラレ其ノ目的ハ單ニ消費ヲ節約スルノミナラス供給ヲ確實ニスルニ在リ)他ノ諸邦ニテモ之ニ摸倣スルモノ漸次多キカ如シ

三 穀類ノ差押

農家ハ穀類ノ生産者及所持者タルト共ニ家畜ノ飼育者ナリ故ニ飼糧不足スルトキハ麵麩用穀物ヲ飼糧ニ供シ又ハ將來ノ騰貴ヲ豫期シ任意穀物ノ賣出シヲナササルモノアリ尙戰時ノ常弊タル投機商ノ買占等ノ手段ニ依リ暴利ヲ貪ルモノ少カラス之カ爲獨國ハ開戰後幾何モナク差押ノ制ヲ定メ自家用ノ外各人ノ自由處分ヲ禁シ以テ軍用及國民給養品ノ保全ヲ畫シ要スレハ徵發ニ依リ需給ヲ調節セリ

四 肉類ノ補給

交戰諸國ニテハ主トシテ牛、羊、豚肉ヲ使用シ軍用ニ使用スル日量莫大ナリ之カ爲英、佛、伊國ハ南米、濠洲等ヨリ之ヲ凍肉トシテ輸入シ冷蔵裝置ヲ有スル汽船、貨車及自動貨車ヲ使用シ野戰軍ニモ補給セリ獨、澳國ハ海外ヨリノ輸入ノ途ヲ絶タレタルヲ以テ自國內食用家畜ノ繁殖ヲ計リ木葉、木實、草根等ヲ以テ牛、豚ノ飼料不足ヲ補ヒ兔ノ繁殖力ノ大ナルト飼養容易ナルトノ故ヲ以テ之カ飼養ヲ獎勵シ内地補

充隊ニテモ大規模ニ飼養セリ。埃國ニ於テハ狩獵制限ヲ寬ニシ一ハ農作物ヲ保護シ一ハ肉類ノ増加ヲ計レリ。尙海川魚ノ食用ハ大ニ獎勵セラレ獨國ハ軍隊糧食定量中ニモ新ニ之ヲ加ヘ英國ハ最近魚類ヲ兵食ニ使用スルヲ試ミ遂ニ成功セリ。尙肉類節約ノ爲獨、埃、露國ノ如キ法令ヲ以テ斷肉日ヲ實施シ英國ニ於テモ近時遂ニ此ノ制ヲ採ルニ至レリ。

野菜類ハ平時交戰諸國概ネ自國產ヲ使用シ外國ヨリ輸入セルモノハ比較的少量ナリ然レトモ軍需品ノ増加ト勞力ノ不足トハ勢ヒ野菜類ノ不足ヲ來タシ獨國ニテハ野草ヲ研究シ食用ニ供シ得ヘキモノ多數ヲ發見セリト云フ其ノ他森林中ヨリ菌類ヲ採集シ食用ニ供シ得ヘキモノハ總テ之ヲ一般ニ公示シ或ハ陳列會ヲ開キ實物ヲ以テ智識ノ普及ヲ計リ之ヲ採集ヲ獎勵セリ。埃國ニ於テモ菌類ノ食用ヲ努メシム其ノ他獨國ニテハ麥酒渣滓ノ苦味ヲ除去スル方法ヲ發見シテ之ヲ家畜ノ飼料ニ供シ更ニ之ニ加工シテ人ノ食料品ヲ製造セリト云フ。

五 最高價格ノ制定

食料品最高價格ヲ規定シタルハ獨國ヲ以テ嚆矢トス其ノ目的ハ價格ノ暴騰ヲ抑制スルト共ニ稍其ノ價ヲ高クシ以テ各自費消ノ制限ヲナサシムトスルニアリ然レトモ戰時ハ勞力缺乏ノ爲勞銀騰貴シ下級社界ノ收入ヲ増加シ是等自制力ナキ者ノ購買力ヲ旺盛ナラシムルヲ以テ最高價格ノ制定ハ費消制限ノ目的ヲ達セス故ニ各人ノ定量ヲ定メ切符制度ニ依リ之ヲ律スルノ傾向ヲ生セリ。

六 占領地物資ノ利用

占領地物資ノ利用ハ一般ニ廣ク行ハレ食料品ニ關シテモ獨國ハ豐饒ナル農産地タル白耳義、北佛、露領波蘭及羅國ニ於テ大々的ニ之ヲ利用セリ即チ貯藏品ヲ鹵獲押收セルノミナラス原野ニアル農産物ヲ地方勞力又ハ兵力ニ依リ收穫貯藏シ之ヲ野戰軍ノ給養ニ使用セシノミナラス一部ハ内地ニ送付シテ國民ノ給養ニ資シ次年度ニ於テモ占領地ノ耕作ハ極力獎勵シ或ハ種子、勞力ヲ周旋シ又ハ動力鋤等ノ農具ヲ内地ヨリ送リテ耕耘ニ便セシメタリ此等施設ハ獨國ノ窮境ヲ緩和シ其ノ食料政策ニ裨益スル所尠カラズ是其ノ作戰ノ有利ナル發展ノ賜ニ外ナラス彼ノ糧ニ敵ニ據ルノ金言ハ今日ノ大軍ニテハ固ヨリ實行困難ナルモ適當ナル處置ヲ講セハ大ニ追送糧秣ヲ輕減スルヲ得ヘシ。

七 戰時特設機關

戰時給養問題ハ頗ル重大ニシテ其ノ業務複雑ナルヲ以テ平時官衙ヲシテ總テ之ヲ處理セシムルハ不能ナリ故ニ各國特ニ之カ專任官衙ヲ設置スルモノ多シ例ヘハ獨國カ統一のニ軍用糧秣ノ調達ヲナス爲新ニ軍用糧秣中央調達局ヲ設置シ又昨千九百十六年五月國內食料品ノ統一の蒐集及分配ヲ掌ラシムル爲獨逸帝國ノ統一の機關タル帝國食料院ヲ設ケ且亦最近祖國補助勤務法ノ制定ト共ニ戰時經濟局ヲ各縣ニ設ケ各郡ニ其ノ分局ヲ置ケリ其ノ任務ハ一、農事經營者又ハ勞働者ノ配給斡旋要スレハ軍事的ノ手段ヲ以テ就業セシム。二、勞役馬匹ノ配給。三、機械及作業用品(例ヘハ石炭、ペンゾール等)ノ配給。四、耕地

無休利用ニ關スル注意 五、耕作物ノ收穫ニ關スル世話ニシテ要スルニ一種ノ農業動員ナリ之ニ依リ獨
國ハ農産物ノ生産ヲ確保シ持久戰ニ應セムトセリ

英國ニ於テモ昨千九百十六年十二月「ロイド、デョーシ」氏新ニ内閣ヲ組織スルヤ食料省ヲ設ケテ食料品
ノ配賦、價格及費消ノ調節等國民給養ニ關スル事項ヲ統轄セシメ農務省ノ努力ニ依ル食料品増産ノ處置
ト新設船舶省ノ實施セル船舶調節策ニ依ル食料品輸入ノ努力トニ相俟テ國民ノ給養ヲ確保セムトスルノ
處置ヲ講スルニ至レリ

露國ハ最近聯立内閣ノ成立ト共ニ糧食省ヲ新設セリ

之ヲ要スルニ今日ノ戰爭ハ眞ニ舉國一致總テ戰爭ニ參與スル趨勢ニ在リ之カ爲國民ノ給養ハ戰爭遂行ニ
重大ナル關係ヲ有ス之カ給養政策トシテハ國內生産ノ増加、輸入ノ獎勵、代用品ノ研究等ニ依リ食料品
ノ増加ヲ計ルト共ニ必要ノ限度ニ費消ヲ制限シ要スレハ國法ヲ以テ之ヲ規律スル必要アルコトハ現戰爭
ノ吾人ニ與ヘタル教訓ナリトス

第一八 獨國ノ代用品及廢品利用概説

獨國工業動員ハ原料ノ國內自給策ヲ確立スルヲ動機トシテ起リタルモノニシテ殆ト四面敵國ノ封鎖ヲ受
クル同國ノ爲原料自給問題カ戰時補給行政ノ中心點タルヘキハ茲ニ縷説スルヲ要セサルヘク又本書第一
〇交戰諸國工業動員ノ實況概説ノ部ニ於テ明ニ之ヲ看取スルヲ得ヘシ然ルニ今一步ヲ進メテ獨國原料自
給策ノ根本要義ヲ調査スルニ或ハ全國原料管理組織ノ整備或ハ占領地原料資源ノ調査及利用或ハ原料管
理ニ關スル法規ノ制定等之ニ關スル事項單純ナラサルモ缺乏原料直接ノ主要補給手段中代用品及廢品ノ
利用ハ特ニ研究ノ價值アルモノトス

獨國ノ代用原料ニハ金屬アリ非金屬アリ化學工業品アリ動物性ノモノ植物性ノモノ等其ノ種類一ニシテ
足ラサルモ新ニ工場ヲ設立シ大計畫ヲ以テ製造ニ著手セルハ戰前大部ヲ輸入セシ智利硝石ノ代用原料タ
ルヘキ空中窒素ノ利用ニ關スル工業ナリ抑戰爭ニ缺クヘカラサル火藥及爆藥ハ普ク人ノ知ル如ク窒素化
合物ニシテ開戰當初獨國當局者ハ戰爭遂行ノ能否ヲ以テ同國窒素補給問題ト相關スルモノ大ナリト認メ
化學工業界ノ能力ノ許ス範圍ニ於テ窒素工業ヲ起スコトニ決シタルカ化學工業界亦能ク當局者ノ提議ヲ
理解シ數多ノ大工場新築案ハ直ニ關係工業家ノ同意スル所トナリ千九百十四年末當局者トノ契約調ヒ尋
テ事業ヲ開始シ其ノ著手機機ヲ失セザリシ結果彼ノ千九百十五年五月以後「ガリシヤ」會戰ヨリ露領波蘭席

捲ノ大進軍ニ於テ莫大ナル彈藥ヲ費消セル際ニモ毫モ其ノ補給ニ苦ムコトナキヲ得タリ加之農産物ノ肥料ニモ多ク窒素ヲ使用シ得ルニ至レリ

空中窒素利用工業ノ外金屬精煉工場、金屬再生工場、電氣化學工場及電氣爐工場等原料補給ニ關スル多數ノ工場モ亦普國陸軍省戰時原料課ノ直接間接ノ干渉ニ依リ國內諸方面ニ新築セラレ此ノ戰争ノ結果獨國原料獨立ニ關スル基礎工業勃興シアリ

獨國ハ缺乏原料ヲ自國內ニ於テ製造スルノ外、國內ニ於テ種々ノ形狀ヲ以テ存在スル必需原料ノ蒐集ニ努メ又普通品及軍用品ニ於テ代用原料ノ使用ヲ普及獎勵シ換言スレハ自國生産品ヲ極度ニ利用スルノ方策ヲ採レリ此等代用原料ハ種々ナルモノ先ツ金屬工業ニ關スルモノヨリ其ノ研究ヲ開始セリ就中鐵及石炭ハ自國內及佛、白兩國內ノ占領地ニ於テ殆ト無盡藏ナルヲ以テ苟モ鋼又ハ鐵ヲ以テ他ノ金屬ニ代用シ得ル場合苟モ實驗ト研究ノ結果カ其ノ代用ヲ可能ナリト爲ス場合ニハ之ヲ極力利用スルノ方針ヲ採レリ艦船内ノ各種物品、普通裝飾用品、家具、什器、屋蓋用銅又ハ其ノ合金製品ハ勿論白銅貨ヲ鐵貨ニ換ヘ護膜被覆ノ銅電線ヲ紙被覆ノ鐵導線ニ代ヘ火炮、小銃ノ藥筒及信管ニハ皆少量ノ銅及亞鉛ヲ含有スル軟鐵ヲ使用シ鉛、鉛壺ノ微ニ至ルマテ某種ノ代用合金ヲ使用スルニ至レリ

以上ハ單ニ鐵ヲ以テ例示シタルニ過キサレモ其ノ他棉火藥又ハ織物品ニ使用スル棉花ニ他ノ植物質ヲ代用シ護膜製「タイヤ」ニ發條ヲ代用シ「ガーズ」ニ薄紙ヲ利用シ或ハ人造護膜ヲ發明セリト云ヒ或ハ普通通粘土ヨリ「アルミニウム」ヲ廉價多量ニ採取スルヲ得ルニ至レリト傳ヘ各種製紙原料ヲ改良シ絲又ハ織物トナシ襪物、膝掛、仕事著、繩、紐等ニ利用シ雜草ノ類マテ綿及羊毛ノ代用原料タルニ至レリト云フ

伯林ニハ代用原料博覽會ヲ開設シアリ當局官廳ノ監督スル所ニシテ釀造業者、「ホワイトメタル」工業團、錫、亞鉛合金工業團、「シレヂア」採鑛及鐵工業組合、電氣業協會、製鐵業組合、技師協會及機械製造業者協會ノ各評議員ヲ賛助員トナス此ノ博覽會ニ出品セル者八十名以上ニ達シ各種工業ニ使用スル代用品ヲ陳列シ代用原料ノ普及及改善ヲ圖リツツアリ此ノ博覽會ハ戰時中引續キ開催シ置クモノニシテ絶エス其ノ規模ヲ擴張スル盛況ナリト云フ

廢品利用モ亦獨國戰時原料補給策中ノ重要ナルモノノ如ク其ノ適切ナル一例ハ果物ノ核子ヲ無益ニ棄テシメス之ヲ蒐集シテ核子中ニ存スル微量ノ油ヲ採取スルカ如キ是ナリ梅及櫻實ノ核ハ特ニ脂油ノ含有量ニ富ミ之ヨリ工業用及軍用ノ脂油原料ヲ得ル量ハ莫大ナリ獨國各都市ニ於テハ時日ヲ定メ小學校ノ生徒ヲシテ統一組織ノ下ニ此等核子ヲ蒐集シ獨國愛國婦人會ノ如キモ此等核子蒐集所ノ業務ニ鞅掌シツアリ又戰線ヨリ英國ニ歸還セル兵卒等ノ言ニ依レハ獨軍ヨリ發射スル砲彈内ニハ缺、釘、武器ノ古部品、蹄鐵ノ破片、古鐵等ヲ入レアリト云フ其ノ他下水ヨリ石鹼原料ヲ回收シ或ハ全軍ニ令シ兵卒用靴下ノ廢品ニ至ルマテ之ヲ收集シ消毒清洗ノ上原料トシテ再用シツツアリ

之ヲ要スルニ獨國ハ上下擧テ多少ノ不便不利ヲ忍ヒ又物ニヨリテハ巨資ヲ投シ製造工場ヲ新設シ代用品及廢品ノ利用ヲ圖リ其ノ結果武器、彈藥其ノ他軍需品ノミナラス普通日用品ハ勿論衣食住ニ關スル總ラノ物品ニ極力自國生産品ヲ使用シツツアリ

從來完成品ノ保護政策ハ世ニ知ラレタル所ナルモ原料保護政策ハ獨國ト雖現歐洲戰ノ強要ニヨリ其ノ必要ヲ認メ極度ニ之ヲ實施シタルト同一ノ結果ヲ呈シ戰後ト雖同國經濟上ニ及ホス影響頗ル大ナリ之ヲ例セハ千九百年ニ於ケル智利國ノ輸出硝石ハ二百萬噸内外ニシテ其ノ内約九十萬噸ハ獨國ニ輸入セラレタルモノナルカ戰後ニ於テハ其ノ價格ヲ特ニ著シク低下セサル限リ獨國ニ對スル輸入絶無ナルニ至ルヘク其ノ他協商側ノ政策其ノ他ニヨリ獨國ニ對スル原料供給ヲ制限セラルルニ至ルモ獨國ハ比較的之ニ苦マサルヘク其ノ他輸出入景況ニ影響スル所一ニシテ足ラサルヘシ

第一九 交戰諸國ノ陸軍衛生

歐洲戰ニ於ケル主ナル交戰國ノ陸軍衛生ハ幾多ノ情報ニ徴スルニ既往ノ戰役ノモノニ比シ著シク進歩セルハ疑フノ餘地ナシ殊ニ開戰以來時ト共ニ順潮ニ進ミツツアル良況ハ其ノ成績カ當局ノ奮勵努力ノ結果ニシテ決シテ偶發的現象ニアラサルコトヲ證明スルモノトス而シテ此ノ如キ曠古ノ良成績ヲ擧ゲ得タルハ日露戰役ノ教訓ニ負フ所甚大ナルモノト衛生當局者ニ依テ一般ニ認メラレ新施設ノ多クハ日露戰役ノ我カ陸軍衛生ニ胚胎セルモノト稱セラルル斯クシテ交戰諸國ノ陸軍カ日露戰役ノ我カ陸軍衛生ヲ尊重シ科學的ニ研究シ咀嚼シ之ヲ利用セル實況ハ驚嘆ニ禁ヘサルモノトス

戰傷ニ就テハ砲創ノ増加セルヲ最顯著ナル事實トス然レトモ銃創ハ尙戰傷中ノ過半数ヲ占ムルモノナリ又砲創ノ増加竝尖彈ノ使用ハ戰傷ノ性質ヲ著シク不良ナラシメタレトモ各種衛生機關殊ニ患者輸送機關ノ異常ナル發達及診療上ノ大進歩ハ之ヲ價ヒタルノミナラス反テ治療成績ヲ既往ニ比シ著シク向上セシメタリ

一 野戰衛生機關

甲 保健機關

保健ハ固ヨリ軍隊衛生上最重要視セラルル所ナルカ歐洲戰ニ在テハ更ニ一層ノ努力ノ之ニ加ヘラルルヲ

觀ル左ニ掲クル特別保健機關ハ現戰爭ニ於テ始テ實際ニ應用セラレタルモノニシテ保健上ノ行爲ヲ著シク敏活正確ナラシメタリ

(一) 検査機關

英軍ハ自動車細菌検査班及自動車衛生検査班ヲ創設セリ各検査班ハ自動車内ニ於テ作業ヲ實施スルモノニシテ検査ニ要スル諸材料、參考圖書等備ハラサル所ナシ佛、露、伊、獨軍カ又特種ノ検査機關ヲ有スルハ知ラルル所ナリ而シテ此等ノ機關ハ機ヲ失セス所要ノ檢索ヲ遂ケ保健實施上ノ指鍼ヲ與フ

(二) 實施機關

英軍ハ師團ニ衛生班ヲ附ス又軍及兵站ニモ衛生管區ノ數ニ應スル其ノ若干ヲ附シ軍隊及地方ノ衛生警察行政並保健上ノ實施ニ當ラシム而シテ衛生班ノ人員ハ衛生警察行政ヲ行フ爲ニハ憲兵ニ均シキ權能ヲ有シ保健上ノ事項ヲ實施スルニ當リテハ其ノ基幹ヲナスモノナリ又佛軍ハ検査機關ニ衛生實施部ヲ屬シテ專ラ保健上ノ實施ニ當ラシメツツアリ其ノ他大洗濯所、虱驅除所、浴場列車、入浴自動車、洗濯及消毒自動車等ノ幾多ノ新機關ヲ交戰諸國カ局部的ニ戰地ニ於テ使用シツツアルハ知ラルル所ナリ

(三) 教育機關

英軍ハ戰地ニ衛生學校ヲ設置シ時々將校及軍醫ヲ召集シ現戰爭ノ經驗ニ基ク衛生諸施設ヲ模型ニ就テ教育シ之ヲ全軍ニ普及セシム

陸軍衛生行政カ益干渉主義ニ向テ其ノ步趨ヲ回ラシツツアルハ交戰諸國ニ於ケル一般ノ傾向ナレトモ特別保健機關カ英軍ニ於テ殊ニ能ク發達シ其ノ國民性ニ反シ他軍ヨリモ一層甚シキ干渉主義ヲ取リツツアルハ南亞戰爭ニ於ケル惡疫流行ノ刺戟ニ依ルモノト察セララル

乙 醫事機關

(一) 陸軍病院一般

陣地戰ノ繼續ハ戰地ノ陸軍病院ニ著シク固定性ヲ帶ハシメ砲火ノ下ニ在ル綑帶所及野戰病院ノ一部ノ外ハ概ネ特ニ建築セル廠舎若ハ病院ニ適スル家屋ヲ以テ之ニ充テラレ内部ノ施設頗ル能ク行届キ兵站管區ニ在ルモノノ如キハ殆ト内地ノモノト遜色ナキ程度ニ發達セリ又兵站管區以後ノ病院ノ概ネ専門分科的ナルハ著シク注目ヲ惹クモノトス輓近ニ於ケル醫學ノ進歩ハ醫術ヲシテ益分業的ナラシメタルニ因ル

(二) 自動車患者輸送部

戰用患者自動車ハ實際上歐洲戰ノ產物ト云フヲ得ヘシ戰地ヲ視察スル者ハ必ス先ツ赤十字ヲ附シタル自動車ノ數ノ多クニ注意シ次ニ仔細ニ之ヲ觀察スレハ其ノ制式ノ一定セサルニ驚クト云フ制式ノ多樣ナルハ戰爭開始後次第ニ改善進歩セル跡ヲ示スモノニシテ如何ニ患者自動車カ重要視セラレツツアルカヲ知ルニ足ル斯クシテ舊式患者馬車ハ歐洲戰ニ在テハ患者用トシテ不適當ナリト認メラルルニ至リ從來衛生機關ニ附屬セラレタル患者馬車ハ逐次患者自動車ニ改正セラレツツアルノミナラス別ニ自動車患者輸送

部ノ創設ヲ見ルニ至レリ

患者自動車ノ發達ハ輸送ノ爲傷者ニ甚シキ影響ヲ與ヘサルニ至レルト迅速ニ患者ヲ收容スルヲ得ルヲ以テ機ヲ失セス適當ナル手術ヲ施スヲ得ルニ至レルトニ由リ現戰爭ノ治療成績ヲ大ニ向上セシメタリ

(三) 還送病院

還送病院ハ主ナル交戦軍カ端末停車場ニ密接シテ設置シツツアルモノニシテ收集地帯ノ患者ハ悉ク之ヲ通過シ後送地帯ニ入ルヲ例トス此ノ病院ノ主ナル目的ハ集中シ來ル患者ヲ選擇シ戰地及内地ノ衛生機關ニ適當ニ配賦スルニ在リ而シテ其ノ選擇ノ適否ハ傷病ノ治癒ニ大ナル影響ヲ有スルノミナラス其ノ活動ハ大ニ内地還送者ヲ減少シ補充上利スル所尠カラスト云フ事實上内地ニ還送シタル者ハ輕傷病者ト雖容易ニ戰地ニ復歸シ來ラサレハナリ

還送病院ハ野戰鐵道網ノ能ク發達セル歐洲戰ニ在テハ最重要ナル衛生機關ト認メラル

(四) 病院列車

還送病院以後ノ患者後送ハ概ネ病院列車ヲ以テ行ハル從テ各交戦軍カ運轉シツツアル病院列車數ハ頗ル多シ病院列車ニハ固有ノ病院列車、貨車ニ一定ノ制式ヲ有スル裝置ヲ施シタル補助病院列車、客車ニ急造ヲ加ヘタル半永久病院列車等種々アレトモ最多ク運轉セラルルハ補助病院列車ナリ半永久病院列車ハ其ノ外觀頗ル美麗ナレトモ患者輸送上補助病院列車ニ及ハス

(五) 保養廠

保養廠ハ歐洲戰ニ於テ非常ニ膨大シ一新面目ヲ呈スルニ至レリ保養廠ノ主ナル目的ハ若干日ノ安靜若ハ簡單ナル治療ニ依リ恢復セシメ得ル輕症者ヲ收容シ之ヲ病院ニ留メテ其ノ活動ヲ妨害スルヲ免レシメ且成シ得ル限り患者ノ内地後送ヲ避クルニ在リ保養廠ニ於テハ治療ノ外體操、行軍、教練等ヲ行ヒ患者ノ恢復ヲ促進セムコトヲ期ス又娛樂室ヲ設ケ或ハ患者中ヨリ樂隊ヲ編成スル等種々ノ方法ニ依リ患者ノ慰安ニ努ム

(六) 陸軍齒醫ノ新設

齒科醫ハ歐洲戰ニ於テ始テ陸軍衛生部員ノ一要素ヲ組成セリ交戦軍ノ多クハ齒科醫ヲ陸軍齒醫トシテ採用シ軍人ノ階級ヲ與ヘ戰地及内地ノ衛生機關ノ若干ニ附屬セシメ軍醫ノ命令下ニ於テ口腔科ノ治療ヲ輔佐セシム

二 衛生施設ノ進歩

甲 保健上ノ進歩

(一) 豫防接種ノ勵行

腸窒扶私豫防接種ハ各交戦軍ニ於テ一般ニ普及セラレタリ其ノ結果腸窒扶私ハ實際上ニ於テ軍隊ヨリ一掃シ去ラレ歴史的ノ戰爭傳染病トナリ了セリ「バラチフス」豫防接種モ亦中途ヨリ實施セラレツツアリ

(二) 毒瓦斯ノ豫防

毒瓦斯ノ研究調査ハ戰地及内地ニ於テ陸軍當局ニ依リ實施セラレツツアルノミナラス陸軍部外ニ於テモ大學ノ如キハ大規模ノ實驗ヲ行ヒ精査審覈ヲ遂ケツツアリテ其ノ研究方法及裝置等ニハ見ルヘキモノ少カラス斯ノ如クシテ豫防方法ハ漸次改良セラレ豫防具ハ幾多ノ變遷ヲ經テ現時ノ程度ニ發達シ的確ニ之ヲ使用スレハ毒瓦斯ノ攻撃ハ恐ルルニ足ラサルモノト稱セララル

(三) 其ノ他ノ施設

以上述フル外戰地ノ除穢、給水等ニ關スル保健上ノ進歩ハ枚舉ニ遑アララス

特種保健機關ノ發達ハ管ニ保健上ノ實施ヲ敏活正確ナラシメタルノミナラス清潔方法及消毒方法ヲ著シク改善進歩セシメタリ又科學ノ進歩カ保健殊ニ防疫上ノ施設ニ及ホセル影響ハ計リ知ルヘカラサルモノアリ

乙 醫事上ノ進歩

(一) 軍陣外科ト細菌學ノ接近

開戰當初ニ於ケル創傷傳染病ノ多發ハ軍陣外科ト細菌學ト著シク接近セシメタリ外科的治療方針カ細菌學ノ原則ニ背馳セサルヲ要スルハ勿論ナレトモ今ヤ細菌學ハ箇々ノ外科的診療ノ場合ニモ應用セララルコト内科ニ於ケルト伯仲スルニ至リ之カ爲外科治療ノ成績ヲ大ニ向上セシメタリ又細菌學者ノ發見ニ

係ル幾多ノ新消毒藥ハ新治療法ヲ生スルニ至レリ

(二) 戰地ニ於ケルX光線ノ應用

兵站管區ニ在ル陸軍病院ハ概ネX光線裝置ヲ有スX光線裝置ニ就テ特ニ著明ナル進歩ヲナセルハ體內ニ於ケル異物ノ位置ヲ測定スル方法ナリ又體內ノ異物ヲ助手ヲシテ肉眼視セシメツツ手術ヲ行フカ如キ巧妙ナル方法モ行ハル戰地ニ於ケルX光線ノ廣キ應用ハ殊ニ内臟外科及骨折ノ治療成績ヲ向上セシメタルコトハ茲ニ喋々スルヲ要セス

(三) 醫理學的療法ノ進歩

瑞典式器械的療法ハ異常ノ發達ヲ遂ケ各種ノ關節筋ノ運動ニ對スル裝置備ハラサルモノナシ電氣療法、熱療法、摩擦術モ亦盛ニ應用セララル天然及人工ノ溫泉ノ科學的應用モ極度ニ發達セリ佛國ニ於テ發明セラレタル人工溫泉ノ一種ナル有名ナル渦浴ハ電氣裝置及壓搾空氣ヲ以テ溫湯ニ渦ト泡沫ヲ起シ其中ニ患者ノ全身又ハ一局部ヲ入ルルモノニシテ患者ハ比較的高溫度ニ耐ヘ其ノ外科治療上ノ成績ハ甚大ナリト云フ渦浴ハ又内科ノ治療ニモ應用セラレツツアリ歐洲戰ニ於ケル醫理學的療法ノ進歩ハ著シク不具廢疾者ヲ減シ國家經濟上利スル所大ナリト稱セララル

(四) 義手、義足ノ進歩

義手、義足ハ必要ニ迫ラレ著シク進歩シ大ニ實用的トナレリ現戰爭ニ於テ廢兵ニ職業ヲ與フルノ教育勃

然トシテ起レルハ主トシテ瘵兵ノ多數ヲ生シタルニ依ルト雖義手、義足ノ進歩モ亦與テ力アリ

(五) 疾病治療上ノ進歩

腸窒扶私ハ豫防接種ニ依リ殆ト消滅ニ歸シタルヲ以テ赤痢ハ戰爭傳染病トシテ最恐怖スヘキ疾患トナリ自ラ注意ハ之ニ集注セラレ赤痢治療法ハ著シキ進歩ヲナセリ又流行性腦脊髓膜炎ノ病原菌ニ多種アルコトノ發見ハ適當ナル血清ノ發見トナリ治療成績ヲ驚クヘク向上セシメタリ其ノ他幾多ノ研究調査カ戰時中ナルニモ拘ラス續々トシテ起リ其ノ成績カ直ニ利用セラレツツアルハ嘆稱スルニ足ル

三 衛生材料ノ補給

衛生材料中敵國ヨリ輸入ヲ仰キツツアリタルモノニ就テハ開戰當初其ノ補給ニ困難ヲ感シタルカ如シ然レトモ製藥業者ノ奮勵努力、他國ヨリスル輸入及代用品ノ應用ニ依リ現在ニ於テハ甚シキ缺乏ヲ感スルコトナシ代用品トシテ最著明ナルハ棉花製品ニ對スルモノナリ

四 篤志救恤協會ノ活動

戰爭開始時完備セル野戰衛生機關ヲ有シタルハ獨リ獨國軍アルノミ從テ篤志救恤協會ノ多クハ管ニ内地ニ無數ノ衛生機關ヲ設置シタルノミナラス戰爭ノ初期ニ在テハ戰地ニモ亦多數ノ病院、救護班、患者輸送班ヲ送レリ其ノ他病院列車ヲ造リテ軍用ニ提供シ或ハ諸種ノ材料ヲ寄贈シテ患者ニ慰安ヲ與フル等其ノ作業ノ種類ハ枚擧ニ遑アラズ而シテ其ノ努力ハ陸軍衛生部ニ大ナル援助ヲ與ヘタリ但シ現時ニ於テハ

陸軍ノ野戰衛生機關概ネ整頓シタルヲ以テ露國ノ篤志救恤協會ノ外ハ皆主トシテ力ヲ内地ノ事業ニ致シ戰地ニハ後方ニ少數ノ病院、救護班及患者輸送班ヲ殘セルノミナリ篤志救恤協會ノ新事業トシテ特ニ注目ヲ惹クハ自動車編成ノ患者輸送班ヲ以テ患者運搬ヲ實施スル事業及瘵兵ノ教育ナリ

第二〇 交戦諸國ノ軍馬ニ關スル事項

交戦諸國ノ現用軍馬數ハ兵站部隊及内地部隊ノモノヲ除キ戰地ニ使用スルモノ大約左ノ如シ

協商側	一軍馬數	平時保管馬數ニ對スル増加比例	六倍強
英國	三、〇二七、〇〇〇	同	八倍強
佛國	七二〇、〇〇〇	同	五倍強
露國	一、二〇一、〇〇〇	同	六倍弱
白國	三七、〇〇〇	同	四倍強
伊國	三三三、〇〇〇	同	五倍強
塞國	三〇、〇〇〇	同	七倍弱
羅國	一九三、〇〇〇	同	九倍強
同盟側	一、九一一、〇〇〇	同	八倍強
獨國	九六六、〇〇〇	同	八倍強
埃匈國	五三八、〇〇〇	同	八倍弱

第二〇 交戦諸國ノ軍馬ニ關スル事項

土 國	三二五、〇〇〇	同	八倍強
勃 國	八二、〇〇〇	同	九倍弱
合 計	四、九三八、〇〇〇	同	七倍強
二 補 給			

一〇六

露國ヲ除キ其ノ他ノ交戰國(就中英國)ハ軍馬ニ大缺乏ヲ告ケ國內產馬(交戰諸國共ニ大發賣ヲ行ヒ獨國ノ如キハ千九百十五年未迄三百二十餘萬頭即チ地方馬總數ノ約二十六アリ)ヲ以テハ需給ノ平衡ヲ保チ難ク盛ニ外國產馬ヲ輸入シテ補給ノ確實ヲ期セムト努メツセントヲ發セリ

ツアリ即チ英、佛、白、伊ノ諸國ハ主トシテ米國(加奈陀及南米ヲ含ム而シテ合衆國ノミニテ輸出セル馬匹及騾馬ノ價格千九百十六年一月間ニテ一億五千餘萬弗ニ達シ輸出軍需品ノ第三位ニ在リ)ヨリ獨國ハ丁抹、和蘭、瑞典、挪威及「バルカン」地方ヨリ輸入ス其ノ詳細ニ就テハ未タ明確ナラサルモ英國ノ如キハ輸入頭數少クトモ三十萬頭ヲ下ラサルカ如シ

三 死傷數

其ノ實數ハ未タ詳ナラサルモ交戰諸國軍共ニ少カラサルカ如シ殊ニ開戰初期ニ於テ損廢多ク佛軍ノ加キハ百分ノ六十ニ達シ其ノ原因ノ主ナルモノハ過勞及鞍傷ニ在リト云フ

四 衛生狀態

軍馬ノ衛生狀態ハ外間ニ傳フル所ニ依レハ交戰諸國軍共ニ比較的良好ナリト云フ然レトモ東方戰場ニ於テハ露、獨、埃匈軍共ニ鼻疽及疥癬ノ侵襲ヲ受ケ特ニ露軍ニ於テ其ノ損害少カラサルカ如シ獨軍ニ於テハ之カ爲血液檢査所及疥癬病馬廠ヲ特設シ其ノ豫防制遏ニ努メツツ在リ

第二一 交戰諸國ノ戰費

一 戰費ノ總額

本千九百十七年四月末日マテニ歐洲交戰諸國ノ支出セル戰費ハ概テ別表ノ如ク其ノ總計千五百億圓ニ達セムトス而シテ其ノ最多ク支出セルハ英國ニシテ最近日額平均七千二百七十三萬四千圓之ニ次クハ獨國ノ四千四百萬圓ナリ斯ノ如ク戰費ノ巨額ニ達セルハ兵力ノ巨大、兵器其ノ他軍用器材ノ多數、彈藥費消ノ多量ト所謂國家總動員ノ結果直接軍費以外多額ノ經費ヲ要スルトニ因ル

二 戰費ノ財源

豫算流用、銀行借上金、大藏省證券、公債、増稅等ハ交戰諸國ノ等シク採用セル財源種別ニシテ獨國ノ軍事資金ハ異例ナリ

三 増 稅

戰時増稅ハ交戰諸國運速ノ差アルモ等シク皆實施セリ然レトモ概テ經常豫算ノ缺陷補填及公債利子ノ財源タルニ過キス新稅中廣ク交戰國ニ採用セラレタル戰時利益稅ハ最推奨スヘキ戰時稅ニシテ中立國ニテモ之ヲ賦課スルモノ尠カラス

公債ハ交戰諸國ノ主ナル財源ニシテ獨國ハ總テ内國債ナルモ他ノ諸國ハ外國債ヲモ多ク募集セリ是獨國

ハ海上封鎖ヲ受ケタル爲ニシテ從テ自給經濟狀態ヲ現出シ正貨ヲ國外ニ流出スルコトナク政府ノ仕拂ヒタル貨幣ハ内地市場ニ存シ再ヒ内國債發行ニ依リ之ヲ回收スルノ便ヲ得タリ之ニ反シ英、佛、露、伊ノ諸國ハ外國ヨリ軍需品ヲ購入セルヲ以テ之カ仕拂ノ爲購入地ニ於テ多額ノ外國債募集ヲナシ且英國ハ對外爲替相場維持ニ使用スル爲自國內ニ在ル外國證券ヲ政府ニ提供セシメタリ

公債募集ニ就テハ交戰諸國百方手段ヲ盡シ戰勝等ノ好機會ヲ逸セサルヲ努メ獨國ノ如キハ之カ爲作戰ヲ指導シタルコトアリト云フ又勤儉貯蓄ノ獎勵ハ各國共大ニ公債應募ヲ容易ナラシメタルカ如シ

四 金貨、金塊ノ蒐集

開戰以來交戰諸國ハ金貨、金塊ヲ總テ中央銀行ニ集メ之ヲ信用保持ノ基礎トシ紙幣ヲ流通セシム獨國ハ開戰數年前ヨリ金貨、金塊ノ蓄積ニ努メシカ開戰後ハ更ニ極力蒐集シ千九百十六年三月二十三日ノ現在ハ千九百十四年七月二十三日ノ現在ニ比シ十一億二百七十二萬麻ヲ増加シ其ノ後尙増加ノ傾向アリ其ノ他ノ交戰諸國ニ於テモ甚シキ増加アリ是主トシテ平時金貨ヲ流通セシメシニ由ル

五 軍事資金

交戰諸國中軍事資金ヲ有セシハ獨リ獨國ノミ獨國ハ千八百七十一年佛國ヨリ獲タル債金ノ一部ヲ軍事資金トシ千九百十三年七月更ニ之ヲ増加シ得ル權能ヲ帝國宰相ニ與ヘ開戰時ニハ二億五百萬麻ノ軍事資金ヲ有シタリ此ノ額ハ開戰ト共ニ帝國銀行ニ移サレ其ノ金保有高ヲ増加セリ故ニ債金又ハ財政上ノ餘裕アリ

ヲハ軍事資金ノ設置モ研究ノ價值アリ

六 動員準備金

獨國ハ戰時ノ爲帝國銀行ヲシテ豫メ巨額ノ紙幣ヲ準備セシメアリシヲ以テ動員ニ際シ多額ノ動員諸費ヲ支辨シ尙貸附金庫ヲシテ一般人民ニ資金ノ融通ヲナシ他ノ交戰諸國ノ如ク仕拂猶豫ノ制ヲ設ケス然レトモ小貨幣ハ缺乏シ地方ニ依リ小貨幣代用手形ヲ發行セシモノ少カラス佛國諸市中ニモ其ノ例アリ露國ハ殊ニ多ク哥紙幣ヲ發行シタリ尙英國ニテモ小紙幣ヲ發行スルマテ一時取引上困難ヲ來タセリ故ニ平時ヨリ紙幣増發準備ノ必要アリ而シテ平時硬貨ヲ流通スル多キ國ニ在リテ一層其ノ必要ヲ大ニス

之ヲ要スルニ一國戰費ノ負擔能力ハ主トシテ其ノ國富ニ關係スヘキモ主ナル戰費ノ財源タル内債ニ在リテハ財政動員等國家施設ノ宜シキヲ得ルト國民カ戰勝ノ確信ヲ以テ舉國一致奉公ノ至誠ヲ盡ストニ依リ其ノ能力ヲ發揮スルコト大ナリ外債ニ在リテモ其ノ國富及戰勝ノ成果ニ俟ツモノ多シ尙軍需品ノ自營自給ハ正貨ノ國外流出ヲ防キ戰費調達ヲ容易ナラシム故ニ平時ヨリ極力之カ準備ヲナスヲ要ス又流通貨幣ハ金保有高ノ増加其ノ他政府ノ信用アルトキハ紙幣ヲ專用シ得ルモ戰時生スル多額ノ需要ノ爲ニハ豫メ之カ準備ヲナササルヘカラス

第三二 交戰諸國民教育ノ狀況

今回ノ戰爭ハ交戰地域ノ廣大ナルト參加交戰國ノ多キト使用兵力、財力ノ夥大ナルトニ於テ未曾有ノ大戰ナルノミナラス兩對手國軍ノ綜合的戰爭能力ノ差少キ爲勝敗容易ニ決セス交戰期日愈延長シ各國ハ益戰爭ニ從事スル人員ノ數ヲ増加シ此ノ數ノ人口ニ對スル比率ノ大ナルコト亦古今ヲ絶ス此ノ結果列強ノ教育事業ニ蒙リタル打撃亦甚大ナリ然レトモ本戰爭ハ各國民ニ國家トシテノ強味ヲ増大スルコトノ將來最緊要ナルヲ自覺セシメ之カ爲識者ハ戰爭ヲ利用シテ國家觀念ノ養成ト民心ノ合一トニ努メ國民教育亦箇人主義ノ教義ヨリ離レテ國家主義ニ赴クノ趨勢トナリ殊ニ學校以外ニ於ケル列強ノ青年教育ハ本戰役に共ニ愈盛トナリ其ノ組織、制度亦改善セラレ教育ノ目的ハ純然タル軍事豫備教育トナリテ陸軍ノ統轄ニ歸シ遂ニ法律ヲ以テ此ノ教育ヲ強制セムトスルノ傾向ヲ呈スルニ至レリ其ノ他列強ノ學校及青年團カ直接間接ニ戰爭遂行ニ努力貢獻シタル奉公的事業亦從來ノ戰爭ニ其ノ比ヲ見サル所ナリ以下其ノ概要ヲ述ヘム

一 學校教育

初等、中等、高等教育ノ學校ノ組織ニ就テハ列強皆大體ニ於テ相類似ス然レトモ英、露兩國ニハ各種ノ私立學校多ク從テ學制劃一ナラス

露國ヲ除ク其ノ他ノ列強ハ皆初等教育ニ義務教育制度ヲ有シ其ノ年限ハ國ニ依リテ差アリ即チ英國ハ滿十一歳迄、佛國ハ滿十三歳迄、獨國ハ滿十四歳迄トス此ノ外獨國ニハ小學校卒業後ノ補修學校三箇年ヲ義務教育トスル聯邦多キヲ以テ獨國ノ義務教育年限ハ他列強ニ比シ頗ル長シ

列強ニハ六週間現役兵ノ制度ナク小學校教員亦動員上ノ不可充用員ニアラス從テ戰時學校教員ノ召集セラルルモノ極メテ多ク此ノ外教職員ト學生トヲ問ハス年齢、體格上兵役ニ服シ得ル者ノ志願シテ兵員トナリシ者頗ル多ク學校校舍ノ軍用ニ徵用セラレタル數亦少カラス此等ノ結果列強ノ學校教育ハ開戦後多大ノ打撃ヲ蒙ルニ至レリ就中佛國ニ於テハ開戦當初國民ノ熱狂的愛國心ハ殆ト他事ヲ顧ミスシテ直接戰爭方面ニノミ熱中シ爲ニ教育事業ハ列強中最大ナル打撃ヲ蒙リ學校ノ閉鎖セララルモノ甚タ多ク其ノ後人心ノ沈靜ト共ニ國民教育ノ重大ナルヲ思ヒ起シ官民協力シテ教育事業ノ恢復ニ努メ千九百十五年春季以來漸次復舊ノ狀ヲ呈スルニ至レリ英國ニ於テハ開戦ノ當初一般國民概シテ戰爭ニ對シ熱心ノ度ヲ缺キ殊ニ教育界ニ於テハ諸學校ノ教育ヲ平時ノ如ク持續シ教育事業ヲシテ成ルヘク戰爭ノ影響ヲ蒙ラシメサルコトニ努メタル結果他列強ニ比シ教育事業ノ蒙リタル打撃極メテ少カリキ然レトモ時日ノ經過ト共ニ國民ハ本戰爭ノ重大ナルヲ自覺シ政府亦逐次陸軍ノ大擴張ヲ實施シ所要兵員ノ數激増セシカ爲教育當事者亦其ノ主義ヲ一變シテ諸學校教職員及年長學生ニ軍人タラムコトヲ獎勵スルニ至リ遂ニ千九百十六年初ニ於ケル徵兵制度採用以前ニ於テ既ニ英國ノ學校教育モ亦他列強ニ讓ラサルノ大打撃ヲ蒙ムルニ至レ

リ然レトモ其ノ經過上述ノ如ク急速ナラサリシカ爲政府及學校當事者能ク此ノ打撃ニ處スルノ策ヲ講スルヲ得テ殆ト一校タモ閉鎖スルニ至ラザリキ獨國ニ於テハ戰爭ノ爲教職員及學生ヲ失ヒシ數毫モ佛國ニ讓ラサルモ最初ヨリ政府並學校當事者ノ措置適當ニシテ殆ト學校ノ閉鎖セラレタルモノナシ

開戦前ニ於ケル歐洲列強ノ教育ハ多少國ニ依リテ其ノ度ヲ異ニスト雖概シテ箇人主義ニ傾キ國民ノ國家ニ對スル觀念亦薄弱トナリ極端ナル自由平等ノ思想ト箇人ノ利己的觀念漸次増進スルノ傾向ヲ呈セシカ本戰役ハ是等國民ノ不良思想ヲ一掃シ箇人ト國家トノ關係ニ就キ實物教示ヲ與ヘ國家主義ノ教義到ル處ニ迎ヘラルルニ至レリ列強中此ノ變化ノ著シキモノハ英國ニシテ佛國之ニ次ケリ此ノ如クシテ戰時列強教育ノ特色ハ殆ト同一トナリ皆共ニ鞏固ナル國家觀念ヲ養成シ愛國心ト敵愾心ト犧牲心ト協同心トヲ振起セシムルコトヲ國民教育ノ根本義トスルニ至レリ而シテ其ノ手段トシテハ社會ニ對シテハ有力ナル政治家、學者、教育家等ノ演說トナリ飛檄トナリ教育界ニ於テハ文部大臣ノ訓示トナリ學者、教育家ノ訓話トナリ著書トナリテ現ハレ又學校ニ於テハ常ニ有ラユル教育科目ニ連繫シテ本戰爭ニ於ケル活事件ヲ利用シ少年ヲ激勵刺戟シテ此ノ精神ノ涵養ニ努ム

又本戰役ト共ニ軍隊式訓練大ニ學校ニ迎ヘラルルニ至レリ殊ニ平時此ノ種訓練ヲ採用セル學校極メテ少數ナリシ英國ニ於テ此ノ訓練ノ盛況ヲ呈スルニ至レルハ注目ニ値ス

二 青年教育

第二二 交戦諸國國民教育ノ狀況

茲ニ述フルハ學校トシテ行フ教育以外ニ少年、青年ニ對シテ行フ社會的教育ナリ

(一) 英國

英國少年ノ最多數ヲ占ムル下層社會ノ子弟ハ多クハ滿十一歳ニテ學校ヲ止メ其ノ後何等教育ヲ受クルコトナク社會ノ惡風ニ感染スルノミニシテ精神、身體共ニ惡影響ヲ蒙ルコト甚シク國家ノ前途大ニ憂フヘキモノアリトハ識者ノ夙ニ憂ヒタル所ニシテ英國ノ青年教育ハ即チ是等下層少年ヲ救養シテ益國家將來ノ基礎ヲ堅フセムトスルノ趣旨ヨリ生シ其ノ最古キハ千八百八十年代ニ起レリ然レトモ最初ノモノハ宗教家ノ組織セシモノニシテ活氣アル有爲ノ青年ヲ養成スルニ適セス其ノ後南阿戰ノ教訓ハ遂ニ「バーデン、パウエル」將軍ヲ起タシメテ今日ノ少年斥候隊ヲ編成セシムルニ至レリ

少年斥候隊ニ入ル者ハ現ニ學校ニ通學シアラサル滿十一歳ヨリ滿十八歳ニ至ル迄ノ少年ニシテ從テ貧民子弟ノ薰陶ヲ主トスルノ點ニ於テ從來ノ諸教育團ト其ノ軌ヲ一ニスルモ其ノ教育上ノ趣旨ハ少年ノ心身ヲ鍛鍊シテ國家ノ爲有用ナル國民ヲ作り且簡人トシテハ誠實ニシテ廉恥心ニ富ミ勇敢義侠ノ人物ヲ養成スルニ在リテ之カ爲軍隊式訓練ニ類似スル訓練ヲ行ヒ若干ノ武技ヲモ演練シタリ然レトモ其ノ直接ノ目的ハ決シテ軍事豫備教育ニハアラサリシナリ

此ノ教育團ノ事業ハ平時ニ於テモ少年ノ薰陶ニ大ナル效果アリシノミナラス斥候隊ノ趣旨トシテ各少年ニ大小ニ拘ラス一日少クモ何等カノ一善ヲ行フコトヲ獎勵スルヲ以テ社會ニ有益ナル各種ノ善行常ニ行ハレ殊ニ天變地異其ノ他ノ出來事アル毎ニ斥候ノ人命救助等犧牲的ノ行爲現ハレタルヲ以テ漸次國民ノ贊助ヲ得テ大ナル發達ヲ遂ケ英國青年教育團體ノ主體トナルニ至レリ

本戰役ニ於ケル少年斥候隊ノ奉公的活動ハ後ニ述フルカ如ク頗ル目覺シク今ヤ國民舉テ此ノ教育ノ價値重大ニシテ國家ノ爲緊要缺クヘカラサルヲ感シアリテ此ノ教育團ハ戰役ニ伴ヒテ益長足ノ發展ヲナセリ斥候隊ニ於ケル教育亦戰役ニ伴ヒテ變化ヲ見タリ即チ千九百十四年末斥候總長「バーデン、パウエル」中將ハ萬一英本國カ敵ノ來襲ヲ受クル場合ニハ斥候隊ヲ以テ直接國防ニ參與セシメムトシ斥候中滿十六歳以上ノ青年ヲ以テ國防隊ヲ編成シ之ニ步兵トシテノ純然タル軍隊訓練ヲ施スコトトセリ

其ノ他本戰役ニ於テ新ニ生シタル青年教育團體トシテ千九百十五年末頃ヨリ「エセツクス」、「ランカスター」、「ヨーク」、「ノウザンバランド」等ノ數州及「リヴァプール」等ノ都市ニ於テ州或ハ都市教育委員ノ創設セシ學校生徒及一般青年混成ノ教育團體アリ此ノ教育ノ目的ハ未入營青年ニ對スル純然タル軍事豫備教育ヲ實施スルニ在リテ其ノ後徵兵令ノ發布ト共ニ其ノ他ノ諸州及都市ノ之ニ倣フモノ漸次増加スト報セラル而シテ此等軍事豫備教育團ニ入ル青年ノ年齢ハ州又ハ都市ニ依リテ多少ノ差アルモ概ネ十四、五歳ヨリ徵兵適齡年即チ滿十八年ニ達スル迄ノ者ナリト云フ

以上ハ英本國ニ於ケル青年教育ノ概要ナリ英國ノ四大自治殖民地タル濠洲、新西蘭、加奈陀及南阿弗利加ニ於テハ戰前ヨリ歐洲列強ノ未タ採用セサリシ方式ニ依リテ青年ノ訓練ヲ實施シアリタリ即チ濠洲ニ

於テバ千九百九年、新西蘭ニ於テハ千九百十年、南阿弗利加ニ於テハ千九百十二年、加奈陀ニ於テハ千九百十三年ニ於テ夫々法律ヲ以テ一定年限ノ青年ニ普遍的ニ軍事教育ヲ施スコトニセルモノ是ナリ此等ノ諸殖民地ハ皆遠ク本國ヨリ離レ且近時益其ノ比隣ニ對シ其ノ地防衛ノ必要ヲ感シ國防上ノ見地ヨリ兵制ヲ建テ軍備ヲ整ヘムトスルト同時ニ斯ノ如キ青年ノ訓練ヲ實施スルニ至リタルモノニシテ加奈陀及南阿弗利加ハ其ノ開始遲キ爲開戦前迄ニハ其ノ結果尙見ルヘキモノアラサリシカ濠洲及新西蘭ニ於テハ開戦前既ニ此ノ教育頗ル盛ニシテ獨リ軍事上ニ效果アリシノミナラス一般青年ノ身體及精神上ニ與ヘタル結果亦頗ル佳良ナリシト報セラレ

(二) 佛國

佛國ノ青年教育ハ全然國防力増加ノ必要ヨリ起リタルモノナリ即チ同國ニ於テハ壯丁數ノ關係ヨリ獨ト軍備ヲ競フヲ得サルヲ以テ各箇人ノ訓練ヲ十分ニシ之ニ依リテ數ノ不足ヲ補ハムトスルノ趣旨ヨリ入營前ノ青年ニ訓練ヲ施サムトスルモノニシテ從テ此ノ教育ハ全ク軍事ノ豫備教育ヲ以テ其ノ目的トスルモノナリ而シテ此ノ教育事業ハ官民共ニ其ノ必要ヲ感シテ起シタルモノニシテ最古キハ千八百七十年、七十一年ノ獨、佛戰後ニ起リ千八百八十一年ニハ當時ノ陸軍大臣大ニ此ノ教育ノ必要ヲ天下ニ絶叫シ茲ニ此ノ種教育ノ諸團體勃然トシテ起リ爾來多少ノ消長アリシモ獨國ノ數次ノ軍備擴張ト國際關係緊張ノ度益増加スルトニ伴フ國民ノ敵愾心ハ近年益此ノ教育事業ノ發展ヲ助長シタリ尙此ノ青年ノ軍事豫習ト

共ニ在郷軍人ノ武技復習モ極メテ必要ナルヲ以テ多クノ團體ハ此ノ兩種ヲ合シ以テ豫習、復習ノ兩教育相互ノ便益ヲ計レリ

然レトモ此ノ教育ヲ實施シアル團體ハ孰レモ皆民間ノ事業トシテ起リ之ニ參加スル何等法規上ノ強制ニ依ラサルヲ以テ教育ノ普及十分ナラス又諸團體ヲ統一スルノ制度ナキヲ以テ教育ノ實施區々ナルヲ免レサリキ依テ千九百八年政府ハ之ニ關スル法律案ヲ議會ニ提出シ以テ青年ノ軍事豫備教育ヲ受クルヲ義務的トシ且諸團體ヲ陸軍省ノ管轄ニ置キテ陸軍ノ要求ニ合スル如キ教育ヲ實施セムトシタルモ遂ニ此ノ法律案ハ議會ヲ通過スルニ至ラス是ニ於テ政府ハ之カ編綴策トシテ陸軍大臣ノ認可スル教育團體ニハ其ノ維持及教育ニ相當ノ補助ヲ與ヘ又其ノ團員ニハ一定ノ特典ヲ與ヘ以テ此ノ種團體ノ發達ヲ促シ且教育課目及之カ要求程度ヲ示シ尙其ノ教育ノ實施ハ各地方毎ニ軍團長以下ノ監督ヲ受ケシムルコトトシ陸軍省ヲシテ之ニ關スル規定ヲ發セシメタリ之ニ依リ爾來佛國青年ノ軍事豫備教育ハ從來ニ比シ更ニ良好ノ成績ヲ收ムルニ至リシモ一方近年ニ至リ危險ナル一種ノ平和思想國內ニ入り柔弱ナル一部ノ人士亦之ニ加ハリテ戰爭ヲ惡トシ永久平和ノ樂園ヲ作ラムコトヲ希フノ餘リ軍備ノ充實ハ勿論軍事一切ノ事項ニ反

抗シ青年ノ軍事豫備教育亦之カ爲ニ妨害ヲ受クルコト尠カラサリキ
右ノ外近年ニ至リ巴里ニ於テ英國少年斥候隊ニ模倣シタル國民教育會ト稱スルモノヲ創設シ在來ノ軍事豫備教育團員ヨリモ年少ノ少年ヲ教養スルノ事業ヲ始メシモ政府之ヲ軍事豫備教育團ト認メサルト創立

日淺キトノ爲未タ大ナル發達ヲ見ルニ至ラス
 斯ノ如クシテ今回ノ大戰ハ到來シ新兵ノ教育上青年ノ軍事豫備教育ハ大ナル價值ヲ現ハシ益此ノ教育ノ
 必要ヲ感スルト共ニ彼ノ危險ナル平和思想ハ戰爭ニ伴ヒテ隱遁シ戰爭ノ開始以來此ノ種青年教育ハ更ニ
 一層ノ盛況ヲ呈セリ殊ニ最近ニ至リテハ獨國カ遂ニ法律ヲ以テ此ノ教育ヲ強制スルニ至レルニ倣ヒト
 同様ノ法律案ヲ議會ニ提出シタリト報セラレ

(三) 露國

露國青年教育ノ一新紀元ヲ開キシモノハ日露戰爭ニシテ同役失敗ノ一大原因トシテ民心ノ不統一殊ニ革
 命的若ハ社會主義的思想ノ瀰蔓ヲ指摘スルモノ多ク是ニ於テ第二ノ國民タル青年ヲ訓練シテ忠君愛國ノ
 觀念ヲ注入シ思想ヲ統一シ心身ヲ鍛鍊シ以テ國家ノ基礎ヲ鞏固ニスルト共ニ他日兵役ニ服スル場合ノ爲
 青年ニ良兵ノ基礎ヲ與ヘムト企圖シ各所ニ青年隊或ハ體育俱樂部等ノ青年教育團組織セラルルノ氣運ト
 ナリシカ千九百八年ニ至リ青年教育總監部ヲ設ケ陸軍將官ヲ之カ長官トシ以テ全國青年ノ教育ヲ統一セ
 シムルコトトシ陸軍、文部、内務ノ各省ハ相協力シテ大ニ此ノ事業ノ發達ニ助力シ又皇帝ハ千九百十一
 年及千九百十二年ノ二回露都ニ全國青年隊ノ代表部隊ヲ集メ親ラ檢閲ヲ實施セラレタリ斯ノ如クシテ露
 國ノ青年教育ハ近年ニ至リ俄ニ急速ノ發達ヲナシツツ本戰役ニ至リシモノナリ
 本戰役ニ於テハ青年教育諸團體ヲ以テ純然タル青年豫備教育ノ機關トシ其ノ組織ヲ改新シテ各地方ニ軍

事教育委員會ヲ設ケ其ノ管下ニ在ル教育諸團體ヲ指揮セシメ青年教育總監更ニ全國ノ前記委員會ヲ總轄
 シ陸軍大臣ノ指示ニ基キテ全國ノ青年ニ軍事豫備教育ヲ實施スルコトトセリ

(四) 獨國

獨國ニ於ケル青年教育ノ由來ハ英國ノ夫レニ類似シ物質的文明ノ進歩ニ伴フ青年ノ墮落ヲ救済シ心身共
 ニ健全ニシテ有爲ナル良國民ヲ養成セムトスルニ在リテ佛國ノ如ク軍事豫備教育ヲ其ノ直接ノ目的トシ
 テ起リタルモノニアラス而シテ此ノ教育ノ必要ハ前世紀ノ末葉ヨリ頻ニ唱ヘラレテ多數ノ教育團體續出
 セリ然レトモ當時此等各種ノ教育團體ハ更ニ統一ナク各箇種々ノ主義方針ヲ建テ極端ニ軍事教育ニ傾ケ
 ルモノト殆ト體育ヲ等閑ニ附シテ宗教的ノ精神教育ノミヲ實施スルモノトアリテ共ニ健全ナル國民ノ養
 成ニ適セス是ニ於テ普國ハ各聯邦ニ率先シテ此ノ教育ノ統一ヲ企テ千九百十年冬ノ王國議會開院式ニ於
 テ國王ハ此ノ問題ノ極メテ必要ナルヲ述ヘ且之カ解決ノ爲經費ノ支出ヲ要求シ議會ハ之ニ依リテ百萬
 克ヲ支出スルノ協賛ヲ與ヘ又當事者タル普國文部大臣ハ各種青年教育團體ノ統一ト此ノ教育事業ノ發展
 トヲ促サム爲翌年一月訓示ト綿密ナル指針トヲ發シ各聯邦亦直ニ之ニ倣ヒ此ノ教育ハ各聯邦毎ニ統一セ
 ラルルコトトナリシモ更ニ之ヲ全獨逸帝國ヲ通シ統一セル一青年團體トナサムト欲シ千九百十二年皇帝
 ノ勅許ヲ經テ皇太子ヲ總裁トシ「フオンデルゴルツ」元帥ヲ會長トスル青年獨逸會ナルモノノ成立ヲ見ル
 ニ至レリ而シテ此ノ會ノ目的モ青年ノ體力及精神ヲ健全ニシ愛國心ニ強キ剛健ナル獨國民ヲ作ラムトス

ルニ在リテ軍事豫備教育ヲ其ノ直接ノ目的トセシモノニハアラサリシナリ斯克シテ全獨逸帝國ノ青年教育ハ一定ノ主義ノ下ニ統一セラレ當事者ノ適當ナル指導ト各聯邦政府ノ熱心ナル援助トニ依リテ長足ノ進歩ヲナシツツ本戰役ニ到達セリ

然ルニ本戰爭開始セラルルヤ陸軍當局ハ一方大ニ兵力ノ増大ヲ企テタルト地方ニハ兵員ノ損耗大ナルヲ豫想シタルトニ依リ健康ナル青年ノ殆ト全部ハ早晚軍隊ニ召集セラルルニ至ルヘク而モ是等多數ノ新兵教育ハ到底短日月ニ補充隊ノミニテ能クスル所ニアラサルヲ思ヒ青年ニ入營前或ル程度ノ軍事豫備教育ヲ施スノ極メテ必要ナルヲ認メ茲ニ戰役間青年ノ教育ヲ全然陸軍ノ手ニテ統轄スルコトトシ普國ニ於テハ千九百十四年八月下旬陸軍、文部、内務三大臣ノ連署ヲ以テ之ニ關スル訓示ヲ發シ又之ト同時ニ陸軍大臣ハ軍事的教育上準據スヘキ綿密ナル指針ヲ示達シ尋テ各聯邦皆之ニ倣ヘリ是ニ於テ全獨國ノ青年ハ各地方毎ニ在來ノ教育團體ヲ基礎トシ滿十六歳乃至徵兵適齡迄ノ者ヲ以テ青年中隊ヲ編成シ此等諸中隊ハ軍團管區毎ニ留守軍團長ニ隸シ軍團長ハ適當ナル將校ヲシテ青年中隊ノ編成及教育ヲ指導セシムルコトトセリ

此ノ教育ヲ受クルハ當初各自ノ自由意志ニ委ネ政府ハ唯國民ノ愛國心ニ訴ヘテ之ヲ獎勵シタルニ過キスシテ一時甚タ盛況ヲ呈シタルカ如キモ之ヲ獨國ノ全青年ニ比スレハ其ノ數ハ甚タ少ク而モ時局ハ益重大トナリ兵員ノ養成亦益重要トナリ是ニ於テ遂ニ意ヲ決シ昨千九百十六年遂ニ法律ニ依リテ強制的ニ一般

青年ニ軍事豫備教育ヲ施スコトトセリト報セラル

(五) 其ノ他ノ諸國

伊國ハ千九百八年白國ハ更ニ其ノ後青年教育ヲ開始セリ兩國共ニ其ノ範ヲ佛國ニ採リ滿十六歳以上ノ青年ニ軍事豫備教育ヲ施スヲ其ノ目的トシ法律ニ依リテ之ヲ強制スルニアラサルモ此ノ教育ハ總テ陸軍ニ於テ統一スルコトトセリ開戦後ノ情況ハ未タ之ヲ詳ニスルヲ得ス

埃國國ノ青年教育亦近年ニ至リ始メラレタルモノニシテ其ノ内稍古キモノハ獨國ニアリシカ如キ諸種ノ體育會ニシテ最新ノモノハ皇太子ヲ總裁トセル所謂埃國青年聯合尙武團ナリ此ノ團體ハ佛國ノ如ク軍事豫備教育ヲ其ノ目的トセシモ事業漸ク其ノ緒ニ著カムトスル時機ニ本戰役トナリシヲ以テ開戦迄ニハ尙未タ徹々タル團體ニ過キサリキ然レトモ開戦後ニ於ケル青年教育諸團體中ニテハ此ノ軍事豫備教育團ノ發展特ニ顯著ナリト傳ヘラル

其ノ他塞國、羅國、勃國等ノ巴爾幹諸國ニ於テモ開戦前ヨリ夫々青年ノ訓練ヲ行ヒ本戰役ニ於テモ相當ノ活動ヲナシ兼ルカ如ク此等ハ時々諸國ノ新聞雜誌ノ寫眞ニ散見スル所ナルモ未タ之ヲ詳ニスルノ材料ヲ得ス

三 學校及青年團ノ奉公的事業

本戰役ニ於テ交戰諸國ノ學校及青年團カ戰爭遂行ノ爲ニ努力シ國家ニ貢獻シタル功績ハ頗ル顯著ニシテ

到底從來ノ戰爭ニ其ノ比ヲ見サル所ナリトス而シテ各國其ノ國情ヲ異ニスルニ從ヒ青年活動ノ範圍及同一種類ノ事業ニ在リテモ其ノ輕重ノ度等國ニ依リテ多少ノ差ナキニアラサルモ之ヲ概括シテ列舉スレハ其ノ事業概ネ左ノ如シ

(一) 義勇兵

兵員問題ハ本戰役ニ於ケル交戰諸國ノ最重要ナル問題ナリ從テ各國共其ノ年齡及體格上軍人トナリ得ル者ハ其ノ兵役義務ノ有無ニ關セズ主トシテ義勇兵トナリテ出征セリ就中英國カ徵兵制度ニ依ラスシテ五百萬ノ募兵ヲ得タルカ如キ獨國カ徵兵制度ヲ有スルニ係ラス開戰後一箇月ノ内ニ義勇兵トシテ二百萬ノ應募者ヲ得之カ爲全國高等工業ノ十一校ヲ通シ學生ノ百分ノ九十ヲ失ヒタルカ如キハ其ノ數ニ於ケル顯著ナル例證ニシテ又佛軍ニ滿十六歲以上ノ少年義勇兵ノ奮闘ヲ見ルカ如キ露軍ニ十四、五歲以上稀二十歲前後ノ少年義勇兵ヲ見ルカ如キハ年少者活動ノ著シキ實例ナリ

(二) 軍務ノ補助

本項ハ年齡、體格上軍人タルヲ得サル青年ノ活動ナリ其ノ主ナルモノハ本國內ノ警備及警察勤務ノ補助並傷病兵ノ看護等ニシテ一部ハ戰地ニ送ラレテ嚮導、傳令、病院勤務ヲ補助シ中ニハ戰線ニ彈藥、糧食、水等ノ運搬ニモ從事セリ此ノ活動ノ著シキハ英、獨兩國ノ青年ニシテ佛、露國ニハ其ノ例少キカ如シ是佛、露軍ハ比較的年少者ヲモ義勇兵トシテ使用セルニ反シ英、獨兩國ハ年少者ハ之ヲ軍人トシテ採用セ

ス軍務ノ補助者トシテ使用セルニ由ルナラム

(三) 軍需品製造ノ援助

軍需品殊ニ彈藥補給問題ハ本戰争ニ於ケル重要ナル問題ノ一ナリ就中獨國ハ原料ヲ獲ルノ點ニ於テ苦心シ英國ハ職工問題ニ困難シ露國ハ一般工業ノ幼稚ニ起因スル工場及技術者ニ最苦心シタリ從テ獨國ノ學校ニテハ生徒ヲシテ各家ヲ訪問シテ銅、鉛、護謨、羊毛等缺乏原料ノ蒐集ニ從事セシメ露國ノ工業學校ニテハ一部軍需品ノ製造及修理ヲ擔任シ英國ノ工業學校ニテハ新職工ノ教育ヲ擔任シ又學校生徒及其ノ他上流家庭ノ少年ニハ一般紳士淑女ノ企テタル義勇職工團ニ加入シ休日ニ於テ本職ノ職工ニ代リテ工場ニ勤ムルモノ多シ又最近ニ至リテハ英國ニ於テモ船腹ノ不足ニ起因シテ諸原料ヲ海外ヨリ得ルコト困難トナレルヲ以テ漸次獨國學校生徒ニ類スル活動盛ナラムトスト傳ヘラル

(四) 農業ノ援助

食糧問題ニ最苦ミタルハ獨國ニシテ農業國タル露國亦農家ノ子弟ノ出征スル爲耕作從事者ニ甚シク不足ヲ告クルニ至レリ此ノ結果兩國ニ於テハ學生團或ハ地方青年團ニテ農業援助隊ヲ編成シテ地方ノ請求ニ依リテ派遣シ小學校生徒ニモ收穫時農事休暇ヲ與ヘアリ尙獨國ニ於テハ各學校競フテ校庭ニ畑ヲ作り教師ノ指導ノ下ニ生徒ヲシテ馬鈴薯、豆等ヲ栽培セシメ或ハ山林ニ入りテ果實等ヲ採集セシムル等其ノ活動盛ナリト傳ヘラル

英國ニ於テモ獨國潜水艇ノ跳梁其ノ度ヲ高ムルニ從ヒ船腹不足ト共ニ食料品漸次缺乏ノ徵ヲ示シ今ヤ食料品ノ増産及節用ハ政府並國民ノ最苦心スル問題トナリ從テ學校ニ於ケル簡易生活及料理法ノ講習、校庭及遊戯場ノ耕作、各種青年團ノ新開墾事業ニ參加等近時ニ至リテハ此ノ方面ニ對スル學校及青年團ノ活動亦頗ル盛ナリト報セラル

(五) 戰時公債募集ノ援助

學校カ或ハ生徒ノ貯金ニ依リ或ハ生徒ヲ通シ父兄ヲ勸誘シテ戰時公債募集ニ助力ヲ爲シツツアルハ各國皆同シ就中獨國ニ於ケル戰費ノ調達ハ主トシテ内債ニ依ルヲ以テ此ノ事業ニ關スル學校ノ活動他列強ニ比シ遙ニ著シク特ニ第三回募集ノ好成绩ハ小學校教員及生徒ノ力與リテ大ナリト認メラル皇帝ハ文部大臣ニ勅語ヲ下シテ全國小學校ニ一日ノ休暇ヲ與ヘタリト報セラル

(六) 恤兵及慈善事業

出征軍人及傷病兵慰藉ノ爲金品ヲ送り或ハ軍人ノ留守宅若ハ遺族ノ慰安、幫助等軍人後援ノ事業ニ學校及青年男女團ノ盡シアル努力ハ各國共頗ル歎稱ノ値アリト報セラル
其ノ他學校若ハ教育界ノ事業トシテ著シキモノハ國民ノ國家觀念ヲ強クシ其ノ決心ヲ堅クシ舉國一致最後迄奮闘努力シテ國難ニ處セムトスルノ覺悟ヲ與フル爲或ハ戰爭講演會ヲ開キ或ハ學校ヨリ小冊子ヲ發行スル等ノ舉アル各國略同様ニシテ此ノ外英、獨兩國ニ於テハ現戰爭ノ狀況ヲ知ラシメ軍事思想ノ普及

ニ資スル爲戰爭博覽會ヲ催シ現戰爭ニ使用スル兵器其ノ他ノ軍用諸器材ノ實物或ハ模型ヲ陳列シ尙現戰場ニ在ル陣地ノ一部ヲモ構築シテ一般ノ觀覽ニ供シタリト云フ

以上ハ本戰爭ニ於ケル列強國民教育ノ概要ニシテ之ニ依ルトキハ各國ハ戰爭ノ爲國民教育ニ大ナル打撃ヲ蒙リタルニ拘ラス能ク其ノ國ノ情況ニ應シ現下ノ要求ニ適合セムト努力シ國家ノ爲多大ノ貢獻ヲ致シツツアルハ實ニ歎稱ニ値スルモノニシテ尙此ノ外英、佛、獨國ノ如キハ既ニ戰後ニ於ケル國民教育ノ問題ニ關シテ研究審議ヲ爲シツツアリト報セラル而シテ此ノ問題ニ關スル此等三國ノ趨勢中特ニ注目スヘキハ

- 一 國家ノ力ハ全國民ノ有スル能力ノ結合セル總計ナルカ故ニ國家全體ノ力ヲ向上スルニハ國家ノ總テノ階級ノ者ニ益十分ナル教育ヲ施スノ施設ヲ講ス
- 二 之ト同時ニ此ノ能力總計ノ真ノ力ハ其ノ結合力ノ強弱ニ依リテ差アルヲ以テ益國家觀念ヲ振興セシメ「國家ノ爲」ナル同一目標ニ向テ各國民ノ他事ヲ捨テテ協力同心スヘキ強キ團結心ヲ養成スルコトヲ以テ各種國民教育ノ根本主義トシ
- 三 又體育ハ青年箇人將來ノ爲ニ必要ナルノミナラス實ニ國家ノ國防力増進ノ見地ニ於テ重大ナル素因ヲナスモノナルヲ以テ今後ハ此ノ方面ニ十分ノ努力ヲ注クヲ必要トス
- 四 而シテ學校ノ内外ヲ問ハス青年ニ或ル程度ノ軍隊的訓練ヲ施スコトハ青年ノ體力ヲ増進シ國家觀

念ト義務心ト獨立心ト勇氣ト判斷力等國民トシテノ良質ヲ養成スルニ適スルノミナラス青年ニ若干ノ武技ヲ練習セシメ置クコトハ國家有事ノ日極メテ有用ナルハ本戰爭ノ教訓ナルヲ以テ將來此ノ種訓練ニモ相當ノ注意ヲ拂ハサルヘカラス

五 尙將來一國ノ科學及工業ノ進歩發展ハ國家ノ經濟ヲ利スルコト大ナルノミナラス國家ノ戰爭能力ニ重大ナル關係アルヲ以テ此ノ方面ノ教育ニハ更ニ一層ノ力ヲ加ヘサルヘカラス
等ノ數點ニ在リ

第二三 交戰諸國婦人活動ノ概況

現今ノ戰爭ハ實ニ國家ノ全力ヲ要求シ一國ノ男子ニシテ兵役ニ堪フル者ハ悉ク武裝シテ軍役に從フ是ニ於テカ國內勞力ノ中堅ハ實ニ婦人ノ雙肩ニ懸リ其ノ活動力直接間接ニ戰爭ニ影響スル所決シテ尠少ニアラサルナリ即チ以下婦人活動ノ概況ヲ叙シ以テ軍事ニ與フル影響ノ如何ヲ判斷スルノ一助トナサムトス

一 男子ニ代リ活動セル婦人

戰時國內ニ殘留スル男子ノ減少ハ婦人ヲシテ男子從來ノ職業ニ代リテ活動セサルヲ得サルニ至ラシメ其ノ職業ノ範圍モ亦頗ル擴大セリ其ノ主要ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

軍需品ノ製造(男性的勞働作業)、造船所職工

陸軍ノ補助勤務、軍馬調教、其ノ他戰線ノ後方ニ於ケル彈藥運搬並散兵壕ノ掘開等

巡查、消防婦

鐵道及電車ノ從業員(車掌、運轉手、改札人、信號手、線路工婦、機關車掃除人、列車給仕、荷物運搬人等)

郵便電信配達人、郵便馬車ノ馭者

第二三 交戰諸國婦人活動ノ概況

食料、石炭、新聞其ノ他ノ物品配達人

道路掃除人、煙筒掃除人、窓掃除人、點燈婦

旅館ノ荷物運搬人、昇降機操縦者及留守宅戸締番人

右ノ外農事従業者、教員、其ノ他銀行、會社、各省官公衛等ノ事務員ノ如キモ漸次婦人ヲ以テ男子ニ代ヘ婦人ノ活動セル者頗ル多數ニ上レリ而シテ從來男子ノ執リ來リシ職業中ニハ大ナル勞力ヲ要スルモノ及熟練ヲ要スルモノアリシニ拘ラス報國ノ赤誠ハ能ク婦人ヲシテ平時豫期セサリシ激務勞働ニ堪ヘシメ短時日ノ修練ヲ以テ熟練ヲ要スル職業ヲ執ルコトヲ得ルニ至ラシメタルノミナラス其ノ成果ノ殆ト男子ト選フ所ナキハ誠ニ嘆賞ニ堪ヘサルナリ

斯ノ如キ婦人ノ就職ハ男子ノ缺乏ニモ關ラス能ク國內諸機關ノ運轉ヲシテ休止ノ憂ナカラシメ一ニハ男子ノ地位ヲ繼承シテ以テ之ニ從事セル男子ヲシテ戰線ニ立ツコトヲ得ルニ至ラシム即チ婦人職業ノ範圍ノ擴大ハ徵集シ得ヘキ男子數ノ増大ヲ示スト云フモ不可ナカラム殊ニ婦人社交界ニ於テ出征セサル男子ヲ擯斥スルニ至リシ傾向ハ兵員徵募上利スル所頗ル大ナルモノアリ英、佛兩國ノ如キハ其ノ適例ナリ

二 軍需品ノ製造

兵員増大ノ結果所要軍需品ノ數量ヲ激増セルニ拘ラス一方ニ於テ國內男子ノ數ヲ著シク減少セルヲ以テ軍需品ノ製造ハ婦人ノ力ニ負フ所頗ル大ナリ其ノ兵器製造ニ從事セル女工ハ千九百十六年中葉ニ於テ英

國ニ於テハ約四十萬人、獨國ニ於テハ約七十萬人ヲ算セリト云フ爾後製造能力増大セシヲ以テ見ルモ更ニ其ノ數ノ増加セシコトヲ推知スルニ難カラス而シテ其ノ作業時間及作業力ニ於テモ男工ト大差ナク輕易ナル作業ニ於テハ寧ロ男工ヲ凌駕スルモノアリト云フ然レトモ當局者ハ女工ノ保護ニ關シテ深ク考慮スル所アリ以テ過勞ヨリ生スル弊害ヲ除去セムコトニ努力セリ尙英國「グイカーズ」婦人職工隊ノ如ク上流ノ婦人カ無報酬ニテ兵器製造ニ從事セルカ如キハ特ニ嘆賞ニ堪ヘサル所ニシテ其ノ活模範カ國民ニ與ヘシ好影響ハ頗ル大ナルモノアリ

又各國ノ婦人カ箇人若ハ團體トシテ製作セル恤兵品ハ軍需品ノ一部ニ充當スルニ足リ特ニ防寒被服ノ如キハ此等恤兵品ニ待ツ所尠カラス獨國ノ如キハ之カ爲一定ノ範例ヲ示シ以テ使用ニ便セリト云フ而シテ上ハ皇室ヲ始め一般婦人ニ至ル迄餘暇アラハ必ス之カ製作ノ手ヲ休メス佛國ノ婦人カ砲彈ノ下地下室ニ於テ猶恤兵品ノ製作ヲ怠ラサルカ如キハ以テ報國ノ精神ノ熾烈ナル一端ヲ窺フニ足ラム

三 傷病兵ノ看護及慰問

開戦後各國ノ婦人ニシテ看護婦トナリ傷病兵ノ看護ニ從事セル者ハ夥シキ數ニ上リ殊ニ皇族ニシテ戰場ニ赴キ看護ニ當リ或ハ王宮ノ一部ヲ病院トナシ傷病兵ノ救護ヲ圖レルカ如キモノ少カラス特ニ英國ニ於テハ豫後療養ノ患者ヲ家庭ニ入レ十分ナル靜養ヲナシムルカ如キ篤志家頗ル多ク相競フテ之ニ當ルカ如キ景況ナリト云フ其ノ他慰問品ノ贈與、演藝會ノ開催等ニ依リ傷病兵ノ慰安ヲ圖ルコトモ尠カラス女

學生等カ教師指導ノ下ニ之ニ從事スルカ如キコトハ到ル處ニ於テ行ハレ優シキ婦人ノ看護及慰安ハ殺伐ナル戰場ニ馴レタル傷病兵ニ精神的大ナル慰安ヲ與ヘ治愈ヲ促進スルコト決シテ尠少ニアラサルヘシ瘡兵ノ救護ニ關スル各國婦人ノ活動モ亦見ルヘキモノアリ

★ 四 戰爭及婦人ノ活動ニ伴フ救護事業

戰爭ノ慘禍ハ個人ノ家庭ニモ波及シ救済ヲ要スル者續出シ戦局ノ擴大ト共ニ益其ノ數ヲ増加ス即チ出征者ノ家族、避難民及戰爭ニ因ル失業者等是ナリ其ノ他婦人カ家ヲ外ニシテ活動スルニ至リシ結果其ノ子女ノ養育意ノ如クナラス此ノ缺陷ヲモ救済スルノ必要ヲ生ス是ニ於テカ各國共篤志家又ハ婦人團體トシテ養育院、育兒院、托兒所等ヲ設ケ又ハ給食所ヲ設備シ以テ救護ニ遺憾ナカラムコトヲ期セリ然レトモ特ニ重要ナルモノハ是等ノ家族ニ生業ヲ與ヘ自活ノ道ヲ得セシムルニ在リ之カ爲職業ノ紹介ヲナスト共ニ恤兵品ノ製造等ニ從事セシメ救済ノ道ヲ講セリ此等ノ救護事業ハ國內ノ慘況ヲ除去シ舉國一致ノ實ヲ示スト共ニ戰場ニ在ル兵士ノ後顧ノ憂ヲ輕減シ專心奮闘セシムルニ與テ力アルモノト云フヘシ以上ノ外軍隊ノ款送、軍人ノ款待、出征セル子弟ノ激勵等ニ依リ軍隊志氣ノ振作ニ資スル所頗ル大ナルモノアリ即チ各國婦人ノ健實ナル精神ハ到ル處ニ於テ發揮セラレ其ノ偉大ナル努力ハ吾人ノ範トスルニ足ルモノ尠カラズ將來ノ戰爭ハ必ス婦人ノ活動ヲ要求シ之ニ對スル覺悟ノ大ニ必要ナルコトヲ語レルモノト云フヘシ

結 論

歐洲全土武裝ノ平和破レテ戦亂ノ巷ト化シ凡ソ兵役ニ堪フヘキ男性國民ハ悉ク兵器ヲ擁シテ起タサルモノナキニ至レリ是洵ニ世界史上ニ於ケル未曾有ノ大兵團ヲ現出セルモノナリ

此ノ大兵團ノ價值ハ實ニ國民ノ本性ニ因テ發揮セララルヤ論ヲ俟タス健全ナル教育ヲ受ケ規律ニ慣レ義勇奉公ノ念慮深キ國民ヨリ成レル軍隊ハ其ノ效果愈大ナルモノトス歐洲諸國カ開戦前後ニ於テ専ラ青年ノ教育ニ力ヲ致シタルハ眞ニ理アリト謂フヘシ
單ニ兵數ノ優勢ノミヲ以テ誇ト爲スコトヲ得ス戦鬪ノ勝敗ハ軍隊ノ精否ニ關スルコト頗ル大ナリ是平時ヨリシテ軍隊教育ニ深遠ノ考慮ヲ要スル所以ナリ加之開戦後直ニ生スル死傷者補充ノ爲多數ノ兵員ヲ要ス此ノ教育モ亦實ニ多大ノ盡力ナカルヘカラス

戦争ノ進捗ニ伴ヒ各國國民動員ノ方法ヲ採用セリ所謂國民動員トハ戦争遂行ニ最有效ナル如ク國民ヲ統一使用スルモノニシテ人員ノ配置ヲ適當ニシ國軍ノ戰鬥能力ヲ向上セムトスルニ外ナラサルナリ

兵數ノ増大ト戦争ノ持久トニ伴ヒ之ニ要スル兵器材料ノ數及其ノ補充多大ナリ是ニ於テ各國工業動員若ハ之ニ類似ノ方法ヲ採用セリ尙原料ノ蒐集ニ就テモ各國苦心ノ形迹ヲ認ムルモノ尠カラス

其ノ他戦争ノ開始ニ伴ヒ從來使用セラレタルコトナキ新兵器即チ五十二瓏巨砲、毒瓦斯、放射火焰等現出シ又必要上兵器ノ改良進歩ヲ促セルモノアリ例ヘハ機關銃、迫撃砲、装甲自動車、航空機ノ如キ是ナリ孰レモ慎重研究ノ價值ヲ有ス

動員集中、兵器彈藥糧食ノ追送、傷病兵ノ後送等共ニ從來ニ比シテ一層交通機關ノ完備ヲ要求ス此ノ交通ハ主トシテ鐵道、船舶ノ外自動車ニ依ル殊ニ陸上ニ於テ甲戰場ヨリ乙戰場ニ若ハ戰場ノ一部ヨリ他ノ一部ニ兵力ノ移動ヲ行ハムカ

爲ニハ多數自動車ノ準備及善ク編成セラレタル鐵道網ヲ必要トス

戰傷者ノ數亦兵員ノ増大ト兵器ノ進歩ニ伴ヒテ増加セリ其ノ周到ナル衛生勤務及熱心ナル看護ニ就テ研究ヲ要スルモノ頗ル多シ

四境ノ封鎖並潜水艇ノ商船擊沈ニ基キ彼我共ニ國民ノ給養ニ大ナル關係ヲ發生ス其ノ結果法令ヲ以テ口量及制式等ヲ限定スルニ至レリ是固ヨリ輕視スヘキ問題ニアラサルナリ

戰費ノ莫大ナルコト亦實ニ空前ニシテ世界ノ富ヲ擧ケテ戦争ニ從事シアリト評スルヲ得ヘシ而シテ之カ調達、正貨流出ノ防遏、紙幣發行等ニ就キ計畫シ實施セルモノ皆大ニ研鑽ノ資料タルモノトス蓋シ戰費ノ増大ハ決戰時機ノ遷延ニ基キ決戰時機ノ遷延ハ平時ノ準備ニ缺クル所アリ戰時ニ至リ其ノ整備訓練ニ長時間ヲ要シタルモノ其ノ主因タラスムハアラス

抑國家ノ生存ト戦争ト離ルヘカラサルコトハ固ヨリ有史以來ノ例證ニ依リ明ナリ開戰以前世界ノ平和論者ハ之ヲ論シテ戦争ハ文明國民ノ用ウヘカラサル陳套

ノ政略手段ナリ戦争ハ仲裁裁判法ニ依リテ其ノ危険ヲ減シ若ハ之ヲ除キ得ヘシト云ヘリ實ニ現戦争ハ此ノ種ノ所論ヲ否定ス若夫レ戦争ハ果シテ國家ノ生存ト離ルヘカラサルモノトセハ國家ハ戦争ノ覺悟ヲ要シ危険ノ時期ハ毎ニ到ルヘキモノト豫期シ殊ニ戰役ノ當初ニ於テ勝利ヲ博セムト欲セハ平時ヨリ之ニ要スル諸資料ノ準備供給等ノ考究ニ十分ノ力ヲ用キサルヘカラス